

医学部、歯学部、薬学部、看護学部等
を置く各国公私立大学長 殿

文部科学省高等教育局医学教育課長
俵 幸嗣
(公 印 省 略)

医学部、歯学部、薬学部、看護学部等における薬害問題に対する取組
状況調査結果について (通知)

文部科学省では、二度と薬害を繰り返さないためにも、各大学に対し、薬害の原因や実態はもとより、被害者やその家族に対する対応の歴史、差別や偏見などの人権問題も含め、充実した薬害防止に関する教育がなされるよう諸会議等を通じてお願いしているところです。

この度、毎年度実施している薬害問題に対する各大学の取組状況の調査結果を別添のとおり取りまとめましたのでお知らせします。

各大学におかれては、モデル・コア・カリキュラムも参考に医薬品等 (ワクチンを含む) の有効性や安全性に係る授業に加え、悲惨な薬害を繰り返さないためにも、学生だけでなく教職員を含め、薬害被害にあわれた方の意見・体験等を直接聞く機会を設けるとともに、医療倫理・人権学習等の授業や、複数回にわたり様々な薬害被害者の声を聞き、再発防止について議論をする授業等を積極的に実施されるよう御検討願います。特に、看護学部の授業や大学附属病院の職員研修において、実施率が伸び悩んでいるため、現在実施していない看護学部や医学部看護学科を持つ大学及び大学附属病院におかれては、積極的に実施されるよう御検討願います。

さらに、各大学附属病院におかれては、カルテ開示手数料及びコピー代の合理的な価格設定、診療明細書の原則全患者への無償発行、医療情報の共有に向けた取組等について、これまでも御尽力いただいているところではありますが、より一層推進していただくようお願いいたします。また、カルテ開示手数料及びコピー代の価格設定についての問合せがあった際には、設定理由を示すなど説明を十分に行うようお願いいたします。

【各担当】	高等教育局医学教育課
(医学・歯学部担当)	医学教育係 川口、佐藤、山崎
(薬学部担当)	薬学教育係 織内、門脇
(看護学部等担当)	看護教育係 高木、長澤、垣端
(附属病院担当)	大学病院支援室病院第一係 中山、瀧、澤幡
	TEL : 03-5253-4111 (内線3306)
	E-mail : (学部教育に関すること) igaku@mext. go. jp
	(附属病院に関すること) igabyoin@mext. go. jp

薬害問題に対する各大学の取組状況調査結果（令和5年度）

＜学部教育における取組状況＞

○薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（平成30年度～令和5年度）【総表】 …… 1

○医学部医学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【国立】 …… 2

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【公立】 …… 4

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【私立】 …… 5

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科） …… 7

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の
対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(医学部医学科) …… 10

○歯学部歯学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【国立】 …… 24

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【公立】 …… 25

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【私立】 …… 26

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科） …… 27

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の
対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(歯学部歯学科) …… 29

○看護学部等

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和5年度 看護学部等）【国立・公立・私立】 …… 34

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和5年度 看護学部等） …… 46

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の
対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(看護学部等) …… 55

○薬学部

薬害問題に対する各大学の取組状況（薬学部）【国立・公立・私立】 …… 82

薬害問題に対する各大学の取組状況（薬学部） …… 86

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の
対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(薬学部) …… 90

＜附属病院における取組状況＞

○カルテ開示請求の周知状況、医療情報の共有に向けた取組状況 …… 117

薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（総表）

学部 学科	設置区分 (R5の学部等数)	実施状況	1. 薬害被害について学ぶ授業						2. 薬害被害者の声を聞く授業（特別講義など）					
			H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
医学部 医学科	国立 (42)	実施している	42	42	42	42	42	42	33	32	29	30	31	31
		検討中	0	0	0	0	0	0	6	6	6	5	6	7
		実施していない	0	0	0	0	0	0	3	4	7	7	5	4
	公立 (8)	実施している	8	8	7	8	8	8	5	5	4	4	5	5
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	3	3
		実施していない	0	0	1	0	0	0	1	1	3	2	0	0
	私立 (31)	実施している	30	30	31	30	30	30	16	16	16	15	16	19
		検討中	1	1	0	0	0	0	6	7	7	6	7	4
		実施していない	0	0	0	1	1	1	9	8	8	10	8	8
	計 (81)	実施している	80	80	80	80	80	80	54	53	49	49	52	55
		検討中	1	1	0	0	0	0	14	15	14	13	16	14
		実施していない	0	0	1	1	1	1	13	13	18	19	13	12
歯学部 歯学科	国立 (11)	実施している	11	11	11	11	11	11	7	7	6	6	7	7
		検討中	0	0	0	0	0	0	4	3	3	3	3	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0
	公立 (1)	実施している	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	私立 (17)	実施している	17	17	17	17	17	17	11	11	10	10	10	10
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	4	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	3	3	4	4	3	3
	計 (29)	実施している	29	29	29	29	29	29	19	19	17	17	18	18
		検討中	0	0	0	0	0	0	7	6	6	6	7	8
		実施していない	0	0	0	0	0	0	3	4	6	6	4	3
看護 学部等	国立 (42)	実施している	40	39	39	40	40	40	27	26	22	25	24	24
		検討中	1	2	2	1	1	1	5	5	2	2	1	2
		実施していない	1	1	1	1	1	1	10	11	18	15	17	16
	公立 (52)	実施している	44	44	45	46	42	44	8	12	10	10	10	9
		検討中	3	4	3	3	3	4	14	16	17	18	14	17
		実施していない	2	2	2	1	6	3	27	22	23	22	27	25
	私立 (210)	実施している	154	160	165	166	172	171	34	40	33	39	40	50
		検討中	21	24	26	18	22	22	61	58	63	52	58	53
		実施していない	10	9	6	17	12	13	90	95	101	110	108	103
	計 (304)	実施している	238	243	249	252	254	255	69	78	65	74	74	83
		検討中	25	30	31	22	26	27	80	79	82	72	73	72
		実施していない	13	12	9	19	19	17	127	128	142	147	152	144
薬学部	国立 (14)	実施している	14	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	14
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
	公立 (5)	実施している	3	4	4	5	5	5	3	4	4	5	4	4
		検討中	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	私立 (60)	実施している	57	57	59	60	60	60	54	55	46	51	53	54
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	2	2	3	2	1
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	11	6	5	5
	計 (79)	実施している	74	75	77	79	79	79	71	73	63	69	70	72
		検討中	1	0	0	0	0	0	4	2	2	3	3	1
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	12	7	6	6

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【国立】

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道大学	○	検討中	衛生学、薬理学Ⅱ	
2	旭川医科大学	○	○	臨床実習序論、人間と行動（法学）	臨床実習序論
3	弘前大学	○	検討中	医療安全学	
4	東北大学	○	○	基礎医学特別講義、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、外科・麻酔・救急・輸血ブロック、医の倫理学・社会学	医の倫理学・社会学
5	秋田大学	○	検討中	生活習慣と臨床研究	
6	山形大学	○	○	社会医学・医療学	薬害に関する特別公演会
7	筑波大学	○	○	医学の基礎、医学総括、クリニカル・クラークシップ準備学習	クリニカル・クラークシップ準備学習
8	群馬大学	○	○	臨床薬理学総論	臨床薬理学総論
9	千葉大学	○	○	衛生学、薬理学総論、チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）
10	東京大学	○	検討中	輸血学実習、社会医学	
11	東京医科歯科大学	○	検討中	包括医療統合教育	
12	新潟大学	○	○	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	統合臨床医学コース（臨床医学入門）
13	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
14	金沢大学	○	○	臨床薬理学、薬理学	臨床薬理学医薬保健学基礎Ⅰ，Ⅱ
15	福井大学	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
16	山梨大学	○	○	臨床薬理学・薬剤学、薬理学	倫理学・プロフェッショナリズム
17	信州大学	○	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
18	岐阜大学	○	○	医学概論	医学概論
19	浜松医科大学	○	○	医学概論Ⅰ	医学概論Ⅰ
20	名古屋大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
21	三重大学	○	×	チュートリアル教育	

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
22	滋賀医科大学	○	○	薬物医療学、公衆衛生学	医学特論・医学・生命科学入門
23	京都大学	○	○	社会・環境・予防医学、病理学各論、薬理学	初年次プログラム（特別講義）「サリドマイド薬禍から学ぶ」
24	大阪大学	○	×	環境医学・公衆衛生学、現代の生命倫理・法・経済を考える	
25	神戸大学	○	○	初期体験臨床実習、薬理学/臨床薬理学	初期体験臨床実習
26	鳥取大学	○	検討中	治療学、社会環境医学、基礎薬理学、医学史	
27	島根大学	○	○	臨床薬理学「薬害について」	臨床薬理学「薬害について」
28	岡山大学	○	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
29	広島大学	○	○	社会医学、社会医学、社会医学	社会医学
30	山口大学	○	○	臨床薬理学、基盤系特別専門講義、医学史	基盤系特別専門講義
31	徳島大学	○	○	系統別病態診断、臨床実習入門、基礎医学(2)	臨床実習入門（共通）
32	香川大学	○	○	法医学	薬害被害者の声を直接聞く特別講義
33	愛媛大学	○	○	薬理学、皮膚科学、薬物治療・開発学、社会と医療	社会と医療
34	高知大学	○	○	臨床薬理学	大学基礎論
35	九州大学	○	○	薬害	薬害
36	佐賀大学	○	○	社会医学・社会法制	医療入門Ⅰ
37	長崎大学	○	○	消化器系、感染系、感染系	医と社Ⅲ
38	熊本大学	○	○	消化器内科学	消化器内科学
39	大分大学	○	○	皮膚、医療倫理学Ⅲ	医療倫理学Ⅲ
40	宮崎大学	○	×	薬剤処方学・東洋医学	
41	鹿児島大学	○	検討中	感覚・皮膚、呼吸器、社会医学・予防医学、地域・総合診療・症候	
42	琉球大学	○	×	臨床実習（皮膚科）、皮膚結合織系、臨床薬理学	

行っている	42	31
検討中	0	7
行っていない	0	4

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【公立】

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	札幌医科大学	○	○	薬理学、社会学	医学概論・医療総論 4
2	福島県立医科大学	○	○	薬害から学ぶ、医療入門 I 医療と社会 臨床倫理	医療入門 I 医療と社会 臨床倫理
3	横浜市立大学	○	検討中	消化器内科学、皮膚科学、アレルギー・膠原病学、薬理学	
4	名古屋市立大学	○	○	医薬看連携地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
5	京都府立医科大学	○	検討中	総合講義 医薬品の安全管理と安全使用、薬理学総論	
6	大阪公立大学	○	検討中	生体と薬物	
7	奈良県立医科大学	○	○	衛生学・公衆衛生学Ⅱ、薬理学、社会福祉と医療法規	VOP講座
8	和歌山県立医科大学	○	○	薬害問題、生体と薬物	薬害問題

行っている	8	5
検討中	0	3
行っていない	0	0

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【私立】

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	岩手医科大学	○	○	臨床薬理学、医療と法律、医療入門	全人的医療基礎講義
2	東北医科薬科大学	○	○	公衆衛生学、薬理学、医療薬学概論、早期医療体験学習	医療薬学概論
3	自治医科大学	○	検討中	臨床薬理学	
4	獨協医科大学	○	○	メディカル・プロフェッショナリズム I	メディカル・プロフェッショナリズム I
5	埼玉医科大学	○	○	診療の基本、薬理総論	ヒトの病気コース 消化器ユニット
6	国際医療福祉大学	○	○	医療プロフェッショナリズムⅢ	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）
7	杏林大学	○	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
8	慶應義塾大学	○	×	臨床薬剤学、薬理学	
9	順天堂大学	○	○	医学研究入門 I -薬害の歴史と研究開発について、感覚-6：局所麻酔薬、鎮痛薬、筋- 3：神経筋接合部、最先端生化学-4：生理活性脂質、自律神経-1：副交感神経系、自律神経-2：交感神経系、心臓・循環-11：不整脈の治療（薬理）、心臓・循環-12：心不全治療薬（薬理）、心臓・循環-13：虚血性心疾患治療薬（薬理）、生殖-3：生殖器系に働く薬物、統合機能- 5：全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、統合機能- 6：抗てんかん薬、薬物の耐性と依存、統合機能- 8：向精神薬、泌尿・体液-5：利尿薬（薬理）、泌尿・体液-9：抗高血圧薬（薬理）（統合講義）、薬理- 1：薬の作用、薬理- 2：薬物動力学の基礎、中毒-4：「法中毒学（1）」、中毒-1：「中毒学総論」、中毒-3：「急性中毒」、中毒-5：化学物質と社会-1、中毒-10：「法中毒学（2）」、中毒-7：化学物質と社会-3、中毒-9：化学物質と社会-4、臨床薬理学-3：消化器悪性腫瘍に対する化学療法への進歩、臨床薬理学-5：薬物相互作用、G2-麻酔 ^h の01麻酔総論、G2-麻酔 ^h の02全身麻酔と関連薬物、G2-麻酔 ^h の04区域麻酔、G3-腎臓04ネフローゼ症候群、G4-精神08器質性精神障害・物質関連障害、G4-精神03統合失調症・治療、G4-脳内16代謝性疾患、中毒性疾患、G8-漢方02漢方医学02、G8-救急01中毒・災害 1：中毒学総論、G9-臨床薬理01臨床薬理：主な薬剤の副作用とリスクベネフィット評価、G9-特別講義創薬研究-2薬害-2、救急-01「2次・3次救急患者の診察、治療」	G9-特別講義 薬害-1：薬害被害者の声を直接聞く授業
10	昭和大学	○	○	皮膚・運動器系の病態・診断・治療、地域医療入門	地域医療入門
11	帝京大学	○	×	医療法学・医療倫理学、薬理学、医療法学・医療倫理学の基礎	

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
12	東京医科大学	○	○	医療倫理、薬理学	医療倫理
13	東京慈恵会医科大学	○	○	医学総論Ⅱ演習	医学総論Ⅱ演習
14	東京女子医科大学	○	○	治療の基礎、「至誠と愛」の実践学修 医学教養 「薬害を考える」ワークショップ	「至誠と愛」の実践学修 医学教養「薬害を 考える」ワークショップ(対面講義)(予定)
15	東邦大学	○	○	薬理学、病態の科学実習Ⅱ（微生物学・薬理学）	全人的医療人教育Ⅰ 全人的医療人教育Ⅰ 全人的 医療人教育Ⅰ
16	日本大学	○	○	Pre.BSL社会医学（含実習）	Pre.BSL社会医学（含実習）
17	日本医科大学	○	○	消化器、呼吸器・感染・腫瘍・乳腺、薬理学、医事 法学、医事法学	医事法学
18	北里大学	○	○	内科学総論（臨床実習入門）	内科学総論（臨床実習入門）
19	聖マリアンナ医科大学	○	×	薬理学、薬理学	
20	東海大学	○	×	薬物性肝障害	
21	金沢医科大学	×	×		
22	愛知医科大学	○	検討中	薬理学	
23	藤田医科大学	○	×	法医学	
24	大阪医科薬科大学	○	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
25	関西医科大学	○	○	臨床実習入門 P4c	臨床実習入門 P4c
26	近畿大学	○	検討中	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	
27	兵庫医科大学	○	○	医療安全と薬害、医療安全と薬害、医療安全と薬 害、医療安全と薬害、医療安全と薬害、医療安全と 薬害、医療安全と薬害、医療安全と薬害、医療安全	医療安全と薬害、医療安全と薬害、医療安全 と薬害、医療安全と薬害
28	川崎医科大学	○	×	総合医学2、女性内分泌・妊娠、精神系、神経系、呼 吸器系、皮膚系、血液・造血器・リンパ系、臨床入 門	
29	久留米大学	○	検討中	薬理学Ⅱ、薬理学Ⅰ	
30	産業医科大学	○	○	医のプロフェッショナリズム、公衆衛生学、薬理 学、医療社会学	医のプロフェッショナリズム
31	福岡大学	○	×	公衆衛生学・法医学・セーフティマネジメント、 公衆衛生学	

行っている	30	19
検討中	0	4
行っていない	1	8

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）

大 学 名	①②両方	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名
北海道大学		衛生学	
旭川医科大学		人間と行動（法学）	
弘前大学			
東北大学	○	基礎医学特別講義、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、外科・麻酔・救急・輸血ブロック、医の倫理学・社会学	基礎医学特別講義、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、外科・麻酔・救急・輸血ブロック、医の倫理学・社会学
秋田大学	○	生活習慣と臨床研究	生活習慣と臨床研究
山形大学			
筑波大学	○	クリニカル・クラークシップ準備学習	クリニカル・クラークシップ準備学習
群馬大学	○	臨床薬理学総論	臨床薬理学総論
千葉大学	○	衛生学、薬理学総論、チーム医療 I（IPE I）ユニット	薬理学総論、チーム医療 I（IPE I）ユニット
東京大学		輸血学実習	
東京医科歯科大学			
新潟大学	○	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	統合臨床医学コース（臨床医学入門）
富山大学	○	医療学入門	医療学入門
金沢大学		臨床薬理学、薬理学	
福井大学	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	○	臨床薬理学・薬剤学	臨床薬理学・薬剤学
信州大学	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
岐阜大学	○	医学概論	医学概論
浜松医科大学	○	医学概論 I	医学概論 I
名古屋大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
三重大学		チュートリアル教育	
滋賀医科大学	○	薬物医療学、公衆衛生学	公衆衛生学
京都大学	○	社会・環境・予防医学、病理学各論、薬理学	社会・環境・予防医学、病理学各論、薬理学
大阪大学	○	環境医学・公衆衛生学、現代の生命倫理・法・経済を考える	現代の生命倫理・法・経済を考える
神戸大学	○	薬理学/臨床薬理学	初期体験臨床実習
鳥取大学	○	治療学、基礎薬理学、医学史	医学史
島根大学	○	臨床薬理学「薬害について」	臨床薬理学「薬害について」
岡山大学	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
広島大学	○	社会医学、社会医学、社会医学	社会医学、社会医学、社会医学
山口大学	○	臨床薬理学、基盤系特別専門講義、医学史	臨床薬理学、基盤系特別専門講義
徳島大学			
香川大学	○	法医学	法医学
愛媛大学	○	薬理学、薬物治療・開発学、社会と医療	薬理学、薬物治療・開発学、社会と医療
高知大学		臨床薬理学	
九州大学	○	薬害	薬害
佐賀大学			

大 学 名	①		②
	①②両方	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名
長崎大学	○	感染系、感染系	感染系
熊本大学	○	消化器内科学	消化器内科学
大分大学	○	皮膚、医療倫理学Ⅲ	医療倫理学Ⅲ
宮崎大学		薬剤処方学・東洋医学	
鹿児島大学		社会医学・予防医学、地域・総合診療・症候	
琉球大学		臨床実習（皮膚科）、皮膚結合織系、臨床薬理学	
小計(国立)	28大学	42大学中37大学	42大学中28大学
札幌医科大学	○	薬理学、社会学	薬理学、社会学
福島県立医科大学	○	薬害から学ぶ、医療入門Ⅰ 医療と社会 臨床倫理	薬害から学ぶ、医療入門Ⅰ 医療と社会 臨床倫理
横浜市立大学		薬理学	
名古屋市立大学	○	医薬看連携地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
京都府立医科大学			
大阪公立大学			
奈良県立医科大学	○	衛生学・公衆衛生学Ⅱ、薬理学、社会福祉と医療法規	衛生学・公衆衛生学Ⅱ、薬理学、社会福祉と医療法規
和歌山県立医科大学	○	薬害問題	薬害問題
小計(公立)	5大学	8大学中6大学	8大学中5大学
岩手医科大学	○	医療と法律、医療入門	医療入門
東北医科薬科大学	○	薬理学、医療薬学概論、早期医療体験学習	薬理学、早期医療体験学習
自治医科大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
獨協医科大学	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	
埼玉医科大学		診療の基本、薬理総論	
国際医療福祉大学	○	医療プロフェッショナリズムⅢ	
杏林大学	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
慶應義塾大学	○	臨床薬剤学、薬理学	薬理学
順天堂大学	○	医学研究入門Ⅰ-薬害の歴史と研究開発について、薬理-1:薬の作用、臨床薬理学-5:薬物相互作用、G9-臨床薬理01臨床薬理:主な薬剤の副作用とリスクベネフィット評価、G9-特別講義創薬研究-2薬害-2	薬理-1:薬の作用
昭和大学	○	皮膚・運動器系の病態・診断・治療、地域医療入門	皮膚・運動器系の病態・診断・治療、地域医療入門
帝京大学	○	医療法学・医療倫理学、薬理学、医療法学・医療倫理学の基礎	医療法学・医療倫理学、薬理学、医療法学・医療倫理学の基礎
東京医科大学	○	医療倫理、薬理学	医療倫理、薬理学
東京慈恵会医科大学	○	医学総論Ⅱ演習	医学総論Ⅱ演習
東京女子医科大学	○	治療の基礎、「至誠と愛」の実践学修	治療の基礎、「至誠と愛」の実践学修 医学教養「薬害を考える」ワークショップ
東邦大学		病態の科学実習Ⅱ（微生物学・薬理学）	
日本大学	○	Pre.BSL社会医学（含実習）	Pre.BSL社会医学（含実習）

大学名	①②両方	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名
日本医科大学	○	薬理学、医事法学、医事法学	薬理学、医事法学
北里大学	○	内科学総論（臨床実習入門）	内科学総論（臨床実習入門）
聖マリア医科大学			
東海大学	○	薬物性肝障害	薬物性肝障害
金沢医科大学			
愛知医科大学		薬理学	
藤田医科大学			
大阪医科大学	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
関西医科大学	○	臨床実習入門 P4c	臨床実習入門 P4c
近畿大学	○	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	医学からみた現代社会と倫理
兵庫医科大学	○	医療安全と薬害	医療安全と薬害
川崎医科大学	○	女性内分泌・妊娠、血液・造血器・リンパ系、臨床入門	血液・造血器・リンパ系、臨床入門
久留米大学		薬理学Ⅱ、薬理学Ⅰ	
産業医科大学	○	医のプロフェッショナリズム、公衆衛生学、薬理学、医療社会学	医のプロフェッショナリズム、公衆衛生学、薬理学、医療社会学
福岡大学			
小計(私立)	23大学	31大学中27大学	31大学中21大学
合計(国公私立)	56大学	81大学中70大学	81大学中54大学

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況 (医学部医学科)

▼実施学部：81学部55学部

大学名	授業科目名称 (特別講義名称)又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
旭川医科大学	臨床実習序論	4年次	本人	未定(調整中)	薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の医療安全への意識を高めることができる。	講演前よりも薬害について真剣に考えるようになった。	複数実施していない。
東北大学	医の倫理学・社会学	3年次	本人	薬害HIV	被害当事者の視点からその時々を経験を交えて講義されたため、単なる知識の習得だけにとどまらない、より印象に残る講義を展開することができた。また当事者運動と同時に薬事行政にも関わってこられた方のため、比較的多角的な視点から薬害を考察する視点を提示していただいた。さらに、昨今の薬事承認制度の変更(緊急承認制度新設など)による臨床上の課題といった実践的課題についても提示していただいた。	講義に関するレポート課題で、提出されたレポートを確認したところ、概ね重要と思われる点について正確に理解がなされていた。	薬害HIV事件について主に講義していただいたが、スモンやサリドマイドなど他の薬害事件を簡単に取り上げつつ現在に至る薬事行政について講義をされたため、現在の制度について歴史的な脈をふまえて理解することができると思われる。
山形大学	薬害に関する特別公演会	3年次(医学科) 4年次(看護学科)	本人	未定	被害者の直接の声を聞くことで、安全確保の重要性を強く理解することができる。	普段接する機会のない患者様から直接話をきくことで、薬害について理解し、医師という職業について改めて考える良い機会となっている。	特になし。
筑波大学	クリニカル・クラークシップ準備学習	4年次	本人	薬害C型肝炎	薬害被害者から、直接薬害による苦痛(身体的・精神的・社会的)を聞くことができるので、インパクトが強い。学生が今後このような場面に直面することがあるため、将来医師として、責任意識を強く持つことができる。	薬害とは何か。ということからすごく分かりやすく教えてくださった。今まで「薬害とは薬を服用したことによる有害事象」を指すものだと思っていたのだが、重大な副作用の隠蔽等の「人災」によるものなんだと思った。「病気を診ずして病人を診よ」とは言われるが、医師に必要なことは技術・知識だけではないと思う。しっかりと患者に向き合い、寄り添うことのできるような医師になりたいと思う。	複数の種類の薬害については実施していない

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
群馬大学	臨床薬理学総論	3年次	本人	サリドマイド事件	医薬品使用のリスクについての意識が変わり、医師として副作用等へ取り組むことについてプロフェッショナルリズムを考える機会になると思われる。	実体験の話に強い印象を受ける学生が多い。医師としての責務について改めて考え直す機会になっている様子。	該当しない
千葉大学	チーム医療 I (IPE I)	1年次	本人	サリドマイド	専門職連携教育において薬害が生じていく社会的ダイナミクスを、各職種の(学生の)立場から考察することができる。将来現場で薬害の危険が予測されたとき、専門職としてのふるまい方を考察できる。	薬害が発生するに至った社会的状況、問題となった点、薬害発症による本人や家族への影響などが具体的に理解できた。実際に被害者の方のお話しを間近で伺い、医療従事者は常に患者の立場で考えるということの重要性を再確認した。	
新潟大学	統合臨床医学コース (臨床医学入門)	3年次	本人	血友病薬害	薬物治療には副作用という負の側面が存在し、過去にも薬害という形でたびたび問題となっている。実際に薬害の被害に会われた患者の声を直接聞くことにより、なぜこのような事態が起きたのか、再発をどうすれば防げるのか、学生自身の医学への取り組みを見つめ直す機会となる。	「何かを勉強するにあたって、実際に現地に赴くことや、当事者の話を聞くことができるのは、一番の勉強であるし、貴重なものでした。薬害被害の事実だけでなく、これからの医療を担う自分たちに向けて、望む医師のあるべき姿を聞いて、大変参考になりました。」 「今はまだ臨床の現場にあまり関与していないため、医学の勉強をする上で病気について、文字での情報で知ることはあっても実際に病気にかかっている人の苦悩、さらに薬物被害の被害者となられた患者さんの苦しみを直接知り、また、想像するようなことがありませんでした。講師の先生の実体験をもとに話された薬物被害の講義は、今まで考えていなかった薬物被害に遭われた患者さんの感情、不安、差別などを考えるいい機会となりました。本講義を経て、医療行為により患者さんに不利益が生じないためにも医療関連の職種で協力していくことで未然に薬物被害を抑えていく社会となること、また現 薬物被害に遭われた方々の苦しみを理解し、生きていきやすいより良い社会となることを願うとともに、自分自身でもできることは、たとえ小さなことであつたとしてもやっていきたいと思いました。薬物被害に対して、深く考える機会をくれる実体験をもとにした講義をしてくださりありがとうございました。」以上に、代表されるように、授業を受けた全学生が講師の心に共感し、学生自身の医学への向き合い方を考え直す良い機会になっている。	実施しておりません。

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 5) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	肯定的に評価できるものである。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解している。	初學者のうちに、多面的な角度から薬害について、学び考えることができるのは、これから専門教育を受ける上での礎となることが期待できる。
金沢大学	臨床薬理学	3～4年次	家族	イレッサ	学生に医療・薬物療法・副作用など、より考えるきっかけを与えることに繋がり、学習効果が高まる。	実施前であるため特になし	なし
	医薬保健学基礎 I, II	1年次	本人	サリドマイド			
福井大学	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマイド	被害者の体験談を直接聞くことによって、薬害の原因、実態、被害者やその家族に対する対応の歴史、偏見等の人権問題等について具体的に知ることができ、医療従事者として薬害問題にどう向き合うのか考察する機会を得ることができる。	「レンツ警告があっても日本ではサリドマイド薬の販売・製造を中止しなかったことに驚いた。」「講義を聞いてすごく胸が痛みました。」「実際の薬害の被害に遭われた方の話を本人から聞けるとても貴重な機会でした。」等、薬害発生の経緯や被害者について思いを馳せる意見が多く寄せられた。	該当なし
山梨大学	倫理学・プロフェッショナルリズム	3年次	本人	AHF製剤による非A非B型肝炎(C型肝炎)感染。輸入血液製剤によるHIV感染。	基本的な事柄を授業で学んだ上で当事者の声を聞くことにより、理解を深めることができる。	当事者の声を聞くことにより、薬害についてより関心を持つことができ、医療者を目指す者としては授業の内容をより深く理解していきたいと思ったなどの意見、感想があった。	複数の種類の薬害について実施していない

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
信州大学	臨床実習前集中講義	4年次	本人	C型肝炎	・二度と同じ過ちを繰り返さないために、医学生が単なる過去の出来事(他人事)として捉えるのではなく、どうして被害が出てしまったのか、どうすれば防げたのか、そこに自分がいたら何ができただろうか等を自分事として捉えることができる良い機会であること。 ・被害者から直接話を聞くことによって被害者の痛みや苦しみ、思いを知ることができ、二度とこのような被害者を出さないためにどのように医療に向き合っていくのかを考える良い機会であること。	現時点では未実施のため、回答不可。	実施していない。
岐阜大学	医学概論	1年次	本人	AHF製剤、輸入血液製剤	薬害被害の歴史、被害者や家族の心情を将来医療従事者となる学生達に理解させるため。	初めて薬害というものに触れる学生が多く、実体験を聞くことで今後の医療従事者となる自身の糧にすることが出来ている。	本学では実施していない。
浜松医科大学	医学概論 I	1年次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、医師となるうえでの心構えを学ぶ機会となった。実際に受けた差別や偏見がどのようなものか実感できた。	私たちが目指す医療者は、このような歴史を振り返り、そこでの教訓を忘れないこと、薬について正しい知識をもち、患者に薬について十分な説明をしたうえで、患者が自分の治療を自由に選択できるような関わり・支援を大切にすることが必要であると思いました。	今年は、HIV薬害で有り、今まではワクチンや肝炎についても被害者をお招きしてお話を聞いてきた。一度に多くの方からお話を聞く機会はあまりなく、いろいろな被害があることを認識するためには効果的かもしれない。
名古屋大学	臨床薬理学	4年次	本人	薬害肝炎	記載なし	記載なし	記載なし

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
滋賀医科大学	医学特論・医学・生命科学入門	1年次	本人	血友病患者への血液製剤による薬害	医学部医学科入学初年次の学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、日常生活を送るうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会は少ない。しかしながら、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生は薬害被害の問題について自ら考える機会を得ることができ、将来医師として医療に携わることを想定すると有意義である。	例年、後期に当該特別講義を実施するため、令和5年度は未実施であるが、参考までに昨年度の特別講義後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指す者としての自覚が深まった」、「被害者の方への意識を持つことの重要性を認識できた」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解している。	特になし。
京都大学	初年次プログラム(特別講義)「サリドマイド薬禍から学ぶ」	1年次	本人	サリドマイド	被害者本人が薬害によって強いられた自分や家族の人生・生活について直接話を聞くことにより、学生には、医療行為がもたらす可能性のある被害について、心に刻む機会になると思われる。	学生たちは、被害者の話を真面目な態度で熱心に聴いていた。学生からは、薬害による影響の大きさとその要因が人災であることを知り、医療従事者としての立場や責任を強く感じたとの感想が多く見られた。また多くの学生が、大変貴重な授業であったと評価している。	なし
神戸大学	初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド薬害	学生に医療行為の危険性を教えることができる。学生が将来行うであろう医療行為における責任の重さが認識できる。	サリドマイドのような薬害事件は知識や対策が不十分だった過去の過ちという認識だったが、新しい薬や治療法が生み出されている現在においていつ起こってもおかしくない身近なものだと分かった。	
島根大学	臨床薬理学「薬害について」	3年次	本人	HIV薬害	将来医療人として活動していく学生に薬害をより知ってもらうことができる点。(学生で言葉だけ知っていても内容まで詳しく知らない子が多い。被害者の方の苦しみを生の声で聞く事の重要性は大きい)	よく知らなかった、ショックだった、なぜ悲劇が繰り返されるのかといった意見が多い。また、自分はそのようなことをしないように常に心掛けていきたいといった意見も多かった。必要であれば別紙添付は可能。(今年度はまだ実施していないので昨年度のもの)	当該科目では複数種類は行っていない。歴史の中で演者の方が他の薬害についても述べられるため

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
岡山大学	脳神経系(臓器・系別統合講義)	4年次	本人	スモン	患者さんの生の声を聞くことで風化防止となる。薬を処方する医師として自分事としてとらえることができる。	スモンについて初めて学んだという学生が大半。処方の際の医師の慎重な判断が必要であることを強く感じたなど。	なし
広島大学	社会医学	3年次	本人	薬害HIV感染、血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染、輸血による感染、など・	学生が医療の被害者となった患者の声を直接聞くことができ、より身近な問題として考えることができる。	自分が将来医者になった時を想定して、興味を持って聞いているように思う。	フィブリノーゲン、サリドマイド、肝炎など、複数の薬害の講義を行っており、学生にとってより多角的に考えることができる。
山口大学	基盤系特別専門講義	3年次	本人	MMR(新3種混合ワクチン)	薬害の歴史を具体的に知ることができ、学生にとってよい考える機会となっている。	学生からは薬害の被害について真摯に受け止め、医療人として正しい知識を身につけて被害を減らしていきたいという積極的な意見が多くみられた。	毎年、異なる薬害被害のご本人にご講義を頂いており、学生は、講師の方との質疑応答も含め、ご当事者の思いを傾聴する姿勢や薬剤のさまざまな作用、さらに薬害に係る国の救済制度等への認識を深めている。
徳島大学	臨床実習入門(共通)	4年次	本人	B型肝炎	薬害被害者自身から話を聞くことによって、薬害の実態やその背景についてより深く考えることができる。	「正しい知識を身に付け、正しく発信していくことの重要性を感じた」「患者さんの背景をしっかりと理解し、常に誠実に、行う医療行為・発する言葉に責任感を持って接することが必要であると改めて学んだ」など医療人としての自覚が高まった。	薬害の発生ゲインや被害状況は様々であり、それぞれに対してきめ細やかな対策が必要であることを学生が気づくことができる。
香川大学	薬害被害者の声を直接聞く特別講義	5年次,6年次	本人	サリドマイド	薬害被害者本人の声を直接聞くことは、教科書的な講義とは異なるインパクトを与えることができる。また、近い将来医師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会となる。	・当時の時代背景を絡めた話はとてもリアリティがあり、生の声を聞くことができたのは大変貴重な機会となった。・薬害の原因が薬ではなく人であるという言葉はとても印象に残る言葉で、薬害についてよく考える機会となった。・薬害や障害のある方への声のかけ方や接し方についても学ぶことが良かった。・実習や国試の勉強に忙しくしていたが、はっと気づいて頭をあげたような、何かに気づいたような、そういう授業だった。	5年次と6年次において、事例の異なる薬害の特別講義を受講することにより、より理解が深まるとともに、繰り返し聞かせることで薬害防止への意識を高めることができる。

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
愛媛大学	社会と医療	3年次	本人	予防ワクチンによる B型肝炎	薬害肝炎、B型肝炎感染者の生の声を聞くことで、その実態を具体的に把握してもらい良い機会となった。また、感染当時に医師より言われた一言に傷ついた体験、また精神的に救われた医師の一言、肝細胞がんの治療での様々な社会的負担、などの体験を語っていただき、将来医師になる学生にとって、実際の診療において患者さんの気持ちを考える必要性について理解する良い機会となる。(社会と医療)	授業終了後に学生にアンケートを実施し、「今まで患者さんの声を直に聞く機会が無かったので、良かった」、「将来医師を目指す人間として、貴重な経験になった」などの感想が寄せられ、反響の大きさを感じた。(社会と医療)	C型肝炎の血液製剤など、薬そのものの健康被害の他、B型肝炎のように薬は問題なくても投与方法などによる集団感染など、様々な薬害があることを知ること、薬害に配慮することと対応することの複雑さを理解できる。(社会と医療)
高知大学	大学基礎論	1年次	本人	陣痛促進剤	実際の薬害被害者の話を聞くことにより医療者としての責任意識を強く自覚できるようになること。	講演後のアンケートでは、医療者としての意識に変化があったという回答及びこのような機会を設けるべきであるという意見が多数であった。	
九州大学	薬害	4年次	本人	薬害エイズ、サリドマイド、薬害ヤコブ病、薬害C型肝炎	被害者本人の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞く事によって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の声を聞いてよかったという声が多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、見識をより広めることができる。
佐賀大学	医療入門 I	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害を受けた方からの視点や立場からの講演を行っていただくことにより、広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めるとともに、薬害被害の現状に接することができる。	薬害についてあまり詳しく知らなかったため、私たちの身近に薬害があることに恐怖を感じた。実際に薬害被害者の方の講演を聞くことができ、考えが広まった。“薬害”があることは知っていたが、どのような薬、症状が出るかは分かっていなかった。薬害は正しい知識を身につけることで防ぐことができるので、これから被害者を増やさないためにも薬害について教育をするべきであると感じた。	該当なし
長崎大学	医と社Ⅲ	3年次	本人	サリドマイド	医療職ではない立場の人から見た場合の哲学・倫理・社会観から提起される問題について学生が考えること。	サリドマイド薬害の被害者を講師として招聘し、講師を行っていただいているが、講義後に複数の学生から個別に講師に質問する、さらに話を伺うなど学生に薬害をより身近に考える機会として機能を果たしていると考えられる。	

大学名	授業科目名称 (特別講義名称)又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
熊本大学	消化器内科学	3年次	本人	B型肝炎	B型肝炎患者さんの実際の体験談を聞くことができ、患者さんの苦労や社会に存在する差別などを学生にも伝えることができた。	B型肝炎患者さんの苦悩や努力を知ることができた。法律に基づいたB型肝炎訴訟について知ることができた。社会に存在する差別について知ることができ、今後の対応が重要なことがわかった。	薬害という言葉が適切かどうかはわかりませんが、それぞれ異なる社会背景があるかと思しますので、正確に伝える必要がある。すなわち、当時のメリットとデメリットがあった点は重要である。
大分大学	医療倫理学Ⅲ	2年次	本人	大腿四頭筋短縮症	直接被害者の語りを聞くことで、生活、人生に及ぼす影響の大きさを学生が実感できる	薬害の理解が深まったとする感想が多い	
札幌医科大学	医学概論・医療総論4	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の生の声を聴き、副作用被害の結果としての身体的特徴を目の当たりにすることにより、薬害の深刻さが直接学生に伝わる。また、講師の増山ゆかり氏は、サリドマイド以外の薬害の歴史や薬事政策の変遷についても詳しく、薬害に関する基礎から実際の被害まで体系的な知識を得る貴重な機会となっている。	学生は初めて見る薬害被害者の姿に衝撃を受けている。また、薬害は二度と起こしてはならないという自覚を得る格好の機会となっている。	複数の薬害を取り上げることにより、薬害を引き起こす製薬過程、薬事行政過程に潜む原因・問題点に視点を掘り下げた考察をすることができる。
福島県立医科大学	医療入門Ⅰ 医療と社会 臨床倫理	4年次	本人	薬害エイズ	薬害被害者とその家族のお話を直接伺うことにより、受講者に薬害被害の実態について理解を深めてもらえること。医師として、薬害被害をうけた患者にどのように向き合うのかをかんがえさせる事業をしていただけること。	感想を記した学生のレポートには、「医療を行う者は、常に論文や最新の知見を取り入れて医療を提供すべきであると感じた」、「無知、正しい知識を持っていないことが差別や偏見を生むのだということを知り、将来医療従事者になる者として、正しい知識をしっかりと身につけるよう努力したいと思った」、「薬害や医療過誤などに直面した時に、目の前の患者さんに背を向けるのではなく、共に歩いていく覚悟を持てる医師になろうと思う」、「薬害被害者の方にとって、家族の献身的なサポートが大切であることを実感したので、患者も家族も支えられるような人間的な医師でありたいと思う」、「講義を聴いている中で、いろいろな思いがこみ上げてきて、涙が出そうになりました。憤りであったり、無力感であったり、悔しさであったり、これから先の責任の大きさがのしかかってきたりと本当に様々な思いでした。今日のお話を胸に刻んで、私は医師として正しく生きていきたいです」などと記されていた。	複数種類は実施していない。

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
名古屋市立大学	医薬看連携地域参加型学習	1年次	本人	薬害エイズ	実際の被害者の方から当事者としてのお話を伺うことができる。入学後早い段階で行われるため、医療人となる上での基礎の基礎の段階で話を伺っているため、印象が強く残る傾向があると考えられる。	差別はあってはならない、苦しんでいる人を支える立派な医療者になりたい、など。	複数の種類についての授業は実施していない。
奈良県立医科大学	VOP講座	2年次	家族	陣痛促進剤	患者家族の意見から医師の対応の方法について学ぶことができる。	患者の声を直接聞くことで通常の授業だけでは得られない医療人として大切なことを学ぶことができたという反応が多い。	
和歌山県立医科大学	薬害問題	6年次	家族	陣痛促進剤	・過去の薬害について、患者の視点に立った授業を展開することができた・よりよい医療者となるための動機付けの一助となった・患者と向き合うにあたって、医師と患者間のコミュニケーションが重要であることを示唆することができた・座学とは異なった視点で考える器官を得ることができた	・医療案線の重要性を再認識できた・患者のことを第一に考えて、寄り添う医療を目指したい・患者の視点に立った授業は新鮮であった・患者にしっかり説明して、医療を行っていききたい・医療者は正しい知識を患者に提供した上で、患者が選択した治療を実施することが大事である・薬害のことを知らない、加害者になるだけでなく、被害者にもなり得る・医療者が薬について、よく理解することが、薬害の防止につながる・どんなときも患者のことを第一に考えて、治療を行う医師になりたい・医師、医療者として持つべき学問的良心・職業的良心について教えていただき、勉強になった・薬は使う人への使い方が変わるということがわかった	薬害の授業を実施することにより、薬害はそれぞれの時代的背景や課題・問題点などが異なるため、しっかりとした説明が必要となるが、よりよき医療人となるための礎とすることができる
岩手医科大学	全人的医療基礎講義	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズの被害者の実体験を直接聞くことができる。	未成年者として初の日本人HIV感染者として実名を公表し、実際に活動をされている方の生の声を聴くことによって、学生もより身近に薬害を考えることができたとの意見が多かった。また、将来、自分たちが担う医療人として、医療とその周辺にある諸問題への関わり方について考える契機として意味のある講義であるとの意見が多い。	
東北医科薬科大学	医療薬学概論	3年次	家族	MMRワクチン	被害者本人やご家族から直接話を伺うことで、結果の重大性や被害者に寄り添う意味などを自然と理解できる。	講義に対する学生の感想は、被害の重大さに対するショックや自身が医師となった場合の決意に対するものが多く、講義意図に沿ったものがほとんどであった。	

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
獨協医科大学	メディカル・プロフェッショナルリズムⅠ	1年次	本人	サリドマイド事件	薬害訴訟は我々にどのような課題を提起しているのか、薬害被害に遭われた当事者の方をゲスト・スピーカーにお迎えすることで、お話を伺いながらじっくり考えることができる。	11月に実施予定のため、回答不可。	現在、検証中。
埼玉医科大学	ヒトの病気コース 消化器ユニット	3年次	本人	未定	薬害訴訟の経緯等を、患者さん自らお話しすることで、薬害が身近な問題であることを理解できる	昨年度は遠隔授業のため確認が難しい	過去の薬害に対する意識が高まる
国際医療福祉大学	医療プロフェッショナリズムⅢ (発展)	3年次	家族	陣痛促進剤被害	本学では医療事故被害についても当事者より実際にあったことを事故があったときを再現するように、その時どのような気持ちでいたかも含めて生々しくお話していただいているが、学生は実際にあったことを目の当たりにすることで、自分事として考える機会になり、より共感することができている。また、講師の方が自分自身の薬害のみならず、日本における薬害の歴史や位置づけ、問題点など幅広い視点でお話しするので、知識としても整理された理解ができる。	授業中もディスカッション時間を確保し、問題点を考えさせるようにしたり、授業後に講師の先生に授業を受けて何を学んだかを御礼状として書くことを必須としており、それをすることで、単にいい話を聞いたということでは終わらせず、理解を深めることになっている。学生は真摯に授業を受け、事故について痛ましく共感するとともに、その後の医療事故当事者としての社会との闘いに大変感銘し、自らはそのような医師にならないようにすると誓っている。	上記のように当事者から講義をしていただく薬害としてはこの授業だけはあるが、事故当事者にも授業を担当いただいたり、患者さんでかつ医師である方に授業を受け持ってもらったりすることで、当事者より授業を受ける機会を多く設けている。単に講師が授業するよりも印象に残り、心を揺さぶる授業になっており、記憶への定着にもなっている。
杏林大学	生命倫理と医療安全	1年次	本人	サリドマイド薬禍、HIV血液製剤被害(薬害エイズ)、子宮収縮薬(陣痛促進剤)乱用、その他	薬害被害者の持っていきようのない怒り・悔しさや悲しみの声を直に聞くことで、薬禍および反医療行為の重大性を学生に実感してもらえる。過去の薬害事件の教訓が、社会の仕組みや薬事制度を改善してきた現状を考えるよい機会となる。	特になし	毎年薬害被害者1人のみに講演していただいております。学年ごとに複数の効果は比較できないが、学生からはインパクトのある講義だったとの声を聞いている。

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
順天堂大学	G9-特別講義 薬害-1: 薬害被害者の声を直接聞く授業	4年次	本人	薬害エイズ	被害者から直接その体験と当時の社会情勢を聞くことにより、過去の出来事ではなく、将来の医療者、医学研究者として常に意識しておくべきものであることを理解する機会になったと思われる。	・いかに数々の人の人生に大きな影響を及ぼすのかを改めて自覚しました。研究開発の段階で細心の注意を払い、これから同じような思いをする方をなくしていくことの重要性を感じることができました。・薬害は起こさないことは勿論のことだが、起きた際にどのような対応を取っていくのかも大切なことだと感じた。・医学の進歩や研究開発の重要性を改めて認識しました。医療の安全性や品質管理の重要性、情報の適切な伝達など、医師としての責任を深く感じる事ができました。	該当しない
昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を書くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	今年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。「医薬品は病を治すという点がかかりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットとももっと向き合っていかなければならないなと改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	特にございません。
東京医科大学	医療倫理	3年次	本人	薬害エイズ	被害者側の心情やその後の経緯にも具体的に触れていただくことで、学生たちが薬害というものを一過的な「事件」としてではなく、いまでもつづく継続性を持った「問題」として捉えることができているように感じる。	講義で十分に触れられなかった事象を自ら調べ、感想やコメントに記載している学生も見られる。また、授業内容から薬害防止における医師の役割を考える学生も多い。	回答なし
東京慈恵会医科大学	医学総論Ⅱ演習	2年次	本人	薬害肝炎	医原性疾患、医師の治療で薬害が発生することを知ること、およびC型肝炎が長期にわたって患者の生活に大きな影響を与えることを実感する	医療現場での差別・偏見が多いことを知った、医師として心に留めておくべきことを多く知った。	医療が原因で病者を作ってしまうことを考え始めている

大学名	授業科目名称 (特別講義名称)又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
東京女子医科大学	「至誠と愛」の実践学修 医学教養 「薬害を考える」ワークショップ(対面講義)(予定)	3年次	家族	イレッサ薬害	当該授業は薬害被害者の家族を交え、多職種でのワークショップ形式を取り入れている。薬害を二度と繰り返さないためには自らが医療従事者としてどのようにすればよいのか、患者や家族との信頼関係をどのように築いていくのかなどについて医学生、薬学生がともに考えることを目的としている。薬害被害者の家族の話を通じて、同様の背景にある患者の治療に関わるというシチュエーションを設定しており、医療現場においてどのようにすべきかを自発的に考える中で、被害者家族の声があるからこそと思える意見が多く出されており、自らの医療人としての使命を強く意識させることができた。	代表的な感想として以下のようなレポートが提出されている; 学生A:実際に被害に遭われた方のご遺族のお話を聞き、薬に対しての知識は少しでも多く知っておく必要があると思いました。なぜなら、周りをもっと知識を持っていれば、危険を最小限にできるからです。本人はもちろん、周りの家族も苦しんだと感じました。お話を聞き、二度と同じような苦しみを出してはいけなかったと思います。これから医療従事者として医療に関わる者として、今回の学びを忘れないようにしたいです。 学生B:座学で薬害の事象などは学んでいましたが、実際に被害に遭われた方のご家族からお話を聞くことで、より強く、薬害被害は起こしてはならないと思いました。被害に遭われた患者さんはもう亡くなってしまわれましたが、その方のために私たちができることは今後の医療でこういった薬害の被害に遭う患者さんを少しでも減らすことだと思います。看護師、薬剤師、そのほかの医療従事者との連携を大事にし、患者さんの家族とも信頼関係を築いてどんな小さなことでも話をしやすい環境を作る姿勢も必要だと思いました。患者とその家族に寄り添い、患者さんのことを一番に考えた医療を提供できる医師にならなければいけない、と、本当に強く思いました。	複数の薬害については授業の実施なし
東邦大学	全人的医療人教育 I	1年次	本人	未定	学生が直接被害者の話を聴くことで、薬害を他人事ではなく、過去のものでもなく、これから医療者になる自分に強く関係するものだと理解できる。また、患者-医療者関係を考えるきっかけとなり、医療者が正しい知識と態度を身につけることの重要性に気づく。	以下のような意見が学生から寄せられた。「事前学修や講演を通して、その正しい知識や患者さんの壮絶な体験を知るとともに、医療従事者によって差別や偏見が生まれたり、患者さんに大きな不利益が生じたりしていることを知ることができた。」「薬害が起きたことを風化させずに教訓とすることで、今後このようなことを絶対に起こさないようにしなければいけない」「講演前の事前学習を経て知識を得ることはできたが、それでもどこか昔に起きた出来事で現在の我々にはあまり関係ないのではないかとどこか他人事のように思っていた。しかし、ご講演を聞いて、薬害が起きた背景や被害者の方々がどのような苦しみを受けたかなどのいわゆる、生の声を聞くことで、断じて人ごと、昔の人の問題などではないという考えが変わった」	薬害と一口に言っても、それぞれの薬害に固有の事情や問題などがある。複数の薬害について学ぶことで、薬害をより多面的・立体的にとらえ、理解できる。

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
日本大学	Pre.BSL社会医学 (含実習)	4年次	本人	サリドマイド	薬害当事者の実態を通じて、単なる副反応による被害ではないことを強調されている。	教科書で学んだ薬害の被害を現時のものとしてとらえられている。	薬害は繰り返し起こることが理解できる。
日本医科大学	医事法学口	2年次	本人	サリドマイド	実際の被害者の声を聴くことで、薬害の実態の一端を実感できる。また、悲惨な状況を聞くことで同じ過ちを二度と起こさないという倫理観が学修できる。さらに、弁護士の先生とともに一緒に授業を行い、可能な限り学生との意見交換、議論を行っている。	例年、「講師の前向きな人生観に感動する。」「薬害の加害者となりうる医師の責任の重さを認識した。」「薬害が繰り返されないよう、高い意識を持って常に新しい知識を取り入れ、それらの情報を多面的に分析、判断ができる医師にならなくてはならない。」等の感想が寄せられている。	薬害被害者の生の声を聴ける講義はこれだけであるが、誤用、誤薬などによる医療事故の事例を通じて、過去の薬害がいかに起こったのか、種々の訴訟を通じて、医療を取り巻く種々の問題点を理解できる。
北里大学	内科学総論(臨床実習入門)	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者から直接お話を聞くことができる。その人自身が、何を考え、どう思っているかを知ることができる。	・薬害は人災であるという言葉が印象に残った。"良心"を失わないように、声をあげていけるように、今回のお話を心に留めておきたい。・実際の患者さんがどのような思いで生きてきたかということが座学の勉強よりも身に染みてわかった。自分になろうとしている職業の責任の重さを改めて理解できた。・今まで勉強する中で1つの歴史上の出来事として認識してしまっている所があったが、今回お話を聞く中であらためていかなる薬害にも被害者の方がおり、その人生があるということに気づくことができた。・たくさんの方が心に残ったのですが、特に、お母さんが亡くなる間際まで謝っていた話が印象的でした。薬害の被害は患者本人だけでなく、周囲にも影響があり、さらにそれが想像以上に大きなものだ実感することができました。	実施なし
大阪医科薬科大学	多職種連携論2-医療と専門職	2年次	本人	B型肝炎	医学部、薬学部、看護学部の学生が聴講する3学部合同の授業であり、医師、薬剤師、看護師を目指す学生が患者さまから診断時、治療時などの思いを伺い、そのような経過の中で各専門職の役割と連携の在り方を考えることができる。	実際の患者さんのお話を聞くことができ、貴重な機会になった。注射筒の使い回しの危険性が分かっていたにも関わらず、軽視していたことはあってはならないことで、医療人は安全性に責任を持ち、正しい知識のもとに行動する勇気を持つべきだと思った。	B型肝炎薬害のみ。

大学名	授業科目名称 (特別講義名称) 又は特別講演名称	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
関西医科大学	臨床実習入門 P4c	4年次	本人	サリドマイド事件	過去の被害、事実を学ぶことで学生への薬害の啓発になり、将来、医師になったときに同様の事例を繰り返さないという意識を持たせることができる。	学生により反応は様々であるが、真摯に被害者の言葉を受け止めようとする学生が多く見られる。	「薬害」にも様々な種類があり、それぞれがたどった経緯などを広く知らせることができる。
兵庫医科大学	医療安全と薬害	4年次	本人	C型肝炎	薬害の存在を知り、薬を処方する責任、薬害発生後の医師の行動を考えることができる。	・はじめてその存在を知り驚いた。・国、企業、・医師の姿勢に問題があると思った。・被害者の方のお人柄に感動した(これまでは偏見があった)	次のような多彩な角度から考えることができる。・陣痛促進剤(患者さんが我が子を殺すことになる残酷さ)・スモン(患者さん自身が障害を持つ)・サリドマイド(服用した母親だけでなく、生まれてくる子供に障害)・肝炎(患者さん自身が障害を持つ)
	医療安全と薬害	4年次	本人	スモン			
	医療安全と薬害	4年次	家族	陣痛促進剤			
	医療安全と薬害	4年次	本人	サリドマイド			
産業医科大学	医のプロフェッショナリズム	4年次	本人	サリドマイド	クのバランスを実体験を直接聞けること。薬物の投与を行う未来の医師として、薬剤治療における有効性とリスク考慮する重要性を認識できる貴重な機会となる。	薬物と毒物は表裏一体であることを認識できた。医師として正確な処方を行えるようになるため、学業に真摯に取り組みたいと改めて思った。	該当しない

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【国立】

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道大学	○	○	フロンティア 発展科目、内科学、臨床講義 I、臨床講義 II、口腔診断内科学、薬理学・歯科薬理学 I・II	フロンティア 発展科目
2	東北大学	○	○	医の倫理・社会の倫理、社会歯科学、口腔保健発育学 I、くすりの科学	医の倫理・社会の倫理
3	東京医科歯科大学	○	○	包括医療統合教育、包括臨床実習（Phase II）、生体と薬物（薬理学概説（薬理 I））	薬害被害者に関する講演
4	新潟大学	○	検討中	臨床実習 I、早期臨床実習 II、薬理学、微生物学 II、微生物学 I	
5	大阪大学	○	○	基礎生命科学	基礎生命科学
6	岡山大学	○	検討中	薬理学総論	
7	広島大学	○	○	歯科薬理学 I、医療倫理学	医療倫理学
8	徳島大学	○	○	社会と歯科医療、薬理学 A・B	新入生オリエンテーション
9	九州大学	○	○	高年次基幹教育科目「薬害」	高年次基幹教育科目「薬害」
10	長崎大学	○	検討中	薬理学及び同実習	
11	鹿児島大学	○	検討中	微生物学 II、歯科医療倫理学、歯科薬理学 II、歯科薬理学 I	

行っている	11	7
検討中	0	4
行っていない	0	0

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【公立】

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	九州歯科大学	○	○	社会歯科学Ⅲ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、歯学概論Ⅱ	歯学概論Ⅱ

行っている	1	1
検討中	0	0
行っていない	0	0

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【私立】

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道医療大学	○	○	多職種連携 医薬品の科学	特別講義（薬の有害性を知る）【「医薬品の科学」関連】
2	岩手医科大学	○	○	医療と法律、歯科医学概論	歯科医学概論【全人的医療基盤講義】
3	奥羽大学	○	○	小児歯科学、歯科薬理学 I	チーム医療学演習
4	明海大学	○	○	口腔外科学 I、感染免疫制御学、薬理学、医療倫理、公衆衛生学（衛生学を含む）	医療倫理
5	東京歯科大学	○	×	臨床社会歯科学実習、内科学、歯科医療管理学（医療安全管理・院内感染予防）、社会歯科学、薬理学、衛生学、微生物学	
6	昭和大学	○	○	生体と薬物（薬理総論）、地域医療入門	地域医療入門
7	日本大学	○	検討中	薬物療法学、生体機能制御学	
8	日本大学（松戸）	○	検討中	薬理学 1、医療行動科学 1	
9	日本歯科大学	○	検討中	薬理学、薬理学、薬理学	
10	日本歯科大学（新潟）	○	×	感染微生物学、地域口腔保健学、臨床実習、歯科薬剤学	
11	神奈川歯科大学	○	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
12	鶴見大学	○	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
13	松本歯科大学	○	×	歯科薬理学	
14	朝日大学	○	○	薬理学総論	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）
15	愛知学院大学	○	○	歯学入門セミナーⅣ、社会と歯学Ⅲ、臨床医学（内科学）、臨床医学（外科Ⅱ）	歯学入門セミナーⅣ
16	大阪歯科大学	○	検討中	内科学、内科学、医療安全管理学、医療安全管理学、歯科薬理学	
17	福岡歯科大学	○	○	歯科医療管理学、臨床薬理学、現代文明論	現代文明論

行っている	17	10
検討中	0	4
行っていない	0	3

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）

大学名	①②両方	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名
北海道大学	○	フロンティア 発展科目、内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、口腔診断内科学、薬理学・	フロンティア 発展科目、内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、口腔診断内科学、薬理学・
東北大学	○	医の倫理・社会の倫理、社会歯科学、口腔保健発育学Ⅰ、くすりの科学	医の倫理・社会の倫理、社会歯科学、口腔保健発育学Ⅰ、くすりの科学
東京医科歯科大学	○	包括医療統合教育、生体と薬物（薬理学概説（薬理Ⅰ））	包括臨床実習（PhaseⅡ）、生体と薬物（薬理学概説（薬理Ⅰ））
新潟大学	○	臨床実習Ⅰ、薬理学、微生物学Ⅱ、微生物学Ⅰ	臨床実習Ⅰ、早期臨床実習Ⅱ、薬理学、微生物学Ⅱ
大阪大学	○	基礎生命科学	基礎生命科学
岡山大学	○	薬理学総論	薬理学総論
広島大学	○	歯科薬理学Ⅰ、医療倫理学	歯科薬理学Ⅰ、医療倫理学
徳島大学	○	社会と歯科医療	社会と歯科医療
九州大学	○	高年次基幹教育科目「薬害」	高年次基幹教育科目「薬害」
長崎大学	○	薬理学及び同実習	薬理学及び同実習
鹿児島大学	○	微生物学Ⅱ、歯科医療倫理学、歯科薬理学Ⅱ、歯科薬理学Ⅰ	微生物学Ⅱ、歯科医療倫理学
小計(国立)	11学部中11学部	11学部中11学部	11学部中11学部
九州歯科大学	○	社会歯科学Ⅲ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、歯学概論Ⅱ	社会歯科学Ⅲ、歯学概論Ⅱ
小計(公立)	1学部中1学部	1学部中1学部	1学部中1学部
北海道医療大学	○	多職種連携 医薬品の科学	多職種連携 医薬品の科学
岩手医科大学	○	医療と法律、歯科医学概論	歯科医学概論
奥羽大学	○	小児歯科学、歯科薬理学Ⅰ	小児歯科学
明海大学	○	感染免疫制御学、薬理学、医療倫理、公衆衛生学（衛生学を含む）	薬理学、医療倫理、公衆衛生学（衛生学を含む）
東京歯科大学	○	臨床社会歯科学実習、歯科医療管理学（医療安全管理・院内感染予防）、社会歯科学、薬理学	社会歯科学、薬理学
昭和大学	○	生体と薬物（薬理総論）、地域医療入門	地域医療入門
日本大学			
日本大学（松戸）	○	薬理学Ⅰ、医療行動科学Ⅰ	薬理学Ⅰ、医療行動科学Ⅰ
日本歯科大学	○	薬理学、薬理学、薬理学	薬理学、薬理学、薬理学
日本歯科大学（新潟）	○	感染微生物学、地域口腔保健学、臨床実習、歯科薬剤学	地域口腔保健学

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）

大 学 名	①②両方	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族 に対する国・製薬企業の対応の歴史について 取り上げている授業科目名	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上 げている授業科目名
神奈川歯科大学	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
鶴見大学	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
松本歯科大学	○	歯科薬理学	歯科薬理学
朝日大学	○	薬理学総論	薬理学総論
愛知学院大学	○	歯学入門セミナーⅣ、社会と歯学Ⅲ、臨床医 学（内科学）、臨床医学（外科２）	歯学入門セミナーⅣ、臨床医学（内科学）、 臨床医学（外科２）
大阪歯科大学		内科学、内科学、医療安全管理学、医療安全 管理学	
福岡歯科大学	○	歯科医療管理学、現代文明論	歯科医療管理学、現代文明論
小計(私立)	17学部中15学部	17学部16学部	17学部中15学部
合計(国公私立)	29学部中27学部	29学部中28学部	29学部中27学部

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況 (歯学部歯学科)

▼実施学部：29学部中18学部

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は特別講演名	履修 年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
北海道大学	フロンティア 発展 科目	5年次	家族	薬害エイズ			
	フロンティア 発展 科目	5年次	本人	薬害エイズ			
東北大学	医の倫理・社会の倫 理	5年次	本人	薬害肝炎	薬害被害者の声を直接聞く授業の受講を、倫理観および職業観について深く考え、将来の歯科医師としての自覚をもつ機会とすることができる。	多くの学生が、講義を受けて感銘を受けたとの感想を寄せた。学生の感想の例を記載する。「医療に携わる人間は、免許をとるのがゴールではなく、医療人になった後も日々勉強し、新たに学ばなければならないと思った。それを怠らなければ、このような薬害も防げるのではないかと思う。」「今後、歯科医師となって患者さんの口の中を見る時に、病気を診るのではなく、患者さんを診るということがいかに大切かということを感じた。」	複数の種類の授業は実施していない
東京医科歯科大学	薬害被害者に関する 講演	1年次～6年次	本人	未定	薬害の実態を被害者を通して聞くことができ、薬害の理解が一層深まること。	概ね好評価(薬害の理解が深まった、将来医療人になることに対する責任を改めて自覚した等)である。	
大阪大学	基礎生命科学	1、5年次	本人	サリドマイド	医療人としての道を歩み始めた1年次学生への講義の一環として例年どおり企画する。薬害被害者等の方の声を直接聞く機会を持つことにより、医療における安全性の実態と知識はもとより、医療人としての薬害防止に対する意識付けを行う。また、臨床実習開始直後の5年次学生にも受講させ、臨床の現場における医療の安全に対する重要性を再認識させる機会となる。	薬害被害者の方から直接話を伺うことで、薬害防止に関して、医療人および国民の理解と努力が如何に大切かということを再確認することができ、今後の歯科医学教育修得の心構えを新たにすることができた、など、例年、受講した学生から狙いどおりの感想を得ることができている。	該当なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は特別講演名	履修 年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
広島大学	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	将来歯科医療に携わる学生が、薬害の被害者の方から実体験を聞き、薬害の実態を知ったこと、特に根治療法のない薬害肝炎で、講演者本人を始め苦しんでいる被害者が多数おられることを知ったことはもちろんであるが、薬害の原因、行政の対応の不備(対応の遅れや不十分な被害者救済措置)、社会、特に製薬会社や医療従事者が加害者となったばかりでなく、中傷や差別を行っていたことについて理解したことは、医療に関わる職に就いた場合、大変役立つと考えられる。	学生全員に授業の感想文を提出させている。ほぼ全員が非常に価値のある授業であったと評価している。主に評価された点は、①薬害の歴史は古く、様々な薬害があることを知ったこと、②薬害がどのようにして起こったか、特になぜ多くの被害者が生まれたかを学んだこと、③薬害の被害者やその家族が、身体への障害のみならず、社会からの差別や偏見によって、大変な苦勞をしており、十分な救済措置がとられていない現状を知ったこと、④医療従事者として、薬害は起こりうることを念頭に置いて診療に当たる必要性を学んだこと、⑤不幸にして薬剤の副作用による被害が起こった場合は、被害者の救済に向けた努力を惜しまないことが医療従事者に求められていることを理解したこと、であった。	薬害の種類の違いによって、患者さんの症状の違い、厚生労働省の認可の責任、製薬会社の責任が異なっており、医療人として何ができるのか、何をすべきかを学ぶよい機会となっている。
徳島大学	新入生オリエンテーション	1年次	本人	—	生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性を認識させる。	医療事故防止の重要性を学ぶ良い機会になっている。	
九州大学	高年次基幹教育科目「薬害」	4年次	本人	サリドマイド、エイズ、C型肝炎、ヤコブ病	被害者本人の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞くことによって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の声を直接聞いて良かったという声が多い。	それぞれの状況で、対応の違い等も認められ、見識をより広めることができる。
九州歯科大学	歯学概論Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	薬害の実態を正確に理解して、対応等について考える機会を与えることができる。	例年真剣に受講し、患者さんの生の声から薬害というものを考えているようである。	なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は特別講演名	履修 年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
北海道医療大学	特別講義(薬の有害性を知る)【「医薬品の科学」関連】	2年次	本人	薬害エイズ	医療における感染の問題、薬害被害者の実情、薬害が生じた原因や責任の所在および医療における差別の問題を学生に考えさせる機会となっている。	講演について、意欲的に聴講している学生がほとんどであり、また終了後の質疑応答も活発に行われている。また、講義内容のまとめと感想を書いたレポートを提出させているが、素晴らしい内容のレポートが多い。	該当なし
岩手医科大学	歯科医学概論【全人的医療基盤講義】	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズ被害者の実体験を直接聞くことが出来る。	・自分が現場に立った際には、正しい知識と情報を伝え、最善の治療を提供できるようになりたい。・テレビや新聞等の情報が全て真実だとは限らないと感じた。・家族・親戚等も大変な苦勞をしており、薬害の被害者のみではなく、その家族にも生活しやすい環境を作ってあげるべきだと感じた。※実施済みの年度の反応・感想を参考として記入しました。	薬害被害者の声を直接聞く授業は上記の講義のみ。
奥羽大学	チーム医療学演習	1年次	本人	サリドマイド	・薬害被害者から直接講義を受け、スモールグループディスカッションを行うことにより、医療人としての意義と責任を自覚することができる。	・10月の授業のため未定	・なし
明海大学	医療倫理	5年次	本人	HIV	薬害被害者の方の声を直接聞くことは、歯科医師として医療における責任や人権などの問題意識の向上に極めて有意義である。	教科書や成書等で薬害被害者の現状などを見ることはできるが、直接本人からの声を聞くことにより、より真摯にこの問題を考える機会となる。学生は皆真剣に講義を聞いていた。	過去の薬害の原因を見ると感染の問題だけでなく、薬品の製造上の問題、副作用(薬効)の問題、治験の問題等、多岐にわたる。多くの場合、医療行政が関与していることから、薬事の法律の問題、社会の構造的な問題、研究倫理の問題、並びに医療従事者の意識の問題が絡んだ複雑な社会問題でもある。これらの問題を学ぶことは、教育機関である歯科大学で、医療従事者(歯科医師)を目指す学生の意識を変化させることに強く貢献出来ると思われる。複数の薬害に関する講義を通して、学生らに、医療における薬剤の光と影の二面性を理解してもらうことは可能で、特に、薬の影の部分は、薬害を通して教育を行うことが非常に重要であると考えられる。

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は特別講演名	履修 年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	今年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットとももっと向き合っていかなければならないなど改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	特にございません。
神奈川歯科大学	臨床医科歯科概論	1年次	本人	サリドマイド	直接被害者の方から話を伺うことで、机上の学問ではなく、現実問題として、医療を志す学生への教育効果が高い。	毎年レポートの記載を義務付けていますが、その内容を見ると、薬害問題に初めて触れる学生が多く、その内容に衝撃を受け、自分の将来に結びつけ考える学生が多い。	
鶴見大学	薬物の種類と薬理作用	2年次	本人	HIV、薬害エイズ	・薬害被害者のこれまでの経験した被害、現状、原因と対策等これからの問題点がご本人の生の声として聞くことができる。 ・薬剤を処方する医療従事者の責任について、学生の理解が進んだ。また、患者さん側に立つ医療の重要性についても認識できる。	生の声を聞くことで非常に勉強になった、という感想が毎年多く寄せられている。	
朝日大学	基礎・臨床歯科学演習(薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～)	4年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者本人から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の為害性や倫理観についても理解を深めることができる。	薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができたとの感想が聞かれた。また、薬害被害者ご本人から、「幸せとは自分が感じるものであって、他人が考えることではない」との言葉が印象に残ったとの感想も聞かれた。	複数回実施していない

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は特別講演名	履修 年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット(有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
愛知学院大学	歯学入門セミナーⅣ	1年次	本人	薬害C型肝炎	1)対面での講演の場合、薬害の被害にあわれたご本人から直接お話をうかがうことで、学生が患者中心の医療の大切さに気づくことができる。2)対面での講演の場合、薬害の被害にあわれたご本人から直接お話をうかがうことで、学生の授業に対する受講態度が良好になる。3)授業終了時(後)に学生からの疑問点について、後日、授業担当者から講師(薬害被害者本人)に確認することができるため、学生へのフィードバックが効果的に図ることができる。	・国は責任を持って、治療体制の確立、生活支援を今後も続けるべきだと感じた。・肝炎は予防接種での注射器の使い回しや輸血、血液製剤といった医療行為を介して感染する、という問題は医療従事者を指す自分にとって重大な問題だと感じた。・絶対に薬害が起こらないよう、医療者は、十分に気をつけて行くことが大切であると考え。薬害が起こらないようにするためには、薬の使い方、医療器具を使うときに感染に十分に注意して、患者さんに使っていくことが大切である。	該当授業はございません。
福岡歯科大学	現代文明論	1年次	本人	C型肝炎	薬害被害を受けた方の意見を聞くことにより、医療人としての自覚を持ち、関心を持って関与していかなければならない問題であることを認識できる機会であること。	薬害被害者の方に来ていただき生の声を聴かせていただくことで、講話の内容が強く印象に残るようである。また、将来歯科医師になる際の使命感及び責任感が高まっている。	複数の種類の薬害二つについての授業は実施していません。

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和5年度 看護学部等）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
北海道大学	○	×	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	
旭川医科大学	○	○	人間と行動（法学）、薬理学	薬理学
弘前大学	○	○	薬理学	薬害防止に関する講演会（講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））
東北大学	○	×	臨床薬理学	
秋田大学	○	○	薬理学	薬理学
山形大学	○	○	生命倫理	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）
筑波大学	○	○	看護生命倫理	看護生命倫理
群馬大学	○	×	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	
千葉大学	○	○	連携協働実践Ⅰ、病態生理学Ⅰ（病理学総論）、感染看護学（微生物学・免疫学）	連携協働実践Ⅰ
東京大学	○	×	長期ケア看護学、成人看護学、地域看護学	
東京医科歯科大学	○	○	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学Ⅲ	薬理学Ⅰ・Ⅱ
新潟大学	○	検討中	医療の倫理、疾病の原因と成り立ち、治療法概説、疾病の予防と治療、病態論	
富山大学	○	○	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論、疾病学	医療学入門
金沢大学	○	○	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ
福井大学	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	○	○	基礎健康科学	健康危機への看護実践
信州大学	○	○	健康科学概論	健康科学概論
岐阜大学	○	○	医学概論	医学概論
浜松医科大学	○	○	医療概論、医療法学Ⅰ	医療概論
名古屋大学	○	×	公衆衛生学	
三重大学	○	×	医療倫理Ⅱ	
滋賀医科大学	○	○	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	保健医療行政論
京都大学	×	×		
大阪大学	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える、看護薬理学	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
神戸大学	○	○	薬と生体反応、感染看護論、看護管理論、周産母子健康障害論、疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、新生児健康障害論、地域看護活動論、公衆衛生学	初期体験実習
鳥取大学	○	○	くすりと作用、公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生看護学Ⅱ
島根大学	○	×	病理学の基礎、薬理と薬剤、地域看護学活動論	
岡山大学	○	×	臨床薬理学	
広島大学	○	○	周産期健康障害看護、助産実践論	周産期健康障害看護、助産実践論
山口大学	○	×	臨床薬理学、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法演習Ⅱ、小児保健医療論、小児看護学概論	
徳島大学	○	○	看護技術Ⅲ、薬理学、学校保健論	薬害講演（DVD視聴）
香川大学	○	○	看護薬理学	薬害被害者の声を直接聞く特別講義
愛媛大学	検討中	検討中		
高知大学	○	○	薬の効用と看護	大学基礎論
九州大学	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
佐賀大学	○	○	臨床薬理学、基礎看護技術Ⅲ	コミュニケーション論
長崎大学	○	×	看護倫理	
熊本大学	○	○	臨床薬理学、母子援助論、助産診断・技術学Ⅱ、病理学Ⅰ	薬害被害講演会【特別講演会】
大分大学	○	×	保健政策論、保健学	
宮崎大学	○	×	専門教育入門セミナーN	
鹿児島大学	○	×	病理学総論、疾病論Ⅰ	
琉球大学	○	×	保健福祉政策論、薬理学	
小計(国立)			42学部中40学部	42学部中24学部
札幌医科大学（保健医療学部看護学科）	○	○	社会と健康史、看護学概論	社会と健康史
札幌医科大学（専攻科公衆衛生看護学専攻）	×	×		
札幌市立大学	○	×	臨床薬理学	
名寄市立大学	○	×	公衆衛生看護学概論、感染微生物学、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ	
旭川市立大学	○	検討中	薬理学、在宅看護概論	
青森県立保健大学	○	×	感染免疫学、母性疾病治療論、成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規	
岩手県立大学	○	×	感染免疫学、薬理代謝学、地域看護システム論Ⅰ、感染看護論、生物学の世界	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
宮城大学	○	×	薬理学	
山形県立保健医療大学	○	×	臨床薬理学	
福島県立医科大学	○	×	病態診断治療学	
茨城県立医療大学	○	検討中	衛生・公衆衛生学	
群馬県立県民健康科学大学	○	検討中	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	
埼玉県立大学	○	検討中	看護薬理学	
千葉県立保健医療大学	○	×	病態学Ⅰ、地域看護学方法論Ⅱ、助産診断・技術学Ⅱ	
東京都立大学	○	○	実践基礎援助学（慢性期看護学各論）、総合臨地看護学実習（在宅）、母性看護学概論、周産期学、成長発達看護学演習（母性）、小児看護学概論、公衆衛生看護実践論、精神看護学Ⅱ	実践基礎援助学「慢性期看護学各論」
神奈川県立保健福祉大学	○	×	看護倫理、人権ジェンダー、精神看護学Ⅱ、助産管理論Ⅰ、小児看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動論	
川崎市立看護大学	○	×	臨床薬理学	
横浜市立大学	○	○	看護倫理学、感染看護学	感染看護学
新潟県立看護大学	×	×		
富山県立大学	○	検討中	薬理学、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、成人看護方法論Ⅱ	
石川県立看護大学	○	検討中	生命倫理学	
公立小松大学	検討中	×		
敦賀市立看護大学	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、看護倫理学、看護学概論	
福井県立大学	○	検討中	臨床薬理学	
山梨県立大学	○	検討中	疾病治療総論	
長野県看護大学	検討中	検討中		
岐阜県立看護大学	○	×	日本国憲法	
静岡県立大学	×	×		
愛知県立大学	○	×	病因論	
名古屋市立大学	○	○	医薬看連携地域参加型学習、疫学・保健統計学Ⅰ	医薬看連携地域参加型学習、疫学・保健統計学Ⅰ
三重県立看護大学	○	×	臨床薬理学	
滋賀県立大学	○	検討中	生命・人間・倫理、人間と病気、微生物学、看護管理学、基礎看護技術Ⅲ、災害看護学、差別と人権	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
京都府立医科大学	○	×	看護と法律	
大阪公立大学	○	○	看護学概論(公大)、危機管理論(市大)	看護学概論(公大)
兵庫県立大学	○	×	感染免疫学、成人健康看護論(急性)、母性健康看護論	
神戸市看護大学	検討中	検討中		
奈良県立医科大学	○	×	社会福祉と医療法規、基礎薬理学、臨床薬理学	
和歌山県立医科大学	○	○	ケアマインド教育、慢性期病態学Ⅰ、基礎薬理学	ケアマインド教育
島根県立大学	○	×	生命・医療倫理	
岡山県立大学	○	×	病理学、医学概論、臨床病態学Ⅳ	
新見公立大学	検討中	検討中		
県立広島大学	○	×	看護倫理	
山口県立大学	○	×	看護倫理	
香川県立保健医療大学	○	検討中	疾病と医療Ⅱ、臨床薬理	
愛媛県立医療技術大学	○	検討中	薬と健康	
高知県立大学	○	○	グローバル社会と看護Ⅰ、治療学総論、病態と治療Ⅰ、治療援助論、地域看護学総論、地域の健康と看護、グローバル社会と看護Ⅱ、健康管理論、助産技術論Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ
福岡県立大学	○	○	看護薬理学、看護倫理学	看護倫理学
長崎県立大学	○	検討中	薬理代謝学	
大分県立看護科学大学	○	×	薬理学Ⅰ、病理学総論	
宮崎県立看護大学	○	○	人間常態学Ⅰ-3、人権論	人間常態学Ⅰ-3、人権論
沖縄県立看護大学	×	×		
名桜大学	○	検討中	看護学概論、薬理学、保健医療と法、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、国際看護学Ⅱ、感染看護学、公衆衛生学、公衆衛生看護活動論	
小計(公立)			51学部中44学部	51学部中9学部
札幌保健医療大学	×	×		
天使大学	×	×		
日本赤十字北海道看護大学	○	○	薬理学、病態治療学Ⅱ(消化・代謝・ライフステージ)、病態治療学Ⅳ(頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児)、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習
日本医療大学	○	×	臨床薬理学	
北海道医療大学	○	○	微生物学、医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
北海道科学大学（保健医療学部看護学科）	○	検討中	医療概論、感染免疫学、病態生理学、成人看護学援助論演習Ⅱ	
北海道科学大学（公衆衛生看護学専攻科）	○	×	健康課題別活動論	
北海道文教大学	○	検討中	免疫学、薬理学、地域看護学の基礎、成人看護学の展開Ⅰ、がん看護学、精神看護学援助論Ⅲ	
青森中央学院大学	○	検討中	薬理と薬剤	
八戸学院大学	○	×	病態学Ⅱ	
弘前医療福祉大学	○	×	薬理学	
弘前学院大学	○	×	薬理学	
岩手医科大学	○	○	医療と法律	看護学概論（全人的医療基礎講義含む）
岩手保健医療大学	○	×	臨床薬理学	
東北福祉大学	○	×	臨床薬理学	
東北文化学園大学	○	×	解剖生理学Ⅱ、薬理学	
秋田看護福祉大学	○	検討中	薬理学概論、公衆衛生学	
日本赤十字秋田看護大学	○	×	老年看護学Ⅱ、成人看護学Ⅱ－２慢性看護、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別	
医療創生大学（看護学部看護学科）	○	×	薬理学	
茨城キリスト教大学	○	○	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理
つくば国際大学	○	×	生命倫理	
常磐大学	検討中	検討中		
足利大学	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学	
国際医療福祉大学（保健医療学部看護学科）	○	検討中	公衆衛生看護学概論、対象別保健活動論Ⅱ（障害別）、対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、薬学概論、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ（生物系等）、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	
自治医科大学	○	×	保健医療福祉システム論、臨床薬理学、小児実践看護学Ⅰ、成人実践看護学Ⅰ、精神看護方法、公衆衛生看護活動論	
獨協医科大学	○	○	保健医療福祉行政論、薬理学、生命倫理学	生命倫理学
桐生大学	○	検討中	臨床薬理学、看護専門職論Ⅴ（感染看護）	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
群馬医療福祉大学	検討中	×		
群馬パース大学	○	×	公衆衛生看護学概論、薬理学	
上武大学	○	検討中	リスクマネジメント論	
高崎健康福祉大学	○	×	臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）、薬理学	
埼玉医科大学	○	○	病むことの心理	病むことの心理
西武文理大学	検討中	検討中		
大東文化大学	○	○	疾病・治療学Ⅵ（精神医療）	Daito 'Green 'Ceremony -Reflection on a Nursing Journey-
東京家政大学	○	×	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ、薬理学	
東都大学（ヒューマンケア学部看護学科）	×	×		
日本医療科学大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
日本保健医療大学	○	×	薬理学、病態治療学Ⅰ（総論、神経、呼吸器、循環器、血液）、病態治療学Ⅱ（消化器、腎、内分泌、感染症、免疫）	
人間総合科学大学	×	×		
目白大学	○	○	薬理学、医療概論	総合看護学セミナー
日本赤十字看護大学（さいたま看護学部看護学科）	○	検討中	看護関係法規	
亀田医療大学	○	×	周産期看護援助論	
国際医療福祉大学（成田看護学部看護学科）	○	検討中	感染看護論	
三育学院大学	検討中	×		
秀明大学	○	検討中	病理学、微生物学・感染症学、免疫・微生物学、薬理学、薬理学、母性看護学概論	
淑徳大学	○	検討中	病態学（医学概論・病理学・症候学）	
順天堂大学（医療看護学部看護学科）	○	×	薬理学、臨床薬理学	
城西国際大学	○	○	公衆衛生看護学概論、感染症学、感染看護、臨床薬理学、周産期医学B、慢性期クリニカル方法論	公衆衛生看護学概論
聖徳大学	○	×	母性看護学総論、成人・老年看護学方法論Ⅱ	
千葉科学大学	○	○	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	（薬学部で実施の講義を聴講）
帝京平成大学（健康医療スポーツ学部看護学科）	○	検討中	人間と社会と看護	
東京医療保健大学（千葉看護学部看護学科）	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
東京情報大学	○	検討中	臨床薬理学	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
東都大学（幕張ヒューマンケア学部看護学科）	○	×	看護関係法規	
東邦大学（健康科学部看護学科）	○	×	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ、薬剤学	
了徳寺大学	検討中	検討中		
和洋女子大学	検討中	○		成人看護援助論Ⅱ
医療創生大学（国際看護学部看護学科）	検討中	×		
共立女子大学	○	○	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論
杏林大学（保健学部看護学科看護学専攻）	○	×	生命倫理学	
杏林大学（保健学部看護学科看護養護教育学専攻）	○	×	看護基本技術Ⅲ	
駒沢女子大学	○	○	感染防御学	特別講義「薬害問題を語る」
上智大学	○	×	薬理学	
聖路加国際大学	○	×	薬理学	
創価大学	○	×	薬理学、臨床薬理、公衆衛生入門、地域在宅看護学概論、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）、健康生活看護学概論Ⅲ（地域社会における多様な場の看護）	
帝京大学（医療技術学部看護学科）	○	×	医療社会学	
帝京科学大学	×	○		基礎看護技術Ⅲ（診療の補助技術）
帝京平成大学（ヒューマン学部看護学科）	○	×	薬の科学、看護臨床薬剤学	
東京有明医療大学	○	○	臨床薬理学概論	入門ゼミナール、基礎ゼミナール
東京医科大学	検討中	検討中		
東京医療学院大学	○	○	看護倫理学	看護倫理学
東京医療保健大学（医療保健学部看護学科）	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
東京医療保健大学（東が丘看護学部看護学科）	○	×	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）、臨床薬理学演習	
東京医療保健大学（立川看護学部看護学科）	○	×	公衆衛生学、慢性期看護論、薬理学、臨床薬理学演習、政策医療論	
東京工科大学	○	×	公衆衛生学、公衆衛生看護学Ⅱ	
東京慈恵会医科大学	○	○	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理
東京純心大学	○	×	薬理学	
東京女子医科大学	○	○	薬理学	薬理学

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
東邦大学（看護学部看護学科）	○	×	人体と薬物	
日本赤十字看護大学（看護学部看護学科）	○	検討中	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	
武蔵野大学	○	○	薬理学、薬物療法学	薬効安全性学（薬学部）
文京学院大学	○	×	看護倫理学、臨床薬理学	
神奈川工科大学	○	×	看護倫理、診療の補助技術、老年看護援助論、臨床薬理学	
関東学院大学	○	○	基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ
北里大学	×	×		
慶應義塾大学	○	×	環境論、看護のための薬理学	
国際医療福祉大学（小田原保健医療学部看護学科）	○	×	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅱ（慢性期看護）、薬理学、精神看護学方法論	
松蔭大学	○	検討中	薬理学総論	
湘南医療大学（保健医療学部看護学科）	○	○	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
湘南医療大学（専攻科公衆衛生看護学専攻）	検討中	×		
湘南鎌倉医療大学	○	×	薬理学	
昭和大学	○	○	地域医療入門、薬理学、基礎看護学方法論Ⅳ（診療に伴う援助技術）、コミュニティ・ヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門
東海大学	○	×	疾病と看護E、保健医療関係法規、公衆衛生学	
横浜創英大学	○	○	看護管理学	看護管理学
長岡崇徳大学	○	○	薬理学	薬害講演会
新潟医療福祉大学	○	○	診療看護論演習	診療看護論演習
新潟青陵大学	○	○	生命倫理学	生命倫理学
新潟薬科大学	○	×	医療と看護の歴史、薬と健康、薬理学と薬剤管理	
金沢医科大学	○	○	臨床薬理学	薬害被害に関する講演会
金城大学（看護学部看護学科）	○	×	感染防御	
金城大学（公衆衛生看護学専攻科）	検討中	検討中		
福井医療大学	○	検討中	薬理学	
健康科学大学	○	×	薬理学	
佐久大学	○	×	生命倫理、健康障害と治療Ⅰ、健康障害と治療Ⅱ、健康障害と治療Ⅲ、薬理薬剤学、看護リスクマネジメント	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
清泉女学院大学	○	×	薬理学	
長野保健医療大学	○	×	保健医療福祉行政論	
松本看護大学	検討中	×		
朝日大学	○	○	薬理学、病理学	「薬害被害者の声を聞く」特別講義
岐阜医療科学大学	○	検討中	保健学Ⅰ	
岐阜協立大学	×	×		
岐阜保健大学	×	×		
中京学院大学	○	×	感染看護論、臨床薬理学	
中部学院大学	○	×	公衆衛生看護学概論、臨床薬理学、保健医療福祉行政論	
岐阜聖徳学園大学	○	検討中	薬理薬剤学	
順天堂大学（保健看護学部看護学科）	○	検討中	医療の歴史、薬理学、保健学概論、地域生涯保健活動論、保健医療福祉行政論、臨床薬理学	
聖隷クリストファー大学	○	検討中	薬理	
常葉大学	○	×	健康増進論	
東都大学（沼津ヒューマンケア学部看護学科）	○	×	疫学、薬理学、病態学、感染と免疫、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、疾病治療論Ⅱ（消化器・内分泌系）、公衆衛生学	
愛知医科大学	○	×	薬理学、感染看護学Ⅱ、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ	
一宮研伸大学	○	×	法学	
金城学院大学	検討中	検討中		
修文大学	○	×	健康危機管理論、公衆衛生学、感染看護学Ⅱ	
椋山女学園大学	×	×		
中部大学	○	○	薬理学	薬理学
豊橋創造大学	○	○	看護学原論、臨床薬理学、看護倫理、公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学概論
名古屋学芸大学	○	検討中	医療概論、社会保障制度	
名古屋女子大学	○	×	臨床薬理学	
日本赤十字豊田看護大学	○	×	微生物学、公衆衛生看護管理	
日本福祉大学	×	×		
人間環境大学（看護学部看護学科）	検討中	×		
藤田医科大学	○	検討中	公衆衛生看護学概論Ⅰ	
鈴鹿医療科学大学	○	○	臨床薬理学、薬の役割・薬のできるまで	臨床薬理学

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
四日市看護医療大学	○	検討中	薬理学、診断・治療学	
聖泉大学	×	×		
京都先端科学大学	○	検討中	看護治療支援技術論	
京都看護大学	検討中	×		
京都光華女子大学	○	検討中	からだの防御の仕組み、成人看護学演習Ⅱ	
京都橘大学	○	○	キャリア開発演習Ⅳ	キャリア開発演習Ⅳ
同志社女子大学	○	○	母子保健看護概論、看護と法律	母子保健看護概論
佛教大学	○	○	薬理学、病と人間の歩み、慢性看護学Ⅰ、成人看護学概論	(学部講演) 薬害に関する講演
明治国際医療大学	○	×	疾病治療論Ⅳ、薬理学、医療安全学、災害看護学	
藍野大学	○	×	薬理学	
大阪青山大学	検討中	×		
大阪医科薬科大学	○	×	健康科学論	
大阪信愛学院大学	○	×	臨床薬理学	
大阪成蹊大学	○	×	化学	
大手前大学	○	×	医療関係法規	
関西医科大学	○	×	薬理学	
関西医療大学	○	検討中	公衆衛生学	
四條畷学園大学	○	○	薬理学	看護倫理
四天王寺大学	○	×	薬理学、生活健康論、在宅療養生活支援論	
摂南大学	○	○	看護倫理	看護倫理
千里金蘭大学	○	×	臨床薬理学、病原微生物学	
太成学院大学	○	検討中	薬理学、疾病論Ⅰ、病理学、衛生・公衆衛生学	
宝塚大学	○	○	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学
梅花女子大学	○	検討中	公衆衛生学Ⅱ、母性看護学概論	
森ノ宮医療大学	○	×	母性看護援助論Ⅰ	
大和大学	検討中	×		
関西看護医療大学	○	○	薬理学Ⅰ	感染と免疫
関西国際大学	×	×		
関西福祉大学	○	×	薬理学	
姫路大学	○	検討中	保健医療福祉制度論、公衆衛生学	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
甲南女子大学	○	×	成人看護学方法論 I	
神戸常盤大学	○	検討中	生命と倫理	
神戸女子大学	○	○	看護倫理、医療ケアシステム論	看護倫理
園田学園女子大学	検討中	検討中		
姫路獨協大学	○	×	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	
兵庫大学	○	検討中	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学 (疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	
武庫川女子大学	○	○	看護薬理学	成人看護学概論
兵庫医科大学	○	×	セーフティマネジメント、公衆衛生学、慢性看護援助論、免疫学（含微生物学）	
畿央大学	○	○	薬と健康、看護倫理、診療過程援助技術、感染・免疫学、公衆衛生学、看護管理論、医療安全論	保健医療福祉システム論 I
天理大学	○	検討中	保健医療概論	
奈良学園大学	○	×	看護技術の基礎Ⅱ、看護実践プロセスの基盤Ⅰ、成人看護援助論演習、成人老年援助論演Ⅰ・Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護援助論演習	
宝塚医療大学	検討中	検討中		
東京医療保健大学 (和歌山看護学部看護学科)	検討中	検討中		
鳥取看護大学	検討中	×		
川崎医療福祉大学	○	検討中	薬理学、保健指導論、健康危機管理論	
吉備国際大学	○	×	医療安全、成人看護学Ⅲ、成人看護学Ⅴ、保健医療福祉行政論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ、精神看護学Ⅱ、精神看護学Ⅲ、母性看護学概論、母性看護学概論Ⅰ、母性看護学Ⅱ	
山陽学園大学	○	×	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、生命・医療倫理	
日本赤十字広島看護大学	検討中	検討中		
広島国際大学	○	×	臨床病態学Ⅲ、臨床病態学Ⅰ	
広島都市学園大学	○	検討中	臨床薬理学	
広島文化学園大学	○	検討中	人間発生・発達学、薬理学、病態微生物学、公衆衛生学	
福山平成大学	○	検討中	薬理作用と投薬、	
安田女子大学	○	○	公衆衛生看護学、共通教育「人間論B」、疾病論Ⅱ、疾病論Ⅲ、病理病態学、特別科目「まほろば教養ゼミ」	まほろば教養ゼミ

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
宇部フロンティア大学	○	○	薬理・薬剤学、微生物・免疫学、公衆衛生看護学Ⅱ、基礎ゼミナール	特別授業（薬害被害者講演会）
四国大学	○	×	母性看護方法論、助産診断・技術Ⅰ、小児看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ	
徳島文理大学	○	検討中	薬理学、感染学	
聖カタリナ大学	検討中	検討中		
人間環境大学（松山看護学部看護学科）	×	検討中		
久留米大学	○	○	生命・看護倫理	生命・看護倫理
国際医療福祉大学（福岡保健医療学部看護学科）	検討中	検討中		
福岡国際医療福祉大学	○	×	生命倫理	
産業医科大学	○	○	保健医療福祉行政論Ⅰ、看護倫理学、成人看護学方法論（慢性期）、疫学基礎、医療社会学	看護倫理学
純真学園大学	○	×	臨床薬理学	
西南女学院大学	○	×	疾病学各論Ⅱ、医療と倫理	
聖マリア学院大学	○	×	保健医療福祉と看護、薬理学、精神看護学方法論Ⅱ、保健医療福祉行政論、母性看護学概論、母性看護学ケア論Ⅰ	
帝京大学（福岡医療技術学部看護学科）	○	×	臨床薬理学、公衆衛生学、公衆衛生看護援助方法論	
日本赤十字九州国際看護大学	○	×	人体と薬物	
福岡看護大学	○	検討中	薬理学、公衆衛生看護学概論	
福岡大学	○	○	感染看護、薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法
福岡女学院看護大学	○	検討中	基礎看護学方法論Ⅱ、成人看護援助論Ⅰ（慢性期）、クリティカルケア、小児看護援助論演習	
第一薬科大学	○	×	薬理学、臨床薬理学、臨床医学論Ⅰ、在宅看護概論、母性看護援助論Ⅰ	
令和健康科学大学	○	×	薬理学	
西九州大学	○	検討中	臨床薬理学	
活水女子大学	○	×	看護倫理、看護医療と法規	
九州看護福祉大学	○	×	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	
熊本保健科学大学	○	○	生命と倫理	生命と倫理
鹿児島国際大学	検討中	×		
鹿児島純心大学	○	×	看護薬理学、社会保障制度と健康、助産診断・技術学	
小計(私立)			206学部中171学部	206学部中50学部
合計(国公私立)			299学部中255学部	299学部中83学部

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和5年度 看護学部等）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
北海道大学	成人看護学援助論 I	成人看護学援助論 I	○
旭川医科大学	人間と行動（法学）		
弘前大学	薬理学		
東北大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
秋田大学	薬理学		
山形大学	生命倫理	生命倫理	○
筑波大学	看護生命倫理	看護生命倫理	○
群馬大学	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	臨床医学総論	○
千葉大学	連携協働実践 I	連携協働実践 I	○
東京大学	地域看護学		
東京医科歯科大学	薬理学 I、薬理学 II	薬理学 I、薬理学 II	○
新潟大学	医療の倫理、疾病の原因と成り立ち、治療法概説、疾病の予防と治療	医療の倫理疾病の予防と治療、	○
富山大学	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論、疾病学	医療学入門	○
金沢大学	臨床薬学論、医薬保健学基礎 II	臨床薬学論、医薬保健学基礎 II	○
福井大学	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー	○
山梨大学	基礎健康科学	基礎健康科学	○
信州大学	健康科学概論	健康科学概論	○
岐阜大学	医学概論	医学概論	○
浜松医科大学	医療概論、医療法学 I	医療概論	○
名古屋大学	公衆衛生学		
三重大学	医療倫理 II	医療倫理 II	○
滋賀医科大学	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療 I	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療 I	○
大阪大学	現代の生命倫理・法・経済を考える、看護薬理学	現代の生命倫理・法・経済を考える、看護薬理学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
神戸大学	疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）	感染看護論	
鳥取大学	くすりと作用、公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生看護学Ⅱ	○
島根大学	地域看護学活動論		
岡山大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
広島大学	周産期健康障害看護、助産実践論	周産期健康障害看護、助産実践論	○
山口大学	臨床薬理学小児保健医療論、小児看護学概論	臨床薬理学	○
香川大学	看護薬理学	看護薬理学	○
高知大学	薬の効用と看護		
九州大学	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」	○
長崎大学	看護倫理	看護倫理	○
熊本大学	臨床薬理学、母子援助論、助産診断・技術学Ⅱ、病理学Ⅰ	母子援助論、助産診断・技術学Ⅱ、病理学Ⅰ	○
大分大学	保健政策論、保健学	保健学	○
宮崎大学	専門教育入門セミナーN	専門教育入門セミナーN	○
鹿児島大学	病理学総論、疾病論Ⅰ	疾病論Ⅰ	○
琉球大学	保健福祉政策論、薬理学		
札幌医科大学	社会と健康史、看護学概論	社会と健康史	○
名寄市立大学	公衆衛生看護学概論成人看護学概論	公衆衛生看護学概論成人看護学概論	○
青森県立保健大学	成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規、		
岩手県立大学	薬理代謝学	薬理代謝学、地域看護システム論Ⅰ	○
宮城大学	薬理学	薬理学	○
山形県立保健医療大学	臨床薬理学		
福島県立医科大学	病態診断治療学		
茨城県立医療大学	衛生・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	○
群馬県立県民健康科学大学	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療子-△連携論Ⅰ		
埼玉県立大学	看護薬理学	看護薬理学	○
千葉県立保健医療大学	地域看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論Ⅱ	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
東京都立大学	実践基礎援助学（慢性期看護学各論）、総合臨地看護学実習（在宅）、母性看護学概論、周産期学	実践基礎援助学（慢性期看護学各論）、総合臨地看護学実習（在宅）	○
神奈川県立保健福祉大学	看護倫理、人権ジェンダー助産管理論Ⅰ、小児看護学Ⅱ	看護倫理、人権ジェンダー、精神看護学Ⅱ、助産管理論Ⅰ、小児看護学Ⅱ	○
川崎市立看護大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
横浜市立大学	看護倫理学、感染看護学	看護倫理学、感染看護学	○
富山県立大学	薬理学、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、成人看護方法論Ⅱ、		
石川県立看護大学	生命倫理学		
敦賀市立看護大学		看護倫理学	
福井県立大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
山梨県立大学	疾病治療総論	疾病治療総論	○
岐阜県立看護大学	日本国憲法	日本国憲法	○
愛知県立大学	病因論		
名古屋市立大学	医薬連携地域参加型学習、疫学・保健統計学Ⅰ	医薬連携地域参加型学習、疫学・保健統計学Ⅰ	○
大阪公立大学	看護学概論	看護学概論	○
兵庫県立大学	感染免疫学、成人健康看護論（急性）	感染免疫学	○
奈良県立医科大学	社会福祉と医療法規、基礎薬理学、臨床薬理学	社会福祉と医療法規、基礎薬理学、臨床薬理学	○
和歌山県立医科大学	ケアマインド教育基礎薬理学	ケアマインド教育	○
島根県立大学	生命・医療倫理	生命・医療倫理	○
県立広島大学	看護倫理	看護倫理	○
山口県立大学	看護倫理	看護倫理	○
愛媛県立医療技術大学	薬と健康	薬と健康	○
高知県立大学	グローバル社会と看護Ⅰ、治療学総論 地域看護学総論	グローバル社会と看護Ⅰ	○
福岡県立大学	看護薬理学、看護倫理学	看護薬理学、看護倫理学	○
長崎県立大学	薬理代謝学	薬理代謝学	○
大分県立看護科学大学	薬理学Ⅰ、病理学総論		
宮崎県立看護大学	人間常態学Ⅰ-3、人権論	人間常態学Ⅰ-3、人権論	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
日本赤十字北海道看護大学	薬理学、病態治療学Ⅱ(消化・代謝・ライフステージ)、病態治療学Ⅳ(頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児)、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習	○
日本医療大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
北海道医療大学	医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論	○
北海道科学大学(保健医療学部)	医療概論		
北海道科学大学(公衆衛生看護学専攻科)		健康課題別活動論	
北海道文教大学	免疫学、薬理学	免疫学地域看護学の基礎	○
青森中央学院大学	薬理と薬剤		
岩手医科大学	医療と法律		
岩手保健医療大学			
東北福祉大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
秋田看護福祉大学	公衆衛生学	公衆衛生学	○
日本赤十字秋田看護大学	成人看護学Ⅱ-2慢性看護、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別	○
医療創生大学(看護学部看護学科)	薬理学	薬理学	○
茨城キリスト教大学	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	○
つくば国際大学	生命倫理	生命倫理	○
足利大学	臨床薬理学、公衆衛生学		
国際医療福祉大学(保健医療学部看護学科)	対象別保健活動論Ⅰ(発達段階別)、薬学概論、早期体験実習	対象別保健活動論Ⅰ(発達段階別)早期体験実習	○
自治医科大学	保健医療福祉システム論、臨床薬理学精神看護方法	成人実践看護学Ⅰ、精神看護方法	○
獨協医科大学	保健医療福祉行政論、薬理学、生命倫理学	保健医療福祉行政論生命倫理学	○
桐生大学	臨床薬理学		
群馬パース大学	公衆衛生看護学概論		
上武大学	リスクマネジメント論		
高崎健康福祉大学	臨床医学Ⅰ(内科学・外科学)、薬理学		
埼玉医科大学	病むことの心理	病むことの心理	○
大東文化大学	疾病・治療学Ⅵ(精神医療)	疾病・治療学Ⅵ(精神医療)	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
東京家政大学	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ、薬理学	公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ、薬理学	○
日本医療科学大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
日本保健医療大学	薬理学		
目白大学	薬理学	医療概論	
日本赤十字看護大学（さいたま看護学部看護学科）	看護関係法規	看護関係法規	○
亀田医療大学	周産期看護援助論		
国際医療福祉大学（成田看護学部看護学科）	感染看護論	感染看護論	○
秀明大学	病理学、微生物学・感染症学、免疫・微生物学、薬理学、薬理学	微生物学・感染症学、免疫・微生物学薬理学	○
淑徳大学	病態学（医学概論・病理学・症候学）	病態学（医学概論・病理学・症候学）	○
順天堂大学（医療看護学部看護学科）	薬理学、臨床薬理学	薬理学、臨床薬理学	○
城西国際大学	公衆衛生看護学概論感染看護、臨床薬理学、周産期医学B	公衆衛生看護学概論、感染症学、感染看護周産期医学B	○
聖徳大学	母性看護学総論、成人・老年看護学方法論Ⅱ	母性看護学総論、成人・老年看護学方法論Ⅱ	○
千葉科学大学	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	○
帝京平成大学（健康医療スポーツ学部看護学専攻）	人間と社会と看護	人間と社会と看護	○
東京医療保健大学（千葉看護学部看護学科）	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東都大学（幕張ヒューマンケア学部）	看護関係法規		
東邦大学（健康科学部看護学科）	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	○
共立女子大学	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論	○
杏林大学（保健学部看護学科看護学専攻）	生命倫理学	生命倫理学	○
杏林大学（保健学部看護学科看護養護教育学専攻）	看護基本技術Ⅲ	看護基本技術Ⅲ	○
駒沢女子大学	感染防御学	感染防御学	○
聖路加国際大学	薬理学		
創価大学	薬理学、臨床薬理地域在宅看護学概論、	公衆衛生入門、地域在宅看護学概論、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）	○
帝京大学（医療技術学部看護学科）	医療社会学	医療社会学	○
帝京平成大学（ヒューマン学部看護学科）		薬の科学	
東京有明医療大学	臨床薬理学概論	臨床薬理学概論	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
東京医療学院大学	看護倫理学	看護倫理学	○
東京医療保健大学（保健医療学部看護学科）	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東京医療保健大学（東が丘看護学部看護学科）	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論	○
東京医療保健大（立川看護学部看護学科）	慢性期看護論、薬理学、臨床薬理学演習、政策医療論	慢性期看護論政策医療論	○
東京工科大学	公衆衛生学、公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生学、公衆衛生看護学Ⅱ	○
東京慈恵会医科大学	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理	○
東京純心大学	薬理学	薬理学	○
東京女子医科大学	薬理学	薬理学	○
日本赤十字看護大学（看護学部看護学科）	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	看護関係法規	○
文京学院大学	臨床薬理学	看護倫理学	
神奈川工科大学	看護倫理臨床薬理学	看護倫理	○
関東学院大学	基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ	○
慶應義塾大学	環境論、看護のための薬理学	環境論	○
国際医療福祉大学（小田原保健医療学部看護学科）	成人看護学概論薬理学	成人看護学方法論Ⅱ（慢性期看護）、薬理学	○
松蔭大学	薬理学総論		
湘南医療大学	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門	○
昭和大学	地域医療入門基礎看護学方法論Ⅳ（診療に伴う援助技術）看護研究	地域医療入門コミュニティ・ヘルス看護活動論	○
東海大学	疾病と看護E、保健医療関係法規、公衆衛生学	疾病と看護E、保健医療関係法規	○
横浜創英大学	看護管理学	看護管理学	○
新潟医療福祉大学	診療看護論演習	診療看護論演習	○
新潟青陵大学	生命倫理学	生命倫理学	○
新潟薬科大学	医療と看護の歴史		
金沢医科大学	臨床薬理学		
金城大学	感染防御		
佐久大学		生命倫理	
朝日大学	薬理学、病理学	薬理学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
岐阜医療科学大学	保健学 I	保健学 I	○
中部学院大学	公衆衛生看護学概論、臨床薬理学、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論保健医療福祉行政論	○
岐阜聖徳学園大学	薬理薬剤学	薬理薬剤学	○
常葉大学	健康増進論	健康増進論	○
東都大学 (沼津ヒューマンケア学部看護学科)	疫学、薬理学、病態学、感染と免疫、疾病治療論 I (呼吸・循環器系)		
愛知医科大学	薬理学、感染看護学 II、母性看護学 I、小児看護学 I	感染看護学 II	○
修文大学	健康危機管理論、公衆衛生学	公衆衛生学、感染看護学 II	○
中部大学	薬理学	薬理学	○
豊橋創造大学	公衆衛生看護学概論、	公衆衛生看護学概論	○
名古屋学芸大学	医療概論、社会保障制度		
名古屋女子大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
日本赤十字豊田看護大学	微生物学	微生物学	○
藤田医科大学	公衆衛生看護学概論 I	公衆衛生看護学概論 I	○
鈴鹿医療科学大学	臨床薬理学、薬の役割・薬のできるまで	臨床薬理学、薬の役割・薬のできるまで	○
京都先端科学大学	看護治療支援技術論	看護治療支援技術論	○
京都橘大学	キャリア開発演習 IV	キャリア開発演習 IV	○
同志社女子大学	母子保健看護概論、看護と法律	母子保健看護概論、看護と法律	○
佛教大学	慢性看護学 I、成人看護学概論	慢性看護学 I、成人看護学概論	○
明治国際医療大学	薬理学、医療安全学	医療安全学	○
大阪医科薬科大学	健康科学論		
大阪成蹊大学	化学		
大手前大学	医療関係法規	医療関係法規	○
関西医療大学	公衆衛生学	公衆衛生学	○
四天王寺大学	薬理学在宅療養生活支援論	生活健康論	
摂南大学	看護倫理	看護倫理	○
千里金蘭大学	臨床薬理学、病原微生物学	臨床薬理学	○
太成学院大学	薬理学	薬理学衛生・公衆衛生学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
宝塚大学	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	○
梅花女子大学	公衆衛生学Ⅱ、母性看護学概論	公衆衛生学Ⅱ	○
関西看護医療大学	薬理学Ⅰ		
関西福祉大学	薬理学		
甲南女子大学	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅰ	○
神戸常盤大学	生命と倫理	生命と倫理	○
神戸女子大学	看護倫理、医療ケアシステム論	看護倫理	○
姫路獨協大学	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	公衆衛生学	○
兵庫大学	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	薬理学	○
武庫川女子大学	看護薬理学	看護薬理学	○
兵庫医科大学	セーフティマネジメント	慢性看護援助論	
畿央大学	公衆衛生学	公衆衛生学	○
天理大学	保健医療概論		
川崎医療福祉大学	保健指導論、健康危機管理論	保健指導論、健康危機管理論	○
吉備国際大学	保健医療福祉行政論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ	保健医療福祉行政論Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅱ	○
山陽学園大学	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、生命・医療倫理	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	○
広島都市学園大学	臨床薬理学		
広島文化学園大学	病態微生物学、公衆衛生学、	病態微生物学、公衆衛生学	○
安田女子大学	公衆衛生看護学疾病論Ⅱ、疾病論Ⅲ、病理病態学	共通教育「人間論B」	
宇部フロンティア大学	薬理・薬剤学公衆衛生看護学Ⅱ、基礎ゼミナール	基礎ゼミナール	○
四国大学		小児看護学概論	
徳島文理大学	薬理学、感染学	薬理学、感染学	○
久留米大学	生命・看護倫理	生命・看護倫理	○
福岡国際医療福祉大学	生命倫理	生命倫理	○
産業医科大学	保健医療福祉行政論Ⅰ、看護倫理学、成人看護学方法論(慢性期)、疫学基礎、医療社会学	看護倫理学疫学基礎、医療社会学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	①② 両方を実施している
純真学園大学	臨床薬理学		
西南女学院大学	医療と倫理		
聖マリア学院大学	保健医療福祉と看護保健医療福祉行政論、母性看護学概論	保健医療福祉と看護保健医療福祉行政論	○
帝京大学(福岡医療技術学部看護学科)	臨床薬理学、公衆衛生学、公衆衛生看護援助方法論		
日本赤十字九州国際看護大学	人体と薬物	人体と薬物	○
福岡看護大学	薬理学、公衆衛生看護学概論	薬理学、公衆衛生看護学概論	○
福岡大学	感染看護、薬のはたらきと薬物療法	感染看護、薬のはたらきと薬物療法	○
令和健康科学大学	薬理学	薬理学	○
西九州大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
活水女子大学	看護倫理、看護医療と法規	看護倫理、看護医療と法規	○
九州看護福祉大学	薬理学、感染症学、病態生理学 I	薬理学、感染症学	○
熊本保健科学大学	生命と倫理	生命と倫理	○
鹿児島純心大学	社会保障制度と健康	社会保障制度と健康	○

設置者別	①について	②について	①②とも
国立(42学部)	38学部	30学部	29学部
公立(51学部)	35学部	28学部	27学部
私立(206学部)	136学部	113学部	104学部
国公私合計(299学部)	209学部	171学部	160学部

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和5年度 看護学部等）

▼実施学部：299学部中83学部

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上 げた薬害等 の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
旭川医科大学	薬理学	2年次	本人	未定	薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の医療安全に関する意識を高めることができる。	講義前よりも薬害について真剣に考えるようになった。	
弘前大学	薬害防止に関する講演会（講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））	4年次	本人	サリドマイド	直接被害に遭われた本人から話を聞き、医療の現場で起こりうる「薬害リスク」を実感することで、関心を高める機会になること。	令和5年度は1月に実施予定。 過去の講演会においては、「薬害への理解を深めることができた」「医療従事者として正しい知識を身につけること、疑問点や不安点を共有しやすい職場環境というのが大事であることを感じた」等の感想が寄せられている。	
秋田大学	薬理学	2年次	家族	陣痛促進剤被害	薬害被害者のかたの声を直接伺うことにより、薬害被害の背景や問題点について正しく理解することが出来る。医療従事者として働く上で持つべき責任感や倫理観の醸成に資する。	「薬害の原因は、薬の副作用だけでなく防げたはずの故意や無作為等の人災も含まれることを知った。医療従事者側で患者のことを考えたインフォームドコンセントの重要性を改めて自覚したり、カルテや同意書などを正しく確実に記録・保存したり薬害をなくす取り組みを進めていくことが大切だと考える。」「医療者はどのような場合にどのような対応が必要なのか常に考慮し、学び続け、学生の頃からそれぞれについて理解を深めていくことが必要だと考えた。医療者の利益よりも患者の命を当然優先すべきであり、その命に代えられるものはないので、今後も薬害被害とその事例で露わになった欠陥、そして同じ被害を無くするために必要なことについて学習を続けていきたい。」といった感想があった。受講学生には全員にレポート提出させ、その内容を講演いただいた講師と共有している。	
山形大学	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）	4年次	本人	未定	薬害被害者から、直接、自分が被った薬害の実態や今後の医療への期待等の話を伺うことは、学生にとっては自分の今後を考える上で貴重な機会である。	薬剤は、人間に大きな影響を与えるため、薬が承認するまでにきちんとした過程を踏み、安全性を確認することが重要であることが分かった。 障害のある方を出会っても一人の人間としてとらえ、相手の立場に立って物事を考えられる医療者になりたい。 薬害において家族も被害者であるということを知った。	複数の薬害を取り上げることであり、医療の歴史について深く学ぶことができ、薬害を防止するために正しい知識や倫理観を身につけることの必要性や、薬害被害者との向き合い方を考える機会となっている。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
筑波大学	看護生命倫理	1年次	本人	非加熱製剤によるHIV感染	薬害被害者の当事者の経験と、薬害訴訟についての経緯を聴くことは非常に貴重な経験である。	非常によい。医療者を志すものとして身が引き締まるおもしろいというようなコメントを多くの学生が感想として残している。	
千葉大学	連携協働実践 I	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者の経験が赤裸々に語られ、医療を受ける患者からみた医療の問題点が学生に伝わる。そこから、自分たちが未来の医療人としてどうあればよいかを考える機会となること。	講師から薬害は「人が起こすものである」という結論が述べられ、そのことを未来の医療人である学生が、自分自身の責任として認識できていることが授業後のリフレクションシートから伺われる。 当事者の視点から述べられた治療や検査の苦痛、無意識の偏見などの話を聞き、「診察や治療」「医療機器の開発」「看護ケア」「安全な創薬や調剤」など将来自分たちが担う役割に活かしたいという展望と、そのためには専門職連携が必要であるという認識ができています。	
東京医科歯科大学	未定	2年次	本人		薬理学の授業はあるが、国家試験のための必須事項の学習が主のため、薬害が患者の生活に及ぼす影響を学び考える時間が不足しがちであるなか、薬害被害者の生の声を通して、看護のあり方を考える貴重な機会となった。	薬害についての意識がより一層深まったという印象。熱心に耳を傾ける学生が殆どである。	
富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則。 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変よい。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。(昨年度)	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
金沢大学	臨床薬学論、医薬保健 学基礎Ⅱ	1年次	家族、 本人	イレツ サ、サリ ドマイド	将来医療従事者となる立場から、薬害問題を自分自身の問題としてとらえることができる。薬害裁判の当事者から話を聞くことにより、紙面上(教科書上)のものではなく現実のものとして受け止めることができた。		
福井大学	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマ イド	被害者の体験談を直接聞くことによつて、薬害の原因、実態、被害者やその家族に対する対応の歴史、偏見等の人権問題等について具体的に知ることができ、医療従事者として薬害問題にどう向き合うのか考察する機会を得ることができる。	「薬害と副作用の違いについて理解できた。」、「日本でかつて起きた問題について知り、医療について再び考える機会を得ることができました。」、「サリドマイドという言葉は聞いたことがあったが、その薬害について、詳しく知らなかったため、サリドマイド薬害被害者本人から貴重なお話をお聞きすることができてよかった。このような薬害にあった人たちの力になれるよう医療従事者を目指す士気にもなった。」等、薬害発生の経緯や被害者の思い、今後の医療人としての在り方等について考えさせられたとの感想が多く寄せられた。	
山梨大学	健康危機への看護実践	3年次	本人	AHF製剤による非A非B型肝炎(C型肝炎)感染。輸入血液製剤によるHIV感染。	基本的な事柄を授業で学んだ上で当事者の声を聞くことにより、理解を深めることができる。	当事者の声を聞くことにより、薬害についてより関心を持つことができ、医療者を目指す者としては授業の内容をより深く理解していきたいと思ったなどの意見、感想があった。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
信州大学	健康科学概論	1年次	本人	薬害エイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・薬害に対する正しい知識が得られる。 ・単なる「副作用」とは異なる被害者・親族の身体・心理・社会的影響の甚大さをリアルに理解できる。 ・薬害が派生する背景を制度や経済などの幅広い視点から考えることができるようになる。 ・1年次から「薬物製剤」「薬物療法」等の背景にある社会的課題を視野にいれながら学ぶことができる。 	<p>代表的な反応・感想を列記する： 「薬害は医薬品の不完全性によってもたらされ、将来的にそれを扱う医療従事者になる者として、真剣に考えていくべき問題だと思った。」 「今まで、薬害を各種感染症に比べて軽く考えていたが、薬害はその人の一生を狂わせてしまう可能性もあると知り、看護師としてどのように患者に寄り添うべきか考えさせられた。」 「薬害エイズに関しては、調査や報道によって患者の人権が侵される例もあったため、薬害について正しい知識を得ながら、患者・家族の人権を守っていくことについても考えていきたい。」 「薬害とは何かについてあまり知らなかったがよくわかった。」 「薬害は通常の副作用ではないこと、薬は服用者自身が命をとして育てているものであることなど、新しく知ったことが多かった。」 「特にHIV感染については治療薬等の向上により感染しにくくなっていると聞いてとても驚いた。」 「エイズやその他薬害による病気について医療にかかわっていくものとして知識と理解を持ち、差別やそれに関する裁判等が起こらないようになるといいと強く感じた。」など。</p>	<p>複数の種類の薬害については実施していない（「薬害エイズ」以外の「サリドマイド薬害」「薬害スモン」「薬害ヤコブ病」などの薬害の歴史的経緯の説明のみ）。</p>
岐阜大学	医学概論	1年次	本人	サリドマイド	<p>薬害の歴史や行政の対応、社会的偏見に対する知見を深めることができる。学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。医療従事者を志す者として心構えを学ぶことができる。</p>	<p>実際の薬害被害者からの声を聴くことができ、心が痛むと同時に学ぶことが多かったと、学生からは高評価である。</p>	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
浜松医科大学	医療概論	1年次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、看護師となるうえでの心構えを学ぶ機会となった。実際に受けた差別や偏見がどのようなものか実感できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが目指す医療者は、このような歴史を振り返り、そこでの教訓を忘れないこと、薬について正しい知識をもち、患者に薬について十分な説明をしたうえで、患者が自分の治療を自由に選択できるような関わり・支援を大切にすることが必要であると思いました。 ・医療従事者として、薬剤について患者さんに適切な知識を提供する役割をしっかりと果たさなければならぬと感じた。 ・ずっと病気とともに生きていかないといけない人は、治療も続けており、その副作用によって体調が悪かったりと思うので、看護師として身体的にも精神的にも支えられるように勉強していきたいと思った。 	今年、HIV薬害であり、今まではワクチンや肝炎についても被害者をお招きしてお話を聞いてきた。被害者の方からお話を聞く機会はあまりなく、いろいろな被害があることを認識するためには効果的かもしれない。
滋賀医科大学	保健医療行政論	2年次	本人	血友病患者への血液製剤による薬害 サリドマイド薬害、ソリブジン薬害、陣痛促進剤薬害、スモン	学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それがどのような病気なのか、どのように感染するのか、生活していくうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会はなかった。しかし、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生は薬害問題について自ら考える機会を得ることができ、将来看護師として医療に携わることを想定すると有意義である。また同時に薬害エイズについては血友病治療の医療技術革新の過程で生じていることや、新たに認可された薬剤も販売後に初めて新たに見つかる問題があることを学んでいた。さらに看護職に引き寄せて薬害問題の再発予防策を考えるにあたって、薬剤の添付文書に目を通すことや、患者の訴えと文書情報を照合して問題がないかを確認するなど、育薬についても考えることができていたことは評価できる。	特別講義後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指す者としての自覚が深まった」、「薬の副作用について、再考するきっかけとなった」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解できる状況である。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
神戸大学	初期体験実習	1年次	本人	サリドマイド被害	入学後の早い時期に薬害被害者の講演を聴くことにより、薬害そのものや薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、医療関係者になる者としての責任と課題意識をもって今後の勉学に臨めるようになることが期待される。		
鳥取大学	公衆衛生看護学Ⅱ	4年次	本人	イレッサ訴訟、サリドマイド事件、スモン事件、血友病、薬害HIV訴訟	薬害の歴史、訴訟の経過、当事者の生の声を聴くことができ、被害者の置かれた状況を具体的に知ることができる。 看護者としての態度、行動を考えることができる。	薬害被害者の思い、薬害が被害者の生活等どのように影響を受けたか理解できた。患者に対する偏見、差別を実感した。看護職、医療職の態度、行動を考えた。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
広島大学	周産期健康障害看護、 助産実践論	2年次、 4年次	本人	陣痛促進 剤	医療事故の重大性とその回避法について、患者の立場による捉え方を学習できる。また、医療事故の解決を個人的な問題としてのみ捉えるのではなく、広く社会の問題として捉え、医療事故予防の政策反映を踏まえた活動について、その重要性を学習できる。また、医療事故の解決を個人的な問題としてのみ捉えるのではなく、広く社会の問題として捉え、医療事故予防の政策反映を踏まえた活動について、その重要性を学習できる。	<ul style="list-style-type: none"> 陣痛促進剤の正しい使い方、添付書とガイドラインの記述の相違を改善することはもちろん、分娩監視装置だけの情報を読み取るのではなく母体のバイタルサインやお腹の張り具合をよく観察して促進剤使用の緩和、中止を決定することが重要と感じました。患者のそばについているのは助産師や看護師であるため、医師以外の医療者も薬剤や使用時の注意点、観察項目についてしっかりと理解しておく必要があると感じました。 陣痛促進剤についての正しい知識を得る意義を学びました。今回の内容は、既習の講義の中でも聞いたことがありましたが、実際に被害にあった方の話を聞くことで、陣痛促進剤は使い方1つで重大な被害を生んでしまうと強く感じました。妊婦さんには、自分も被害者になる可能性があるということを理解してもらおうような啓発が必要だと思いました。 陣痛促進剤によって、こんなにも大きな被害がでていたのかとショックでした。将来助産師として、医師からの指示が本当に正しいのか自分に問いかけて、分娩まで頑張られたのに、泣いてしまわなければならない産婦さんを一人でも減らしたいと思いました。陣痛促進剤の副作用によって悲しんでいる人いることがわかりました。適切な判断で適切な量を投与すれば活用できる薬なのだと思いますが、医療者にその基準が統一して広まっていないことやいくつかの事故の報告がある中で薬の詳細がなかなか変更されないことなどを知って怖く思いました。出産という喜びを期待して望む場面であるがゆえに、それがかなわなかったときのショックは考えられないくらい大きいものであると思います。正しく使用すれば被害がないと考えられるものを適切な投与量が守れていないことで被害が起こってしまうということを知って、今回学んだ内容を忘れず自分でも理解を深めて産婦さんと赤ちゃんを守ることのできる専門職者になりたいと思いました。など 	
徳島大学	薬害講演 (DVD視聴)	3年次	本人、家 族	薬害全般	薬害講演及びB型肝炎の講演を聴き、総合討論を行うことで、生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性を認識させる。	例年、多くの学生が現実の身近な問題として考える機会をもち、薬害の実態を正しく理解することの重要性についての前向きな感想を述べている。	薬害に共通する発生要因や社会的背景、及び被害の個別の問題点を具体的に理解させることができ、高い教育効果を得ることができる。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
香川大学	薬害被害者の声を直接 聞く特別講義	4年次	本人	HIV	薬害被害者の生の声を聞くことは、通常の講義とは違った角度から学びを深めることができる。また、近い将来看護師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・薬害当事者の方の生きた言葉を受けたことで、薬害の歴史や薬害の実際を改めて学んだ。 ・薬害当事者が身体面だけでなく、社会面・精神面でも強い被害に遭っていたことを当事者の目線より聴講できたことはとても価値の高いものであると感じた。 ・新しい治療法には危険が伴うが、患者さんが危険にさらされた後や、危険にさらされそうだと分かった時点で国や医療者が患者さんをどう守るかが大切だと感じた。 ・薬害被害は決して昔の出来事、事件ではなく、今もそしてこれからも抱え苦しんでいるのだと気づかされた。 	
高知大学	大学基礎論	1年次	本人	陣痛促進剤	実際の薬害被害者の話を聞く事により医療者としての責任意識を強く自覚できるようになること。	講演後のアンケート結果では、医療者としての意識に変化があったという回答、及びこのような機会を設けるべきであるという意見が多数であった。	
九州大学	医療系統合教育科目 「薬害」	3年次	本人	サリドマイド、エイズ、ヤコブ病、肝炎	薬害の多さ、薬害の歴史的背景、過ちを繰り返さないための正しい情報提供に関するシステムと限界などについて学ぶことができる。被害者本人の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞く事によって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の実際の声を聞いて、より具体的に薬害について学び、理解が深まったという声が多かった。過去の薬害では、国の対応の遅れ、医師や製薬会社の無責任な対応、製薬会社の利益追求が原因—警告や危険情報に対する行動の遅れが問題であったことを学んだ。医療従事者は加害者にも、被害者にもなりうる。薬物は、医師・歯科医師→薬剤師→看護師とくるが、もし疑問を感じたら、確認して与薬することが必要で、良いコミュニケーションをとることが必要だと感じた。企業や行政の責任が大きいが、私たち医療従事者が「最後の砦」となる覚悟を持つ必要がある。他学部(医・歯・薬)の学生と同じテーマで話すことができた。薬害を防ぐためには「幾重ものバリア」が必要で、防げる可能性がある。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、自分の仕事はこれだけとせずに、重なる部分も自分の仕事と思ってバリアを厚くすることが薬害防止につながる。今後も医療従事者の継続的な学習が必要である。	それぞれの薬害の発生の背景、発生時の状況や対応の違い等があるため、薬害に対する理解や見識をより広めることができる。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
佐賀大学	コミュニケーション論	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害を受けた方からの視点や立場からの講演を行っていただくことにより、広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めるとともに、薬害被害の現状に接することができる。	薬害についてあまり詳しく知らなかったため、私たちの身近に薬害があることに恐怖を感じた。実際に薬害被害者の方の講演を聞くことができ、考えが広まった。”薬害”があることは知っていたが、どのような薬、症状が出るかは分かっていなかった。薬害は正しい知識を身につけることで防ぐことができるので、これから被害者を増やさないためにも薬害について教育をするべきであると感じた。	
熊本大学	薬害被害講演会【特別講演会】	3年次	本人	フィブリノゲン	薬害被害の実態、被害者がどのような思いをし、また日々を生きてこられたのか、また医療施策の問題について理解を深めることができる。	薬害被害の存在を知ることができた、医療者としてどうすべきかを考えるきっかけとなった、との意見があった。	
札幌医科大学	社会と健康史	2年次	本人	薬害エイズ、スモン、C型肝炎	薬害被害者とその家族から直接的に体験を聴かせていただくことで、被害者やその家族にたいする理解を深め、薬害が起こらない社会を目指してできることを考えるきっかけとなる。	令和4年度にも実施したが、学生は当事者と家族の講義を真剣に聞き、被害者やその家族の思いに寄り添い、社会として取り組むべきことを見出すことができた。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
東京都立大学	実践基礎援助学「慢性 期看護学各論」	3年次	本人	・「薬害 肝炎」 (フィブ リノゲン 等の血液 製剤)・ 「輸血に よる感 染」	特別講義終了後に以下の項目①②に 関してリアクションペーパーの提出 を学生に求めた(①看護職としての 役割について考えたこと、②当事者 への偏見・差別、改善点として考え られること)。以下、メリットにつ いて述べる。当事者の経験からの発 言、罹患、告知、当時の思いやその 後の活動・運動・訴訟に関して語っ ていただくことで、事実をリアルに 受け取り、現存する課題があること の実態を如実に知ることができる点 が有意義であると考えます。また、受 講生にとって、昨今のコロナ禍で医 療施設で実施する対面実習から学内 実習に切り替わっていることが多い 中、罹患、告知された当事者から、 これまでの経緯、置かれている状況 と課題について生の声を通して知る ことは、当事者理解、患者理解につ ながる学習の一端である。また、メ ディアに登場しない事実を知る機会 にもなり、今後医療専門職として真 実をみる目、意識を養う機会になっ ている。	リアクションペーパーには、B型・C型肝炎につ いての偏見・差別、医療者の基本的知識の習得 の重要性、患者会の活動、訴訟に関しての専門 職同士と当事者との連携、さまざまな角度から の感想が記されていた。実際の学生の声の一例 を紹介する。「正確な知識、技術をもつことは もちろん、患者さんの人生・生活・大事にして いることにまで目を向けて、不安に思っている ことはないか聞く姿勢が大事だと思いまし た。」「B型肝炎やC型肝炎は、テレビCMや新聞 で目にすることが多いです。しかし、当事者の お話でなければ、偏見やどのような苦しみがあ るか実際に理解するのは困難だと思いまし た。私自身も今回のお話を聞くまでは、C型肝炎 が患者や家族に与える影響が、これほど大きい ものだとは思いませんでした。今はネット環境 が整っており、情報を得ることは簡単にできま す。しかし、その前提として、まずはC型肝炎に 興味を持ってもらうことが重要なのかなと思 いました。」(個人が特定できないように内容を 損なわないように一部改変)	今回の特別講義の中で、実際に講義 者が罹患した、薬害による肝炎、だ けでなく、青年期の結核療養、猩紅 熱の療養体験も同時間内で語って いただいた。複数の事例を上げるこ とが、中心テーマとの違いや類似を確 認することになり、聴講する学生が 自身の関心の在り方を確認しなが ら、学習効果、理解が深まる。
横浜市立大学	感染看護学	3年次	本人	薬害エイ ズ	今の時代ではありえない、してはな らない、と学生は「べき」論でとら える。歴史的な状況、判例などを振 り返る中で、その時代のあり方、問 題点を考えることの意味や意義を考 える機会につながっているとおも う。 直接当事者からお話を聞けること で、身近なこととして薬害問題を捉 え、医療者として具体的に必要なケ アやサポートを考えることができる ようになる。	今の時代ではありえない、してはな らない、と学生は「べき」論でとら える。歴史的な状況、判例などを振 り返る中で、その時代のあり方、 問題点を考えることの意味や意義を 考える機会につながっているとおも う。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
名古屋市立大学	医薬看連携地域参加型 学習、疫学・保健統計 学Ⅰ	1年次	本人	AIDS	学生にとって、薬害被害者ご自身のお話を聞くこと自体が大きな刺激となり、将来の医療従事者としての使命を実感することができると思われる。また、医薬看連携参加型学習という科目は、医学部・薬学部との合同の授業でもあるため、将来の目指す職業によって、薬害に対する捉え方が異なることを学ぶ機会ともなっている。	直接当事者からお話を聞けることで、身近なこととして薬害問題を捉え、医療者として具体的に必要なケアやサポートを考えることができるようになる。	
大阪公立大学	看護学概論 (公大)	1年次	本人	HIV/AIDS	卒業後必ずしも出会う機会が多くない薬害被害者から直接講義を受ける意義は、薬害が他人事や単に新聞の世界の話ではなく、薬害やそれに伴って生じた感染症を身近に感じ取ることができる。また、当事者からの声心が心によく残り、本学の卒業生には行政や公衆衛生に関わる者も多いので、将来の行政能力の向上にも貢献できていると考える。	対面授業であり、当事者の思いが伝わったとの感想がみられた。薬害が単に薬の特性によるものばかりでなく、人間の行動や政策、政治・企業・医療従事者の腐敗によっても引き起こされる点を指摘する学生や、薬害を身近に感じ看護職としてどうあるべきかを考える学生が多くいた。また、講義後のレポートでは、他の薬害にも関心を向けて調べる学生もいた。新型コロナ感染とも関連付け、差別の問題を考える学生もいた。今年度は授業終了時に講演者に個別に質問をしてくる学生が見られた。	
和歌山県立医科大学	ケアマインド教育	1年次	本人	B型肝炎	薬害問題の現状と現在の対応等について、患者の視点から考える良い機会である。	講義受講前はほとんどの学生が、病気や被害者について知識のない状態であるが、講義後は医療従事者として、病気に対する正しい知識、患者や患者家族に接する際の態度や言動を身につけていきたいなど、学生の意識が高まっている。	
高知県立大学	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ	1年次、 2年次、3 年次	本人	薬害エイズ	薬害というと、とかく被害者としての感情的な面が強調されるが、薬害をグローバル化との関連で取り上げることによって、事実を客観的に、分析的に学習することができ、多くの学生が抵抗なく学習できる。	知らなかったと驚き、事件についての興味をもったとの感想が目立つ。	薬害エイズとC型肝炎について紹介しているが、感染症の病態および課題の複雑さ、広さを学習する機会となっている。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
福岡県立大学	看護倫理学	2年次	本人	陣痛促進剤	薬害被害の実態を知ること、看護専門職者の姿勢を培うことができる。	陣痛促進剤の使用方法や注意点について医療者と妊婦さんの両方で理解していないと、事故が起こり、妊婦さんと赤ちゃんの両方に悪影響を与えてしまうということがよく分かりました。陣痛促進剤について詳しく説明し、妊婦さんが疑問を感じずに納得した上で使用することがとても大切だと思いました。今回の講義を通して、患者にわかりやすいように説明することの重要性や患者の立場になって患者を観察することの重要性、医師に従うだけではなく看護師も異変を感じ取れるように常に状況をみながら申し出れるようにしておくことの重要性を学びました。そして女性であり、将来子どもが欲しいと考えている自分にとって、今回の講義の話は少し怖く感じました。なぜなら自分にも起こりうるかもしれないと感じたからです。私は、今感じている不安や恐怖を忘れずに看護師になり、患者さんの少しの不安も見逃さずに話を聞くことができ、それを医療チームに報告できるような看護師になりたいと思いました。私はこれまで、もしも自分が出産することになったら、痛みの少ない無痛分娩がいいと安易に考えていました。しかし今回の講義で無痛分娩のほとんどに陣痛促進剤が使われることや、陣痛促進剤が適切に使われなかった場合にどのようなことが起こるのかを学び、今までの自分の考えがとても恐ろしくなりました。お産が進まないための、便利な薬であると同時に、使い方を誤ると悲しい結果を招いてしまうことを学び、将来医療に携わっていく者として、薬剤について十分に知り、危険性まで把握したうえで患者さんに使用する責任があると思いました。患者さんは医療者よりも専門知識を持っていませんが、患者さんが不利になってしまわないよう、薬や治療法の利点だけでなく、副作用などの欠点までしっかりと分かってもらったうえで後悔のない選択をしてもらわなければならないと思いました。	
宮崎県立看護大学	人間常態学I-3、人権論	1年次、 4年次	本人	肝炎	当事者から話を聞くこと、薬害の現状、薬害がおこる構造、薬害被害者の人生とその心身、そして人権について知り、理解を深めることに役立つと考える。	対象の権利、偏見差別などについて考える機会となっていることなどの感想が見られている。	学生が講演を聞くことで、医療従事者として責任ある立場となることへの心構えはもちろん、対象へ気持ちに寄り添って、相手の立場に立つて物事を考えようとする事

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
日本赤十字北海道看護大学	成人慢性看護学演習	2年次	本人	B型肝炎	薬害被害者の声を直接聞くことは、薬害被害者に関する正しい知識教育をするうえで大変有意義である。	今年度はこれから実施予定であるが、昨年度の実施においては活発なグループディスカッションができ、薬害被害に関する学生の理解を深めることができた。	
北海道医療大学	医療概論	1年次	本人	薬害エイズ	薬害HIV感染被害者の方に直接話していただくことで、薬害問題が誰の身にも起こりうる身近な問題であるのだと知り、予期せぬ医療上の問題が起こったときに医療者や行政を含めた関係者が速やかに誠実に対応していくことが何よりも重要であることを実感できるのが最大のメリットです。また、薬害エイズを知らない学生が年々増えてきており、当事者にお話をしていただくと、問題が風化しないよう次世代に語り継ぐのに非常に有効だと思います。	同一講義内の他の回と比較し、集中して聴いています。また、学生からは感銘を受けた等、大きな反響があります。	
岩手医科大学	看護学概論 (全人的医療基礎講義含む)	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズの被害者の実体験を聴くことができる。	・薬害は医療者の責任であるという事実は揺るがない。被害者がいて、今も苦しんでいる人がいるという事実から目を背けず、教訓としてこれから同じことを二度と起こさず、多くの患者を正しく救えるように、これから多くのことを学び、医療者になってからも学び続けていきたい。 ・将来医療人になる身として、情報共有を行い、多職種で連携したより良い医療を提供していきたいと改めて思った。また、病気の一部だけに焦点をあてるのではなく、患者という一人の人間として見ていくとともに、これからの医療をどうするべきか、ということも考え、積極的に発言できるような医療人になりたいと思った。	
茨城キリスト教大学	生と死の倫理	4年次	本人	サリドマイド	当事者の声を聴くことで、当事者の言葉でしか語り得ない経験や苦悩を知ることができる。	具体的な体験に基づく話を聴くことで、当事者の苦悩に関する理解が深まるほか、この問題に対する関心を持つ学生も多くみられている。	
獨協医科大学	生命倫理学	2年次	本人	サリドマイド薬害	学生には遠い話題となったサリドマイド事件の被害者の話を直接聞くことで、薬害の恐ろしさと看護専門職者としての責任を痛感する機会となっている。	学生には遠い話題となったサリドマイド事件の被害者の話を直接聞くことで、薬害の恐ろしさと看護専門職者としての責任を痛感する機会となっている。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上 げた薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
埼玉医科大学	病むことの心理	2年次	家族	イレッサ	学生が直接、当事者の方からお話を伺うことは、極めて大きな影響力を発揮しています。	学生はあらかじめ、予習をして講義に臨みます。また、翌週はグループに分かれてそれぞれテーマを設定して、ディスカッションを行い、PPTにまとめます。そして、翌々週には各グループの発表を行い、互いに評価しあいます。学生の発表内容から、学生たちが講師のお話をとおして、看護師が果たすべき役割について具体的に述べる事ができていると判断できます。	
大東文化大学	Daito 'Green' Ceremony -Reflection on a Nursing Journey-	3年次	本人	サリドマイ ド薬害 被害	1. 薬害被害の歴史的事実を知り、看護職者として薬害被害再発防止(医療安全)のために必要なこと学ぶことができる。特に、薬物に関する知識の必要性、安全な薬物療法実施のための技術、薬物療法を対象者へ説明できる必要性について学習できる。 2. 薬害被害者の声を直接聴き、病気や身体・精神・社会的な生活上の苦痛について、認知的・情意的に共感できる能力を養うことができる。 3. 後遺症がもたらす日常生活への影響とその支援のあり方について、看護職を目指すものとして学ぶことができる。 4. 薬害被害者や弁護士からの声を聴き、偏見や差別の実態と権利擁護の実際と重要性について具体的に学ぶことができる。	サリドマイド薬害被害について講演で初めて知ったという学生が多く、被害者の心情について深く考察する機会となった。特に薬害は薬そのものによって起こるのではなく、人によって起こることを薬に関わる全ての人々が認識する必要があること、そしてそのためには正しい理解が必要であり、薬物療法をする際には十分な説明をおこなうことの大切さを述べていた。また障害をもつ人々への対応の仕方など考える機会となり、薬害被害にとどまらず看護者としての倫理や看護について追究する学生が多かった。	複数の種類の薬害をテーマとすることで、薬害問題の多様性について理解を深めることができる。薬害の歴史を多面的に学修できることから、医療従事者を目指す者として、薬害再発防止、薬害被害によるスティグマや権利擁護などの意識をより高めることができると考えられる。
日本医療科学大学	臨床薬理学	1年次	本人	サリドマイ ド剤被害	日本における薬害の歴史などを、学ぶことができる。また、薬害被害の当事者より直接話を聞くことにより、被害者の置かれた立場や心理を共感的に理解できる機会となる。	単なる同情ではなく当事者自身の強さを知ることができた。薬害を根絶することの重要性を考えるきっかけとなった。人間にとっての「しあわせ」を考えるきっかけとなった。	講師が日本における薬害の歴史を含めて講演されており、薬害根絶に向けた患者組織についても、学ぶ機会となっている。
目白大学	総合看護学セミナー	4年次	本人	サリドマイ ド・C型 肝炎	当事者の体験談を直接聞くことにより薬害被害の重大さを強く認識し薬害防止に向けた取り組みを通して、将来看護職として働くうえで自分たちの役割を考えることができる。		

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
城西国際大学	公衆衛生看護学概論	2年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズのことを知らなかった、言葉として知っていてもこれほどひどいとは知らなかったと言う学生が多く、医療従事者ですら差別をしたという事実にも、学生は衝撃を受けた。	医療の専門職として、安全に支援を提供することが患者にとっての安心に繋がるのだと理解することが出来ました。また、患者は医師などの医療従事者に対して遠慮してしまう傾向があると知り、言いやすい環境づくりが必要になると思いました。今日のような機会が無いと学べないことが世の中にはいっぱいあって、今日の講義で自分の看護師像に良い影響を与えることが出来ました。教科書等では見たことがあったのですが、実際に話を聞くことは初めてだったので貴重な経験になりました。実際に薬害エイズ被害にあわれた方お話を聞くことは初めてだったため、とてもいい経験になりました。薬害を繰り返さないためにこの事実を受け止め予防に努めたいと思いました。	薬害を防ぐための医療従事者の役割を、繰り返し考えることが可能になる。
千葉科学大学	(薬学部で実施の講義を聴講)						
東京医療保健大学 (千葉看護学部)	臨床薬理学	2年次	本人	サリドマイド	授業担当講師は5年目の担当であり、当事者としての視点だけでなく、歴史的背景を踏まえた事実の説明が丁寧にある。それに加え、当事者および親族関係者の生き様が語られ、単に薬害の再発予防にむけた切実な思いのみならず、学生に看護専門職となることへの自覚を促す内容となっている。	事前の資料・生活の様子に関する動画視聴を経て、上肢短縮のあるご本人が障がい者仕様の車で来校し、下肢で額の汗をぬぐう姿もオープンにし、かつ、直接学生に語り掛けるように講演をしてくださった。学生は講師の熱意に引き込まれ、全員が講師をみつめて集中力高く受講していた。授業後のレポートでは薬害そのものをもっと深く知ろうとする記述や講師の生き様に触れたことで得られた自分の人生の苦悩への示唆もあり、さらに、薬害をもたらす側になったり、早期発見する上での看護専門職としての責任を考えたなどの記載が豊富にあった。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
和洋女子大学	成人看護援助論Ⅱ	2年次	本人	肝炎	薬害被害がもたらす影響や、それに立ち向かった歴史を薬害被害者の方の生の声で講義いただくので、学生が非常に真剣に受け止めており、学習効果が高い。また、医療がもたらす害やデメリットについては、普段の授業では取り上げることが少ないため、医療の危険性などについても考えることができる。	学生には受講後に課題レポートを課しているが、多くの学生が心を揺さぶられた内容や医療に対して、また、病の中で生きることについて等の感想や意見を寄せていた。	
共立女子大学	ヘルスアセスメント論	1年次	本人	薬害エイズ	当事者の方に直接お話をお聞きすることができるため、患者(当事者)の視点を疑似体験でき、よりリアルに捉えることができている。入院歴が長いため、医療従事者への患者側からの意見や感想もお話ししていただき、学生の持つ看護へのイメージが良い方向に変化している。講師の先生が非常に熱心で、事前に血友病に関する調べ学習を課し、事後に感想のレポートを課しているが、すべて目を通してコメントやフィードバックをしてくださっている。	講師の体験をお聞きすることで、薬害問題に対する興味を持ち、自己学習をするようになったり、内容に感動をしてよい看護が実践できるように学習に取り組みたいといったモチベーションの向上につながっている。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
駒沢女子大学	特別講義「薬害問題を語る」	4年次	本人	サリドマイド	<p>通常の授業では、薬害当事者からお話を伺う機会はほとんどないのが現状である。学生にとり、看護職を目指すものとして薬害とは何かを理解する貴重な体験となっている。特に、安易に薬を服用することで、自分ではなく子どもに影響を及ぼしてしまう怖さと悲しみを知り得たことは、将来、妊娠をする可能性がある女性として、また妊婦に関わるかもしれない看護職として、薬害は副作用ではなく人災であること、そして、障害があることで当事者の方が受けた差別や偏見の中で、「生きたいように生きてきた」と元気に明るく話される姿に「障害とともに生きること」の意味を考え、出来ないことが不幸ではないことを認識する重要な機会となっている。</p> <p>また、4年生前期の授業であったことから、看護を目指すものとして、患者中心の看護とは、寄り添うとは、医療者の正義とはなど、自分の看護観を見つめる絶好の機会となり、非常に有意義な授業になっていると考える。</p>	<p>・薬害は健康を奪うだけでなく人生を奪うという言葉の重みをととも感じました。お話の後半の方で、社会のシステムなどが私たちにとっては便利になるものでも、身体に何かしらの障害を抱えた方では不便になっている部分もあるという実際をしりました。こういった被害についてより目を向けるべきだと感じました。</p> <p>・薬害の影響で生まれてきただけでなく、壮絶な人生を歩まれたことを知り、薬害は人生そのものを狂わせてしまう恐ろしいものだと改めて感じました。また、セルフレジが増えていき、健常者である私や働く人にとっては楽になったものでも、増山さんのような障害がある方にとってはとても生きづらい世の中になってしまったと知り、日本で暮らす全員が生きやすく、暮らしやすい世の中になるにはまだまだ時間がかかると感じました。</p> <p>・薬害による被害を受けた方の直接のお話はやはり熱意が違く、科学的根拠を立証するのは被害の蓄積という言葉がととも心に来ました。人の命を実験に使うのは確かに被害が大きく多くの人でやるものではないと思いました。障害者にも優しい社会とはどんなものか改めて考えさせられました。</p> <p>・薬害について言葉や紙面上でしか自分は理解していないのだと改めて考えさせられました。どのようなことでもただ知識として養っておくというスタンスではなく、この問題に対してはどのような被害があつてどういうことが起きていたのか、その被害にあつてしまった方たちはどのような人生を送ってきたのかなどその背景を知り、そのような方たちと医療や看護を通して関わる際にどのようなことができるのかをまずは考える必要があると考えました。また、一医療者として客観的な視点で薬や医療ケアなどについて常にどのようなリスクがあるのか理解し対応できるようにしておくことや、疑問を持つという姿勢を大切にしていこうと考えました。など</p>	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
帝京科学大学	基礎看護技術Ⅲ (診療の補助技術)	2年次	本人	スティーブンス・ジョンソン症候群	薬物療法の援助の授業開始のタイミングで講義を計画しているため、薬物療法の安全について様々な立場になってこの問題を考える機会となっている。 当事者から講演いただくことで、学生に直接に薬害の状況や想いが伝わる。また医療従事者へ求められること、学生自身も被害者になりうることなど、身近な問題として捉えられている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市販薬など、これまでの自分の薬の使い方を見直そうと思った。 ・ドラッグストアで何気なく買った医薬品で薬害が起こることは本当に怖い、病院を受診して症状が改善するという希望を持っている中で起こる薬害は、患者の立場として本当に気をつけなければならないと感じた。 ・医薬品副作用被害救済制度について理解し、患者さんに周知していこうと思った。この制度は薬剤を正しく使用している場合が対象となるため、薬剤は十分な知識を得て正しく使用することが大切だと学んだ。 ・患者に薬物療法をする際は、投与した後の観察や患者の訴えに耳を傾けられるようになりたい。 	
東京有明医療大学	入門ゼミナール、基礎ゼミナール	1年次、2年次	本人	C型肝炎	<ul style="list-style-type: none"> ・被害の実態や偏見等について被害者自身から直接伺うことにより、被害者の気持ちに寄り添うことができる。 ・教科書や座学で得られる知識ではなく、生きた学びの機会として重要である。 ・看護師を目指す者としての医療倫理について考えさせることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本学では看護学科1・2年生合同で、B型肝炎とC型肝炎の被害者の声を聞く講演を交互に実施している。それぞれの背景や被害の実態を知ることによって、幅広く薬害問題を考えることができる。
東京医療学院大学	看護倫理学	4年次	本人	サリドマイド	対象者の体験をうかがうことにより実際のご苦労や世間の対応について実感できる。また障害のある人への学生自身の態度を振り返るきっかけになる。 薬害被害について理解することができ、薬の承認過程などの重要性が実感できる	<ul style="list-style-type: none"> ・学生は講義を真剣に聞き入り、障害者に対する対応を振り返り、自身の態度を変えようと考えていた。また医療事故を未然に防ぐ必要性についても考えるきっかけになったと感想を述べていた。 ・講師から「自分を認めることは相手を認めること」という話を伺い、自分を受け入れることの重要性に気づいた学生もいた。 ・本学は助産師養成課程もあるため、サリドマイド被害について深く考えた学生もいた。 	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
東京医療保健大学 (医療保健学部看護学科)	臨床薬理学	1年次	本人	輸入血液製剤	代表的疾患・治療薬ならびに予防薬の作用について学習しているが、国・企業の対応、差別・偏見等について薬害被害者(家族)の方の話を伺うことで、被害状況を理解し、被害者の方が看護師に何を求めるか等を聞くことができ、患者・被害者(家族)の方の権利や医療安全(対策)についての重要性を改めて考える機会となっている。	将来看護師を目指す学生にとって、薬害被害者の方のお話を直接伺えることで、薬害について考える貴重な時間となっている。	
東京慈恵会医科大学	看護と倫理	2年次	本人	サリドマイド	当事者から直接体験を聞かせていただくことで、学生は被害者の苦痛、置かれた状況をよく理解できる。	人間の尊厳、相手の立場に立つ難しさを自覚した上で、対象が置かれている立場や考えを理解することの重要性を理解する。	
東京女子医科大学	薬理学	2年次	本人	HIV・HCV	当該授業は薬害被害者による講義形式で行う。薬害を二度と繰り返さないためには自らが医療従事者としてどのようにすればよいのか、患者や家族との信頼関係をどのように築いていくのかなどについて学生が考えることを目的としている。薬害被害者の話を直接聞いた上で、同様の背景にある患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを自発的に考える中で、医療人としての使命を強く意識させることができる。		HIV/HCV重複感染の方から講義いただいている。重複感染患者の治療の難しさを知った上で、患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを本学の理念である至誠と愛に沿って自発的に考え、医療人としての使命を強く意識させることができる。
武蔵野大学	薬効安全性学(薬学部)	3年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の話を直接聴くことにより、学生は薬剤師の役割や責任を実感し、薬害を起こしてはならないことを肝に銘じることが出来た。薬害被害者の声を聴く会では他学部の学生についても聴講可としている。	学生全員からの感想文では、被害者のみならず、家族の生活や人生への影響の大きさ、被害が薬によるものと認められるまでの苦労について知り、医療に携わる人間の責任の重さを痛感したなどの感想が多かった。何故薬害が起こるのか、その原因をしっかりと認識した上で、医療に携わりたいとする意見も多かった。	現在の様々な規制が何故定められているのか、その経緯や背景を複数の薬害被害者の声を通じて知る事が出来た事は重要である。これらの講演会を通じて学生の医薬品に対する意識が変わり、その責任を自覚する機会となっている。
関東学院大学	基礎看護技術Ⅲ	2年次	本人	C型肝炎	看護師を目指す学生として薬害について学びを深め、患者の服薬に関する状況の観察について重要性がわかる		

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
湘南医療大学	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド	薬害について、身近に感じることができる。	近年はサリドマイドの新たな発症はないため、被害者本人から話を聞くことで、「本当にあったこと」という真剣さが見られた。	
昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	今年度のアンケートをまだ集計していないが、昨年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「薬害についての講義を聞き、薬害で苦しんでいる人々の思いや願いを知ることができました。医薬品は生命を救うこともあるけれど、奪うこともあるということを学び、使用に際しては細心の注意を払うことが重要だと感じました。また、使用開始前の患者・家族への説明においても副作用について十分に説明し、副作用が起こったとしても早急に対応できる体制を整えていく必要性を感じました。医師の志すものとして、患者さんやご家族に寄り添った治療をしていきたいと強く思いました。」	
横浜創英大学	看護管理学	3年次	本人	HIV薬害	講演及び障害の実際の状況を知ること、薬害について学生が深く考えることができること。通常の講義やグループワークでは学べない薬害についての知識を深められること。また、学生は、薬害問題は社会全体で考えることを認識できる。	紙面上では得られない生の声や生活上の障害を知ることによって、将来医療に携わることへの自覚が強化されたというリフレクションペーパーが多い。	
長岡崇徳大学	薬害講演会	1年次, 2年次, 3年次, 4年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の声を直接聞くことによって、医療従事者として薬害問題に関心を持たせることができる。		
新潟医療福祉大学	診療看護論演習	2年次	本人	サリドマイド	・被害者の生の声、薬害の歴史を学び、医療人としての心構えができる。 ・学内教員では講義できない内容であり、差別について、医療におけるリスクについて学んでいる。		

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上 げた薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
新潟青陵大学	生命倫理学	3年次	本人, 家 族	B型肝炎	有意義な点は、これまで学習してきた看護とは別のアドボケイトの役割に対する自覚を持つきっかけになっていること、患者や家族の苦悩を知ることで再発防止や支援の重要性を学んでいることである。	学生たちは、被害者の身体面、精神面、社会面にわたる苦悩を知り、今までの学習では感じたことのない感情を抱いている。「どうして防げなかったのか」「防ぐ機会はあったはずなのに、なぜ声をあげる看護師がいなかったのか」といった声や、「自分が医療職についたとき、勇気を持って患者のアドボケイトとして声をあげたい」という責任感を感じている。 また「現在行われている医療が果たして本当に正しいのかどうか」、「患者にとって有益なのかを常に考えたい」と最新の医療について学ぶ必要性について認識するきっかけにもなっている。	
金沢医科大学	薬害被害に関する講演会	3年次	本人	未定	薬害被害者の声を直接聞くことで、薬害被害について身近に感じ理解をより深めることができ、医療従事者としての責任について考える良い機会となる。		
朝日大学	「薬害被害者の声を聞く」特別講義	1年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の為害性や倫理観についても理解を深めることができる。看護の対象者の人権や看護師の役割、責任を考えるうえで、効果的な学修機会となる。	薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができた等の感想が聞かれた。また、講演の中の「幸せとは自分が感じるものであって、他人が考えることではない」との言葉が印象に残ったとの感想も聞かれた。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
中部大学	薬理学	1年次	本人	サリドマイド	<p>薬害被害者本人から実体験を聞くことで薬害がもたらした様々な問題について深く理解させることができる。また、ベッドサイドで患者に触れる機会が多い看護師が薬の副作用にいち早く気づくことの重要性を学生に理解させることができ、薬理学全体を通しての学習意欲向上にもつながる。また、薬害被害者として障害を抱えながらもひたむきに生きる被害者の姿が人間の生き様として、人生の先輩として、若い学生に勇気と感動を与えることにつながる。さらには、患者を守るという医療者としての自覚の涵養にもつながる。</p>	<p>「実際にヒトが服用してみないとわからなかった薬害ですが、日本は他の国に遅れること1ヶ月の販売停止でした。もっと対応が早ければ被害者は少なかったと思います。政府に限らず、早く気づいて早く対処することが大切だと思います。」 「患者の犠牲の上に医療があることを忘れないでほしい」とおっしゃっていたのがすごく印象に残っている。」「薬害」というのは”人災”であり原因薬が回収されるため避ける努力ができるが、「副作用」はそうはいかないと知った。」「看護師は薬を投与する機会が多くあるので、薬について詳しく学ばず薬を投与してしまうと知らないうちに加害者側になってしまう可能性があるので、薬についての知識を身につけておくことが大事だと考えた。」「新薬を販売するために多くの人が実験台にされ、患者の犠牲の上で成り立っているというのを聞いて驚いた」「アメリカに行って患者会などでできないことを考えるのではなく、こんなことができるということを教えてもらえる環境があったことで不安が少なくなり、同じように苦しむ人を増やしたくないという気持ちで今活動をしているということなので、自分も同じ病気や症状の人に寄り添っていけるような看護師になりたいという気持ちをもって目指していることを忘れずに勉強していきたいと思った。」「将来、看護師として、障害を持つ人や病気になってしまった人と関わるときに、その人たちができることを最大限に広げていけるような看護や、アイデアを考えられるようになりたいと思いました。」「増山さんが「被害者の蓄積が唯一の断定方法である。」とおっしゃっていたが、それはとても悲しいことだと感じた。」「医療が発展していくためには、少なからず被害を受ける方がいて、その上で医療が発展していくという話を聞き、覚悟を持って将来の夢である看護師を目指していこうと思った。」など</p>	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
豊橋創造大学	公衆衛生看護学概論	3年次	本人, 家族	B型肝炎	薬害被害者及びその家族の方から実体験を聞くことで、薬害がもたらした様々な問題について理解を深めることができる。 また、これから医療従事者を目指すものとして、求められる知識や態度、行動などを考える機会となり、専門職者としての責務への自覚が高まる。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。
鈴鹿医療科学大学	臨床薬理学	3年次	本人	スモン	医薬品情報の大切さ、医薬品適正使用の重要性、医薬品評価、副作用救済制度等における理解向上と看護師の役割についての認識が深まること期待できる。	講義後のアンケートにより被害者の声を直接聞き、医薬品情報の大切さについて意識・認識が深まっていると思う。	看護学科カリキュラムの中で、薬害については1年次選択科目「薬の役割・薬のできるまで」を受講し、3年必修科目臨床薬理学で薬害被害者の体験と救済制度を、そして今年度から4年次に特別講義としてHB型肝炎ウィルスの薬害被害・救済制度を学びを〇。このように学習機会を増やすことにより学習内容は強化され、看護の専門知識をもとにした薬害被害者の体験に関する理解が深まり、看護者として果たすべき役割がより具体的になる。
京都橘大学	キャリア開発演習Ⅳ	2年次	本人	血液製剤とAIDS他	講師に当事者の方を迎え、直接、話を伺うことによって、その具体的な体験や思いを聞くことができる。また、そこから自分の考えを深めることができる。	(前年度までの授業)薬害に関してHIVのみでなくほかの薬害に関しても触れて講義していただいた。その中で当事者である方やご家族の苦しみも直に講義を通して知ることができた。また、制度や保障に関してどのようなものがあるのかを知る機会を得た。これらを通して、患者さんやご家族と関わることが必要だと感じ、今後、医療者として、看護職としてどう対応する必要があるか等、考える機会となった。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
同志社女子大学	母子保健看護概論	2年次	家族	陣痛促進剤	薬害被害の視点から医療現場に潜むリスクについて理解を深める機会となった。さらに看護職に求められる知識や態度、行動を考える機会となり、専門職者としての責務への自覚につながった。	実施前につき不明だが、2022年度実施では、看護職(医療従事者)としての役割と医療の消費者として貴女がすべきことの2つの視点での感想を求めており、看護職としては、丁寧なインフォームドコンセント、薬剤の副作用や使用方法・適切な投与量を勉強する、薬剤投与などの治療目的と適応を考える、薬剤使用中や使用後の観察をしっかりする、患者様の訴えや気持ちに寄り添う、陣痛促進剤の事故についてもっと広く知られるべきだ、などの感想があった。一方、医療の消費者としては、疑問に思ったときは説明を求める、自分でも情報収集する、診療明細書でも行われた医療行為を確認する、納得して治療を受ける、お任せや受け身の患者にならない、セカンドオピニオンも活用する、薬剤の添付文書をしっかり読む、方が一薬害が生じた際には被害が拡大しないように働きかける、などの感想があった。	
佛教大学	(学部講演) 薬害に関する講演	1年次, 2年次	本人	血液製剤によるHIV感染	血液製剤によりHIVに感染した当事者の講演から、薬害・医療事故に遭遇した被害者の方々の実情を知り、再び薬害・医療事故被害を生じさせないために、医療の安全と人権擁護について学ぶことができる。これから各領域の実習が開始される前に受講することで、看護職者としての自覚や責任を促すことができる。		
四條畷学園大学	看護倫理	4年次	本人	未定	看護専門職としての倫理的責任と倫理的行動、倫理的問題に対する認識能力と感受性について、自らの実習経験をとおして考察することができる。		

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
摂南大学	看護倫理	4年次	家族	陣痛促進剤による薬害被害	薬害被害者の生の声は、看護学教育コアカリキュラムの内、A 看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-2) 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護、B 社会と看護学 B-2 社会システムと健康 B-2-2) 環境と健康 の習得に極めて強いインパクトを与え、学生のモチベーションが格段に向上すると考える。		
宝塚大学	公衆衛生学	2年次	本人	薬害エイズ	害エイズ問題の背景を知り、HIV訴訟の原告当事者から話を伺うことで患者の置かれた立場や苦悩、当時の時代背景を含めて深く学ぶ機会となった。医療従事者を目指す本学部の学生にとって、兼ね備えておかなければならない医療の史実に関することを学び、それを深めることができた。	HIV訴訟原告団長自らが語る言葉の重みと、薬害エイズや日本の血液行政について知らないことばかりであり驚愕と共に深い学びになった。看護師を目指す上で知ってくべき内容だと思った、といった感想が寄せられた。	
関西看護医療大学	感染と免疫	2年次	本人	B型肝炎	学生の倫理観につながるとともに、学習意欲の向上に役立っている。	厳しい現実を知り、医療従事者を目指すものの心構えを改めて痛感した。	
神戸女子大学	看護倫理	4年次	家族	陣痛促進剤 無痛分娩(麻酔薬)	ご自身が薬害被害者家族であり、長年にわたって薬害と医療事故に関する市民活動を実践してきた講師による、被害者としての体験を生声から理解できる。また、多くの薬害の事実薬害と医療事故に関する市民活動の実践について幅広く知り、看護職としての倫理について考えを深めるために、大変インパクトのある講義となっている。	卒業を間近に控えた4年生後期の看護倫理の授業において、薬害被害者家族の切実な思いと、薬害に関する多くの事実を知り、さらに被害者の立場から看護職に望む倫理的な感性や態度、倫理に基づく実践について学ぶことができた。数ヵ月後には看護師として実践の場に出る前にこの授業を受けることで、学生達は身の引き締まる思いを強くしていた。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
武庫川女子大学	成人看護学概論	1年次	本人	薬害筋短縮症	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の段階で薬害被害者の声を直接聞くことにより、薬害や薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、看護師になる者としての責任や課題意識を持って今後の学修に臨める。 ・学生の倫理観の醸成につながるとともに学習意欲の向上に役立つ。 	令和4年度に初めて上記授業を実施したが、その際の学生の反応・感想として、「これまで医師の指示や処方では絶対的に正しいものと認識していたが、指示を受け薬剤投与を行う看護師として、本当にその方にその薬剤が必要なのか、その投与方法が適切なのか、見極める必要があると思った」「おかしいと思ったこと、疑問に感じたことをそのままにせず、声に出していくことが大切だと思った」等が挙げられた。	
畿央大学	保健医療福祉システム論 I	4年次	家族	陣痛促進剤	薬害の被害に関する現状と問題点及び課題について当事者の立場から直接具体的な話を聞くことにより、薬害被害に対する問題意識が高まった。	<ul style="list-style-type: none"> ・陣痛促進剤がこのような薬害をもたらしていることを知らなかった。当事者家族のお話を聞くことができ、薬は良い効果をもたらすだけではなく、害になることもあるので、薬の効用と副反応、禁忌や投与方法などは看護師として、正しい知識を身につけていく必要があると感じた。 ・薬害によって様々な被害を受けた事例を聞くことはとても心苦しかったけれど、今後医療従事者になるにあたり、人の命に携わる職業という自覚をもち責任のある行動をとらなければならないと改めて考えることができた。どんな時でも患者様とその家族の立場を忘れず、一人一人の声に耳を傾けられる看護師になることが必要だとも感じた。 ・薬害の実情について学ぶ機会はなかったため、知らないことばかりだと思った。薬害の怖さや患者と家族に与える影響を医療職者として正しく理解しようと努めることが必要だと思った。 	
安田女子大学	まほろば教養ゼミ	4年次	本人	サリドマイド			
宇部フロンティア大学	特別授業 (薬害被害者講演会)	4年次	本人	HIV	薬害被害者に直接話を聞くことができ、薬害被害者となった経緯、思い、差別や偏見の実情など、被害者でなければ伝えることができない内容である	「貴重な体験であり、理解ができた(多数)」、「高度な知識や技術だけでなく寄り添うという人間だからこそできる行動についてもスキルを磨きたい。」、「医療者だけでなく、人から掛けてもらった言葉や行動で救われたことがわかった」といった声があった。	講義が4年生ということで、全ての関連科目が終わっているため、理解がすすんだと考えられる

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等 の名称	メリット (有意義な点・利点等)	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
久留米大学	生命・看護倫理	1年次	本人	サリドマイド	1. 薬害被害者に対するリアルな関心、心を寄せられるようになる。 2. 自己の健康管理への関心の向上	多くの学生が障害のある人の苦悩や不利益、その後の将来などに思いを寄せる必要性を感じ、共感以上に今後の看護職者として活かしていきたいと感じていました。	
産業医科大学	看護倫理学	2年次	本人	薬害エイズ事件	薬害被害の方の体験を拝聴することにより、看護専門職として、正確で丁寧なインフォームドコンセントの重要性、薬剤投与の目的・適応、使用方法・適切な投与量、副作用に対する学修の必要性、薬剤使用前・中・後の観察の重要性、患者の訴えや気持ちに寄り添うことで薬害の予防ができること、また専門職としての責務について理解が深まると考えます。 また、薬害エイズ問題が過去のものとなり、2歳前後の学生は、知らない、過去の問題となり風化しつつあり、さらに、ケアギバーの高齢化問題、未婚率の高さなど、これからの医療を人材には新たな課題が提示される。	昨年度は、講師がZoomで実施されたため、臨場感はあまりなかった。しかしながら、学生にとっては、薬害エイズの被害は過去の出来事であり、教育の必要性があることがわかった。本年度に関しては、開講時期が後期科目であることから、現時点では学生の反応についてのお答えはできません。	
福岡大学	薬のはたらきと薬物療法	2年次	本人	薬害C型肝炎	学生が医療者としての責任を自覚できる。また直接、薬害被害者の話を聴くことで、看護者として薬害が繰り返されないために、他人の痛みを自分の痛みとして感じる感性や想像力をもつことの重要性を認識でき、薬物投与における倫理的感受性を高めることができる。		
熊本保健科学大学	生命と倫理	4年次	本人	薬害C型肝炎(フィブリノゲン)	リアリティのある話として「薬害」を実感させていただく点である。「人の痛みを自分の痛みとして感じる」感性や想像力が養われる。	学生はみな大変真剣に聴講している。薬害の被害にあわれた方、また、そのご家族の苦しみ・悲しみ・怒りに深い同情の感を学生もいる。医療の安全性を確保するための努力を怠ってはならないという想いを深くしている。	聴講した学生が日本の薬害の実態について認識を持つことができる。学生は将来の医療人として、薬についての正しい知識が必要であることを身に染みて感じるができる。

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和5年度 薬学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○国立（14大学14学部）

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道大学	○	○	薬学概論、医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、医薬品開発論（薬学科）、医薬品開発論（薬科学科）、臨床薬学事前演習（薬学科）、薬事関連法規（薬学科）、薬事関連法規（薬科学科）、医薬品安全性学（薬学科）、医薬品安全性学（薬科学科）	薬学概論
2	東北大学	○	○	薬学概論2、薬理学3、衛生化学1	薬学概論2
3	千葉大学	○	○	専門職連携I、医療行政学、医療薬学II、医薬品臨床開発、基礎医療薬学	専門職連携I
4	東京大学	○	○	医薬品安全性学、医薬品情報学、医薬品評価科学	薬学特別講義
5	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
6	金沢大学	○	○	医薬保健学基礎II、薬学関係法規I、毒性学、医薬品安全性学、健康権と医療	医薬保健学基礎II、医薬品安全性学
7	京都大学	○	○	医療社会学	薬害再発防止のために薬害エイズの経験から
8	大阪大学	○	○	薬学入門1、薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、薬物治療演習1、現代の生命倫理・法・経済を考える	薬学入門3
9	岡山大学	○	○	医薬品開発学、臨床準備教育1、臨床準備教育5	臨床準備教育5
10	広島大学	○	○	医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬科学科）、薬学概論（薬学科）、薬学概論（薬科学科）	患者志向型合宿勉強会
11	徳島大学	○	○	医療における人間学、基礎医療薬学、医薬品情報学、社会薬学、実務実習事前学習	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
12	九州大学	○	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	○	薬学概論II、医療倫理I、医療倫理II	薬学概論II
14	熊本大学	○	○	医療倫理学II	医療倫理学II

合計	1	2
行っている	14学部	14学部
検討中	0学部	0学部
行っていない	0学部	0学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○公立（5大学5学部）

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	岐阜薬科大学	○	○	医薬品安全性学、免疫学、公衆衛生学	医薬品安全性学
2	静岡県立大学	○	○	医薬品安全性学、薬物動態学I、薬剤学、毒性学、創薬科学	薬学講座
3	名古屋市立大学	○	○	医薬看連携地域参加型学習、薬学概論II、薬理学IV、薬理学II	医薬看連携地域参加型学習、薬理学II、薬理学IV
4	和歌山県立医科大学	○	×	毒性学、社会薬学演習、医療倫理	
5	山口東京理科大学	○	○	薬学倫理、医療安全学2	薬学倫理

合計	1	2
行っている	5学部	4学部
検討中	0学部	0学部
行っていない	0学部	1学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○私立（58大学60学部）

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道医療大学	○	○	基礎薬学概論、医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、医薬品安全、実務社会薬学複合演習	毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	○	医療倫理学、薬と社会、医薬品開発論、薬事関連法制論Ⅰ	薬と社会
3	青森大学	○	○	薬学概論Ⅰ、薬倫理学	薬倫理学
4	岩手医科大学	○	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度2	薬学入門、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	×	薬品毒性学、キャリア開発講座、医薬品安全性学、薬物管理概論、医療倫理入門、地域医療、薬事関連法規Ⅰ、薬学入門演習	※新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった
6	医療創生大学	○	×	健康と薬、イグナイト教育2B及びイグナイト教育3（合同）、薬事関係法規、医薬品開発概論、薬品安全性学、ファーマドリルファイナル（社会）	
7	奥羽大学	○	○	チーム医療学演習Ⅱ	チーム医療学演習Ⅱ
8	国際医療福祉大学	○	○	薬学概論、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	早期体験実習
9	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習（薬害講義）
10	高崎健康福祉大学	○	○	薬学と社会	薬学と社会
11	城西大学	○	○	病原微生物学、毒性学B、有機化学A、病態学A、栄養生理学、医薬品開発論、基礎有機化学、薬理学B、公衆衛生学	フレッシュマンセミナー（薬学）B
12	日本薬科大学	○	○	患者の安全と薬害防止、医薬品の安全性	患者の安全と薬害防止
13	城西国際大学	○	○	薬学概論、公衆衛生学、医療薬剤学Ⅱ、医薬品化学、毒性学、薬事関係法規	薬害エイズ事件の被害と現在・今後の課題
14	千葉科学大学	○	○	コミュニケーション、薬事関係法規、ヒューマニズムⅡ	コミュニケーション
15	帝京平成大学	○	○	薬学概論、フレッシュセミナーⅠA（薬剤師倫理）、医薬品の安全性	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師倫理）
16	東京理科大学	○	○	薬学入門（6年制）、薬学入門（4年制）、疾病と病態総論、医療安全学	薬学入門（6年制）、薬学入門（4年制）
17	東邦大学	○	○	薬事関係法規・制度Ⅰ、薬学入門、プレゼンテーション、ヒューマニズムⅣ、薬事関係法規・制度Ⅱ	薬学入門、ヒューマニズムⅣ
18	日本大学	○	○	早期臨床体験、法学入門、医療倫理、医療と法、健康リスク評価概論	早期臨床体験
19	北里大学	○	○	医薬品安全性学Ⅱ、医薬関連制度、薬事行政、薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習	薬と仕事Ⅱ
20	慶應義塾大学	○	○	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1、薬物治療学2、化学物質の生体影響	医療・薬剤師倫理
21	昭和大学	○	○	地域医療入門、生と死、薬剤師と医薬品に係る法規Ⅱ、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）	地域医療入門、生と死
22	昭和薬科大学	○	○	医薬品情報学、医療倫理学、医薬品の安全性	医薬品情報学、医療倫理学
23	東京薬科大学	○	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験、医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座	人間と薬学Ⅰ
24	星薬科大学	○	○	薬学の心構え、薬学と社会Ⅰ、疾患・有害事象の症候、医薬品開発と生産のながれ	薬学の心構え
25	武蔵野大学	○	○	病態学1、薬物療法学1、薬効安全性学、キャリアデザイン1	病態学1、薬効安全性学

NO	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
26	明治薬科大学	○	○	医療倫理、薬学と社会Ⅰ、レギュラトリーサイエンス、医薬品開発、臨床薬学基礎実習、事前実務実習、総合人文社会科学、医薬品管理学	総合人文社会科学
27	帝京大学	○	○	医療社会学、医療品安全性学	医薬品安全性学
28	湘南医療大学	○	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
29	横浜薬科大学	○	○	薬学概論、医療と法律、薬事関連法規・制度、医薬品情報学、医薬品副作用学、医療倫理学	薬学概論
30	岐阜医療科学大学	○	検討中	薬事関連法規、公衆衛生学、薬理学Ⅲ、薬学概論、医薬品副作用学	
31	新潟薬科大学	○	×	薬害・医療事故被害者から学ぶ	
32	北陸大学	○	○	医療人、早期体験学習、薬学と社会、臨床統計学、先端医薬概論、薬毒物代謝学	早期体験学習、臨床統計学
33	愛知学院大学	○	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、統合型学習	薬学概論、医薬品毒性学
34	金城学院大学	○	○	薬学概論(1)、基礎薬学演習(B)、衛生化学(2)、感染症学、薬事関係法規・制度	基礎薬学演習B
35	名城大学	○	○	薬剤師の使命Ⅰ	薬剤師の使命Ⅰ
36	鈴鹿医療科学大学	○	○	薬学への招待、治験・調剤学、薬の役割・薬のできるまで、基礎薬学演習、薬害・副作用学	薬学への招待、治験・調剤学
37	京都薬科大学	○	○	医療の担い手としてのこころ構えB、天然医薬品学B、医療薬学A、臨床情報学、医薬品開発論、薬事関連法規、漢方医療薬学	早期体験学習
38	同志社女子大学	○	○	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬の発明・発見史Ⅱ、病態生化学Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学	早期体験学習Ⅰ、医療安全性学
39	立命館大学	○	○	薬学概論、薬学応用演習	薬学応用演習
40	大阪大谷大学	○	○	医薬品開発学A、毒性学、薬学概論、医療情報薬学、医療倫理学演習	医療倫理学演習
41	大阪医科薬科大学	○	○	薬物治療学3、薬事関連法規・制度、コミュニティファーマシー、臨床導入学習2、医薬品安全性学、医薬品情報評価学、レギュラトリーサイエンス	多職種連携論3－医療倫理
42	近畿大学	○	○	生命倫理、薬学概論、医薬品情報学、医薬品連携学習、医療・薬事関係法規2	早期体験学習(薬害講演会)
43	摂南大学	○	○	生命倫理学、薬剤師になるために、患者安全、医薬品情報学、社会薬学	薬剤師になるために
44	神戸学院大学	○	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学
45	神戸薬科大学	○	○	薬学入門、社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習	社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習
46	兵庫医科大学	○	○	医薬品安全性学、新・医薬品開発学、アカデミックリテラシー、基礎有機化学1、有機化学1、新・医薬品化学	医薬品安全性学
47	姫路獨協大学	○	×	薬学概論、医療倫理、実務実習事前特別講義、薬物副作用論	※新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった
48	武庫川女子大学	○	○	初期演習Ⅱ(薬学科)、ヒューマニズム論Ⅰ(薬学科)、医薬品化学(薬学科)、医薬品開発論(薬学科)、臨床薬学基本実習Ⅰ(薬学科)、医薬品情報学(薬学科)、生命倫理学(健康生命薬科学科)、健康生命薬科学概論(健康生命薬科学科)	初期演習Ⅱ(薬害被害について)(薬学科)
49	就実大学	○	○	公衆衛生学、新薬開発論、薬学対話演習	薬学対話演習
50	広島国際大学	○	○	医薬品の開発と生産、病態と薬理総論、社会集団と健康、薬学と社会・薬事関係法規、医薬品情報	薬学へのいざない
51	福山大学	○	○	生命倫理	生命倫理
52	安田女子大学	○	○	薬剤師論Ⅰ、臨床薬剤学Ⅰ、臨床薬剤学Ⅱ、薬事関係法規、医薬品情報学Ⅰ、薬理学Ⅰ	薬害を知る(「まほろば教養ゼミ」内)
53	徳島文理大学	○	×	薬学概論、社会薬学、毒性学、がん疾患の薬物学	
54	徳島文理大学(香川薬学部)	○	○	医薬品安全性学、薬理遺伝学、医療倫理学	医療倫理学

N0	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
55	松山大学	○	○	薬剤師と医療、医療倫理1、社会の中の薬剤師、病原体としての微生物、臨床調剤、実践社会薬学	薬剤師と医療、医療倫理1
56	第一薬科大学	○	○	医療概論、生命・医療倫理学、早期臨床体験、薬事関係法規・制度	医療概論
57	福岡大学	○	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬学概論、薬事行政論	医薬品安全性学
58	長崎国際大学	○	○	薬事関係法規、医薬品情報論、裁判化学、薬学入門	薬学入門
59	崇城大学	○	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ	薬学概論
60	九州保健福祉大学	○	○	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ	薬学入門

合計	1	2
行っている	60学部	54学部
検討中	0学部	1学部
行っていない	0学部	5学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○国公立（77大学79学部）

合計	1	2
行っている	79学部	72学部
検討中	0学部	1学部
行っていない	0学部	6学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和5年度 薬学部）

- ①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名
 ②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

○国立（14大学14学部）

NO	大学名	①②両方	1に該当する授業科目名	2に該当する授業科目名
1	北海道大学	○	薬学概論、医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、医薬品開発論（薬学科）、医薬品開発論（薬科学科）、臨床薬学事前演習（薬学科）、薬事関連法規（薬学科）、薬事関連法規（薬科学科）、医薬品安全性学（薬学科）、医薬品安全性学（薬科学科）	薬学概論、医薬品開発論（薬学科）、医薬品開発論（薬科学科）
2	東北大学	○	薬学概論2、薬理学3	薬学概論2
3	千葉大学	○	専門職連携I、医療行政学、基礎医療薬学	専門職連携I
4	東京大学		医薬品安全性学、医薬品情報学、医薬品評価科学	
5	富山大学	○	医療学入門	医療学入門
6	金沢大学	○	医薬保健学基礎II、薬学関連法規I、毒性学、医薬品安全性学、健康権と医療	医薬保健学基礎II、薬学関連法規I、医薬品安全性学、健康権と医療
7	京都大学		医療社会学	
8	大阪大学	○	薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、薬物治療演習1、現代の生命倫理・法・経済を考える	薬物治療演習1、現代の生命倫理・法・経済を考える
9	岡山大学	○	医薬品開発学、臨床準備教育1、臨床準備教育5	医薬品開発学、臨床準備教育5
10	広島大学	○	医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬科学科）、薬学概論（薬学科）、薬学概論（薬科学科）	患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬科学科）、薬学概論（薬学科）、薬学概論（薬科学科）
11	徳島大学	○	医療における人間学、社会薬学	医療における人間学
12	九州大学	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	薬学概論II、医療倫理II	医療倫理II
14	熊本大学	○	医療倫理学II	医療倫理学II

①に該当する授業科目がある	14学部
②に該当する授業科目がある	12学部
①②両方該当する授業科目がある	12学部

1 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史に
 2 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○公立（5大学5学部）

NO	大学名	①②両方	1に該当する授業科目名	2に該当する授業科目名
1	岐阜薬科大学	○	医薬品安全性学、免疫学、公衆衛生学	医薬品安全性学
2	静岡県立大学	○	医薬品安全性学	医薬品安全性学
3	名古屋市立大学	○	医薬看連携地域参加型学習、薬学概論II、薬理学IV、薬理学IV、薬理学II	医薬看連携地域参加型学習、薬学概論II、薬理学IV、薬理学IV、薬理学II
4	和歌山県立医科大学	○	社会薬学演習、医療倫理	医療倫理
5	山口東京理科大学	○	薬学倫理、医療安全学2	薬学倫理、医療安全学2

①に該当する授業科目がある	5学部
②に該当する授業科目がある	5学部
①②両方該当する授業科目がある	5学部

1 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史に
 2 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○私立（58大学60学部）

NO	大学名	①②両方	1に該当する授業科目名	2に該当する授業科目名
1	北海道医療大学	○	基礎薬学概論、医療薬学概論、社会薬学I、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習	基礎薬学概論、医療薬学概論、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習

NO	大学名	①②両方	1に該当する授業科目名	2に該当する授業科目名
2	北海道科学大学	○	薬と社会	薬と社会
3	青森大学	○	薬学概論Ⅰ、薬倫理学	薬学概論Ⅰ、薬倫理学
4	岩手医科大学	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度2	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	薬品毒性学、キャリア開発講座、医療倫理入門、薬事関連法規Ⅰ、薬学入門演習	薬品毒性学、薬学入門演習
6	医療創生大学	○	イグナイト教育2B 及びイグナイト教育3（合同）、薬事関係法規、医薬品開発概論、薬品安全性学	イグナイト教育2B 及びイグナイト教育3（合同）、薬事関係法規、医薬品開発概論、薬品安全性学
7	奥羽大学	○	チーム医療学演習Ⅱ	チーム医療学演習Ⅱ
8	国際医療福祉大学	○	薬学概論、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	早期体験実習、薬学演習Ⅲ
9	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習、薬学概論
10	高崎健康福祉大学	○	薬学と社会	薬学と社会
11	城西大学	○	毒性学B	毒性学B
12	日本薬科大学	○	患者の安全と薬害防止	患者の安全と薬害防止
13	城西国際大学	○	薬学概論、公衆衛生学、医薬品化学、薬事関係法規	薬学概論、毒性学、薬事関係法規
14	千葉科学大学	○	コミュニケーション、薬事関係法規、ヒューマニズムⅡ	コミュニケーション、ヒューマニズムⅡ
15	帝京平成大学			
16	東京理科大学	○	薬学入門（6年制）、薬学入門（4年制）、疾病と病態総論、医療安全学	薬学入門（6年制）、薬学入門（4年制）
17	東邦大学	○	薬学入門、ヒューマニズムⅣ	薬学入門、プレゼンテーション、ヒューマニズムⅣ
18	日本大学	○	早期臨床体験、医療倫理、医療と法	早期臨床体験
19	北里大学	○	医薬品安全性学Ⅱ、医薬関連制度、薬事行政、薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習	薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習
20	慶應義塾大学	○	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1
21	昭和大学	○	地域医療入門、生と死、薬剤師と医薬品に係る法規Ⅱ、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）	地域医療入門、生と死、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）
22	昭和薬科大学	○	医薬品情報学、医療倫理学、医薬品の安全性	医薬品情報学、医療倫理学
23	東京薬科大学	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験、医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座	人間と薬学Ⅰ、医療倫理学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験
24	星薬科大学	○	薬学の心構え、薬学と社会Ⅰ、疾患・有害事象の症候、医薬品開発と生産のながれ	薬学の心構え、薬学と社会Ⅰ、疾患・有害事象の症候
25	武蔵野大学	○	病態学1、薬物療法学1、薬効安全性学、キャリアデザイン1	病態学1、薬物療法学1、薬効安全性学、キャリアデザイン1
26	明治薬科大学	○	医療倫理、薬学と社会Ⅰ、レギュラトリーサイエンス、医薬品開発、総合人文社会科学、医薬品管理学	総合人文社会科学
27	帝京大学	○	医療社会学、医薬品安全性学	医療社会学、医薬品安全性学
28	横浜薬科大学	○	薬学概論、医療と法律、薬事関連法規・制度、医薬品情報学、医薬品副作用学、医療倫理学	薬学概論、医療と法律、薬事関連法規・制度、医薬品情報学、医薬品副作用学、医療倫理学
29	湘南医療大学	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門
30	岐阜医療科学大学	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論
31	新潟薬科大学	○	薬害・医療事故被害者から学ぶ	薬害・医療事故被害者から学ぶ
32	北陸大学			早期体験学習、薬学と社会

NO	大学名	①②両方	1に該当する授業科目名	2に該当する授業科目名
33	愛知学院大学	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、統合型学習	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、統合型学習
34	金城学院大学	○	悪学概論(1)、基礎薬学演習(B)、衛生化学(2)、事関係法規・制度	悪学概論(1)、基礎薬学演習(B)、感染症学、薬事関係法規・制度
35	名城大学	○	薬剤師の使命Ⅰ	薬剤師の使命Ⅰ
36	鈴鹿医療科学大学	○	薬学への招待、治験・調剤学、薬の役割・薬のできるまで、基礎薬学演習、薬害・副作用学	薬学への招待、治験・調剤学、薬の役割・薬のできるまで、基礎薬学演習、薬害・副作用学
37	京都薬科大学	○	医療の担い手としてのこころ構えB、臨床情報学、医薬開発論、薬事関連法規	臨床情報学、医薬開発論
38	同志社女子大学	○	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬の発明・発見史Ⅱ、病態生化学Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬の発明・発見史Ⅱ、病態生化学Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学
39	立命館大学	○	薬学概論、薬学応用演習	薬学概論、薬学応用演習
40	大阪大谷大学	○	医薬品開発学A、毒性学、医療情報薬学、医療倫理学演習	医薬品開発学A、毒性学、医療情報薬学、医療倫理学演習
41	大阪医科薬科大学	○	薬物治療学3、医薬品安全性学、医薬品情報評価学	医薬品情報評価学
42	近畿大学	○	生命倫理	生命倫理
43	摂南大学	○	生命倫理学、薬剤師になるために、患者安全、医薬品情報学、社会薬学	生命倫理学、薬剤師になるために、患者安全、医薬品情報学
44	神戸学院大学	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学、ヒューマニズム
45	神戸薬科大学	○	薬学入門、社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習	薬学入門、社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習
46	兵庫医療大学	○	医薬品安全性学、新・医薬品開発学、アカデミックリテラシー、基礎有機化学1、有機化学1、新・医薬品化学	医薬品安全性学
47	姫路獨協大学	○	薬学概論、実務実習事前特別講義、薬物副作用論	医療倫理、実務実習事前特別講義、薬物副作用論
48	武庫川女子大学	○	初期演習Ⅱ(薬学科)、ヒューマニズム論Ⅰ(薬学科)、医薬品化学(薬学科)、医薬品情報学(薬学科)、生命倫理学(健康生命薬科学科)、健康生命薬科学概論(健康生命薬科学科)	初期演習Ⅱ(薬学科)、ヒューマニズム論Ⅰ(薬学科)、生命倫理学(健康生命薬科学科)
49	就実大学	○	薬学対話演習	薬学対話演習
50	広島国際大学		医薬品の開発と生産、医薬品情報	
51	福山大学	○	生命倫理	生命倫理
52	安田女子大学	○	臨床薬剤学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ
53	徳島文理大学	○	薬学概論、社会薬学	薬学概論
54	徳島文理大学(香川薬学部)	○	医薬品安全性学、薬理遺伝学、医療倫理学	医薬品安全性学、医療倫理学
55	松山大学	○	薬剤師と医療、医療倫理1、社会の中の薬剤師、病原体としての微生物、実践社会薬学	薬剤師と医療、医療倫理1、社会の中の薬剤師、実践社会薬学
56	第一薬科大学	○	医療概論、生命・医療倫理学、薬事関係法規・制度	医療概論
57	福岡大学	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学、医療情報学、薬事行政論
58	長崎国際大学	○	薬事関係法規、医薬品情報論、裁判化学、薬学入門	裁判化学、薬学入門

NO	大学名	①②両方	1に該当する授業科目名	2に該当する授業科目名
59	崇城大学	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習 事前学習Ⅰ	薬学概論
60	九州保健福祉大学	○	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生 命倫理Ⅱ	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生 命倫理Ⅱ

①に該当する授業科目がある	58学部	1 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史に 2 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目
②に該当する授業科目がある	58学部	
①②両方該当する授業科目がある	57学部	

○国公立（77大学79学部）

設置者別	①②両方	1に該当する科目がある	2に該当する科目がある
国立	12学部	14学部	12学部
公立	5学部	5学部	5学部
私立	57学部	58学部	58学部
合計（国公私）	74学部	77学部	75学部

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講義等の実施状況（令和5年度 薬学部）

○国立（14大学14学部）

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
1	北海道大学	薬学概論	2年次	本人	サリドマイド スモン 薬学エイズ 薬害肝炎	講師は薬害被害者であると同時に、医学系大学の教員であり、科学的・医学的見地から講義をおこなっている。そのため、講義内容はより客観的で薬学を学ぶ学生向けに十分考慮されている。また、国・製薬会社との和解確認書により設立された「公益財団法人いしずえ(サリドマイド福祉センター)」の理事長でもあることから、情報が個人レベルに留まらず、豊富かつ有意義なものとなっている。	非常に良好であった。	講師は医学系の教員でもあることから、自身が被害を受けたサリドマイドに留まらず、種々の薬害について、医学的な見地により講義を実施している。そのため、薬学を学ぶ学生向けに考慮された内容となっており、医薬品リスク管理を知るうえで有意義な講義となっている。
2	東北大学	薬学概論2	2年次	本人	HIV	薬害による後遺症が、その後の本人と家族の人生に与えた影響の大きさを、本人からの言葉として伝えられたことで、薬害の原因、発生を防止するための仕組み、人の運命をも変える生物活性物質である薬に携わる医療人、研究者としての心構えについて真剣に考える貴重な機会になっている。	例年薬害講義を実施することにより、医薬品がもたらす負の部分に真摯に向き合い、医療倫理について深く考えたレポートが多く提出されている。優れた医療人材育成のためには、薬害を通じた倫理教育が大変重要であると感じている。	該当なし

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
3	千葉大学	専門職連携 I	1年次	本人	サリドマイド薬害	被害者の生の声を聴くことで薬害が人々にどのように影響するのかが具体的にわかり、薬学の役割についての理解が深まり問題意識が育成される。	<p>学生レポートに、事前学習で調べた際には、サリドマイドはつわり止めとして販売されたと書かれていたが、実際の被害者のお話を聞くと妊娠に気がつく前に使用された例が多いと聞いて、驚いた。複数の資料を見て調べるようにしていたが、やはり実際に体験した方のお話を聞かないとわからないこともあるのだと感じた。ネットで検索しただけで事件について全て理解したと思いたまないように注意したい。また、公害や薬物乱用については義務教育でしっかりと学ぶのに、薬害については学ぶ機会が少ないという意見には深く同意した。実際、高校の保健の授業でしか薬害について学んでいないので、将来薬害について広めていきたいと思った。「話を聞いて医療に携わる者として患者の視点に立つことの大切さを実感した。また、薬学部として薬害の話は深く受け止めなければいけないと感じ、これから薬と関わるにあたり、薬剤師としては患者さんと薬の最後の砦としての役割をしっかりと果たし、製薬の面ではしっかりと安全性と効果のはっきりとした新薬の開発ができるよう知識と患者中心の考え方を養っていきたい。サリドマイドの話では悪いのは薬だけでなくそこにかかわった人であるということが特に心に残り、過去の国や製薬会社、薬局の皆さんは繰り返してはならないもので、また使用する一般の人への教育も大切であると知り、私たちは今日学ぶことができたが、〇〇さんがおっしゃっていたように義務的に教育に組み込み、広く認知してほしいと思った。」などと書かれている。</p>	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
4	東京大学	薬学特別講義	3年次	本人	サリドマイド	薬害は教科書の知識で歴史上のことと理解している学生が多かったが、薬害被害者が直接真摯に語ることを聴き、将来創薬や医療に携わることの心構えに大きな影響を及ぼしている。このような機会は少ないので、選択科目(ただし、薬学科希望者は必修)であるが、ほとんどの学生が履修している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「薬は薬害の原因物質ではあるが、被害を起こすのはヒトである」という趣旨の言葉が最も印象に残っている。 ・薬害とはなにか、体に起きた異変以外に感じたことなどについてお話を伺うことができ、今後自分が薬の開発に携わることになるときは、より一層細心の注意を払って行う必要があるということを確認できた。 ・薬害は、行政・企業・医療現場それぞれの薬にまつわる事情によって有効性や安全性が軽視された結果であるため、過去の薬害の経験を忘れず、再発防止に努める必要があると思った。私は今のところ医療現場で働きたいと思っているため、患者さんの命を預かる覚悟を持って、正しく薬を使っていかなければならないと思った。 	複数種類の薬害について学習することにより、行政システム、マスコミ、アカデミア、製薬会社、社会背景に潜む、二次被害を含む薬害が生じる原因の共通した要因に気づき、より考察を深めることが出来る。
5	富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 5) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変よい。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	該当なし

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
6	金沢大学	①医薬保健学基礎Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド薬害	①被害者本人から語られることで、受講生が薬害を薬学領域における重要課題として真剣に捕らえることができる。	①受講生(1年生)の年代ではサリドマイド薬害のことを知っている人はわずかであり、はじめて知って驚いた、という反応が多く、またこのようなことが二度と起きないように自分が就いた職業で努力したいと感想を述べていた(昨年度全員に提出を求めた授業内容のレポートによる)。	①直接、被害者の声を聞くことにより、薬害に対してより理解が深まると考えられる。
		②医薬品安全性学	4年次	家族	イレッサ薬害	②イレッサは、薬害の原因とされているにもかかわらず、特定の遺伝子型を持つ非小細胞肺がんの第一選択薬でもある。即ち、他の薬害物質のほとんどは、社会から無くなっているが、イレッサは学生が社会に出た時、遭遇する医薬品なのである。その医薬品の副作用で家族を亡くした患者ご家族の話聞き、意見交換することは実社会で多くの医薬品を扱う場面で、副作用回避の重要性を認識させるためにも大いに意義深いと考える。	②例年、聴講生には、感想文を書かせている。全ての学生は、薬害患者の家族の話を聞く得難い経験をしたことに感謝すると同時に、このような薬害(副作用)を起こさない薬の開発や医療体制にしたい、との前向きな姿勢を述べている。	②薬害の種類による背景や経過、社会に与えた影響の違いに気づくことによってより深い理解が得られ、学んだ知識の応用力の涵養につながる。
7	京都大学	薬害再発防止のために薬害エイズの経験から	4年次	本人	薬害HIV	薬学教育モデル・コアカリキュラムのA 基本事項 (1) 薬剤師の使命において、「医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける」とあり、薬害、法律と制度という観点から講義だけではなく、実際に薬害被害者の方からの薬にまつわる過去と現在の問題点や薬剤師への希望と期待について生の声を聞くことで、薬剤師ならびに医薬品開発従事者の責任の重みを感じるとともに将来への励みに繋がった。		

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
8	大阪大学	薬学入門3	1年次	家族	MMRワクチン薬害事件	実際に薬害に遭われた患者の家族から、直にお話を伺うことで、より真摯に問題認識を共有できる。これにより、創薬研究を目指す学生は、より安全な薬品開発の必要性を実感し、その後研究に役立てることができると。また、臨床を目指す学生は、副作用の早期発見や重症化を防ぐことの必要性を痛感し、その後、臨床に臨む際の注意力を養う原動力となる。	副作用被害救済制度があることを初めて知った。医薬品の安全性確保について考えさせられた。	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
9	岡山大学	臨床準備教育5	4年次	本人	サリドマイド薬害	<p>薬害被害者の話を直接聴き、また薬害によって引き起こされた四肢の異常を直接目にする事で、数十年前の薬害が現在も被害者の健康と生活を蝕んでいることを、薬学を学ぶ学生、特に長期実務実習を目前に控えた4年次生に強く印象づけることが可能である。また、新たな本講義で、薬害被害者の話を直接聴かせ、また薬害により生じた四肢をはじめとする骨格や臓器異常を当事者が直接見せることで、数十年前の薬害が未だに被害者の健康と生活を蝕んでいることを、薬学や薬科学を学ぶ学生そして特に長期実務実習を控えた4年次生に強く印象づけることができ、そしてこうした講義内容が、彼ら彼女らに薬剤師としての使命・職責を自覚させる良い機会となっている。また、新たな薬害が今日でも生じており、また今後も生じ得ることを理解させ、薬害を未然に防ぐことや、万が一発生した場合でも被害拡大を抑止することの重要性を、学生に認識させることができる。これに加え、医薬品の安全性確保の重要性や適正使用の重要性、そして薬剤師としてそれを積極的に実践することの大切さについても、本講義を通じて理解させることができる。</p>	<p>毎年のことですが、講義を受けた学生からは「薬害被害者を初めてみました」「薬害被害は予想以上に激しく、ひどいものである」「薬害は起こしてはならない」との感想が挙げられます。薬害講義では、学生の率直な思いを知る目的で、講義レポートを講義終了直後に直ぐに書かせていますが、薬害によるアザラシ肢症（四肢形成異常症）を直接目にする事で、これまで現代社会とは無関係な遠い昔の話であると感じていた薬害が、急に身近で且つ重大な問題であることに気づくようです。</p>	<p>(現時点でお招きしている薬害被害者は、サリドマイドの薬害被害者の方のみである。)</p>

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
10	広島大学	患者志向型合宿 勉強会	3年次	本人	サリドマイド被害者、C型肝炎被害者、薬害エイズ被害者、陣痛促進剤被害者、MMRワクチン被害者、イレッサ被害者、ヤコブ被害者、スモン被害者	学生は薬害に遭われた方の姿を直接見て、生の声、特に精神的肉体的に様々な障害や困難を持ちながらも前向きに生きている話を聞くことができ、実体験に近い経験を得ることが可能であり、より強い使命感と倫理観を持つことができる。	薬害被害に関する考え方が変わった、患者さんの立場になって物事を考えることができる薬剤師・研究者になりたい、など。	薬害は、様々な薬害に同時に触れることにより、「薬害」という一つの言葉で括られるものではなく、各々の薬害で様々な背景、経過、困難な状況を抱えている現状があり、その一方で、薬害の原因には共通した人為的問題があることが理解できること。さらに、それに伴い、被害への対応については個々の観点が重要であるが、薬害発生の防止や根絶という観点では根本的な原因を排除する努力が必要であることを実体験に近いものとして得られる効果があると考えられる。
			3年次	家族	イレッサ被害者、ヤコブ被害者、薬害エイズ被害者			
11	徳島大学	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～	1年次			これから医療を志す新入生にとって非常に重要な内容である。将来、医療の担い手の一員である薬の専門家を目指している学生に対し、薬害が起きた原因、被害者及びその家族の痛みや苦しみ、国や製薬会社の対応など薬害に関する基本的知識を得ることができる。また、1年生を対象とすることにより、これから受ける薬学専門教育の意義を感じ、学習意欲を一層高めることができる。	薬の専門家となるための薬学専門教育に対する学習意欲の向上につながったと考えている。	薬学被害が起こる要因、被害者のおかれた立場・状況、行政や製薬会社の対応など、共通する事項や相違点を知り、薬害の実情を把握することができる。
12	九州大学	薬害	3年次	本人	サリドマイド エイズ C型肝炎 ヤコブ病 PMDA	大学教員、被害者の家族、被害者本人、行政官庁職員の計6名による講義、講演ならびに学生によるディスカッションを通して、被害者に寄り添い、薬害に対してより理解が進むことが期待される。	被害者の声を聞いて良かったという声が多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、より見識を深めることができる。
13	長崎大学	薬学概論Ⅱ	1年次	本人	C型肝炎	1年次生を対象に行うことで、早期に倫理観を養うことができる。薬学を学ぶモチベーションを高めることができる。	毎年、実施した際には、学生は真剣に講演を聞いている。講演に関するレポートでは、薬学を学ぶ上での心構えや、製薬企業、研究者の社会責任について触れることが多く、薬害を起こさないためにはどうあるべきかを常に意識して勉強する動機づけになっているようだ。	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
14	熊本大学	医療倫理学Ⅱ	3年次	本人	C型肝炎ウイルスで汚染したフィブリノゲン製剤による薬害	講師は、フィブリノゲン製剤で重篤な健康被害を受けましたが、その後、インターフェロン療法で健康を回復されました。薬の光と影の両面を体験された講師のお話は、創薬・育薬を目指す学生にとって貴重です。	講師のお話の後で、学生と意見交換を行い、学生から積極的で素直な意見が聴けます。さらに、講師のお話を参考に実施する小グループ討論では、講師のお話を反映した具体的な薬害防止策がでてきます。	

○公立（5大学5学部）

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
1	岐阜薬科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	HIV	医薬品開発の過程で、医薬品の安全性確保は有効性追求よりも重要であることを実例をもって知ることができる。 臨床現場における医薬品の適正使用において、副作用の確認の重要性を実例をもって知ることができる。 上記2項目から、薬学を学ぶ全ての学生に医薬品の安全性確保が最優先であることを認識させることができる。		
2	静岡県立大学	薬学講座	1-5年次	本人	薬害肝炎	実体験を聴くことで、薬学生として薬害を防ぎ、被害拡大防止、風評被害防止に取り組む責務を体感することができる。	講演終了後に感想を学生が提出し、講演者にも見てもらっているが、薬害に対する薬学部出身者の責務をひしひしと感じていると察せられる。	毎年、異なる薬害の被害者の講演を聴くことで、薬害を防ぐための心構え、行動力を多面的に修得できていると考えている。
3	名古屋市立大学	医薬看連携地域参加型学習	1年次	本人	薬害エイズ	直接被害者からお話を聞き、本当に苦労して生きてこられたこと、そして今も苦難の中にあることが実感として伝わる。治療で使用した医薬品がその方の生涯にわたって大きな影響を与え続けることを学生は実感し、薬学部の学生にとっては、医薬品の開発の意義と社会的貢献、それにとまなう責任についても考える良い機会になっている。	SMONなど古い薬害については、全く知らない学生も多く、インパクトがある	1年次、2年次、3年次に実施することで、継続的に学習できる
4	和歌山県立医科大学							

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
5	山口東京理科大学	薬学倫理	1年次	本人	HIV	<ul style="list-style-type: none"> ・直接薬学被害者の声を聞くことで、文献や資料から学ぶよりも学生にとって薬害を学ぶ貴重な機会となる点。 ・薬害を防ぐために、薬学生や薬剤師として何が出来るかを、学生のうちから考えることが出来る点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ過ちを繰り返さないよう、過去の薬害事件について学ぶ重要性を感じ、これから薬剤師になる上で予期せぬ薬害を少しでも減らすためには何をすべきか考えるよい機会となった。 ・患者さんにとっての薬の最後の砦としての、自覚をもち薬問題点についていち早く気がつくことが出来る薬剤師になる自覚が芽生えた。 	

○私立（58大学60学部）

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
1	北海道医療大学	毒性影響と評価	4年次	本人	サリドマイド	薬害の被害者であり、薬害研究の第一人者である講師の講義は、ある程度薬学的な知識も修得した実務実習前の4年生にはとても有意義な講義であると思われる。薬剤の審査過程の試験の意味だけではなく、限界も知りながら、実際にサリドマイド被害が起こった経緯などを学ぶことができ、また、副作用管理に携わる薬剤師の存在価値、さらに薬剤師としてどのようなことを意識して現場で働くべきかを考えるととても良い機会であるため、実務実習を意識しモチベーションを上げる効果もあると思われる。	「薬害と疑われる健康被害の情報を知ったとき、薬剤師あるいは薬の専門家として何が出来るかを考えてみよう」という課題について取り組むことで、現場を意識することができ、「モチベーションが上がった」、「自分なりの薬剤師像を考えるきっかけになった」という意見が多かった。また、薬剤師以外にも、研究者、医薬品の承認制度、社会的背景、社会的な問題に関する事例を知ることができ、幅広い視点で考えることができたという学生も多かった。	過去の薬害による健康被害の事例を踏まえ、医薬品の開発から承認制度、あるいは医薬品情報学や医薬品適正使用の観点から、市販後の育薬に関する薬剤師の活動を統合的に学修することができる。
		実務社会薬学複合演習	6年次	本人 家族	薬害エイズ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学では「薬害教育」に関して、それぞれ関連する授業において取り上げられてはいるものの、やはり被害者及びそのご家族の方から被害状況を実際に見聞きすることは、医薬品の安全性を知る意味からも非常に有意義なものであると考える。 2. 第6学年の学生は長期実務実習を終え、一通り薬学の専門知識を身につけており、薬害被害者による講演の機会を6年前期に設けることで、様々な側面から薬害について考察することができ、学生の関心度も非常に大きい。 		

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
2	北海道科学大学	薬と社会	3年次	本人	サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等	教員が薬害を学んで得た知識を基に講義するだけでなく、薬害被害者であり、支援活動を行っている講師が講義を行うことで、より確かな情報・被害者の実情を学生が学ぶことができる点。加えて、レポートの作成を通じて学生が今後の薬剤師職能を考える貴重な経験となっている。	レポートなどの提出物、グループ発表の中で、「薬害の恐ろしさ」、「薬害における薬剤師の責任」についてなど、様々な刺激を受けたことを感じている学生が散見された。	薬害は過去のものではなく、最近でも発生していることを知ることと、我が国でいかに多くの薬害が発生し、その原因の多くが早めに処置すれば被害の拡大を防止できた点などを知り、薬剤師になった時の薬害防止への意識向上とそのため行動に寄与するものと考えている。
3	青森大学	薬倫理学	3年次	本人	サリドマイド	講師自らの体験に基づく講義で、薬害の恐ろしさを実感できる。	使用回数が少なくても起こってしまう薬害の怖さを認識できた。	
4	岩手医科大学	薬学入門	1年次	本人	薬害エイズ	教科書を使った授業の内容より、本人からの声を聴かせることが重要。薬害が発生した背景とプロセス、薬害被害者の心身の苦痛、薬害訴訟の実態、薬害をなくすために必要な道義的・社会的・医学的観点について、体験者の生の声を通じて理解を深めることができる。また、なぜ薬害は起こったのかを深く考えることで人間の持つ様々な価値観や倫理観を養育し、医療者と患者双方の視点で医療について俯瞰的に考える姿勢を身に着けることも重要である。事例を通し、薬害が起きないためには何が必要かを討議させることで、多様な意見を共有し、様々な視点から問題解決へのアプローチを考える機会となる。	学生は熱心に聴講している。「全人的基礎講義」においては、薬害に負けず「いのちが守られる社会」の実現のために精力的に活動している講師の姿を目の当たりに、医療人を志すものとして薬害をなくすための学びと意識を持つことの重要性を強く認識したとの感想が例年寄せられている。講義後に川田氏のHPから活動を調べる学生や、同氏の著作を手にとる学生もいる。	薬害が及ぼす様々な被害を理解することができる。薬害には、外見などの分かりやすい部分に現れるものも、外見には影響せずとも体内の機能に深刻な障がいを残してしまうものもある。薬に係る者の一つのミスが、様々な形で、その人の生命と暮らしを壊してしまう可能性があるということを学ぶことができる。また、薬害が決して特殊な環境によって生まれるものではないということを理解することができる。
		医療倫理とヒューマニズム	4年次	本人	サリドマイド	「医療倫理とヒューマニズム」では、薬害が広まった経緯や、サリドマイドが他の疾患の治療薬になっていることを知り、複雑な思いを抱く学生もいる。本人からの問いかけに必死に答えようとする姿勢が多く、学生にみられ、真剣に話についていく姿があった。講演を通して、薬害は単なる副作用ではなくその背景には人災があったことを理解し、薬害に対する認識が変わっているようだ。		

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
5	東北医科薬科大学	※新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった						
6	医療創生大学							
7	奥羽大学	チーム医療学演習Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	医療の基本理念、特に医療倫理について深く考えさせる機会となり、学業の重要性、社会的責任を明確にする事により自己形成の一助となる。	レポートやディスカッションではそれなりの反応が感じられる。	
8	国際医療福祉大学	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	学生が被害者の生の声が聴けること。	被害者からの直接の声を聴くことに対して、多いに刺激を受けたようで、「将来、薬剤師を目指す自分にとって大変貴重な機会となった」などの意見があった。	
9	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	早期体験実習（薬害講義）	1年次	調整中	C型肝炎	「薬害肝炎」という一つのテーマで、講師の方に来学いただき、ご自身の体験、活動、未来へのメッセージをいただいた。学生からの質問にも丁寧に回答いただき、学生にはインパクトがある講義となったと思われる。さらにSGDでは薬害について討論し、グループごとに感じ取ったものをまとめて、発表し討論を行った。医療人になる学生が医療問題について最初に考える機会となり、大変有意義な内容であり、今後の薬学教育につながるものとする。	薬害について、さらに薬害被害者の方々についても、ほとんどの学生が初めて知ることが多かったと思われ、SGDの中で様々な意見・感想が出されていた。（一部下記に記載） ●薬剤師は被害者、加害者を作ってはいけないと分かった。 ●アメリカなど他国に比べ日本の対応が遅れたことは知らなかった。 ●C型肝炎は副作用だけでなく薬害によるものだと初めて知った。 ●薬害患者だけでなく、家族の精神的・経済的負担も大きいことがショックだった。 ●患者を優先するという責任感を持つことを大事にしたい。 ●薬害が繰り返されない未来にするため、立ち止まる勇気、人の痛みを自分の痛みとして感じる感性や想像力を持つことが大切であり必要だと思った。 薬害が及ぼす影響の大きさや、それに対して薬剤師が果たすべき責務があることを理解した感想が多かった。	
10	高崎健康福祉大学	薬学と社会	2年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の声を直接聞くことで、より知識・理解を深めることができる	「座学として学ぶ機会があったが、薬害被害者の『生の声』は聞いたことがなく、衝撃的であった。」「薬学に取り組む姿勢をあらためて考えさせられた。」等	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
11	城西大学	フレッシュマン セミナー（薬 学）B	1年次	本人	サリドマイド	薬剤師の使命を認識、患者目線 を理解（1年生）	1年生は多様な視線で薬害を考察できてお り、医薬品の安全性確保に対する意識の向 上がうかがえた。（令和4年実績）	実施していない
12	日本薬科大学	患者の安全と薬 害防止	3年次	本人	薬害肝炎（C型肝炎）	薬の持つ正の面である治療効果 ばかりではなく、負の面である ところの薬害問題にしっかりと 向き合っ学ぶ機会が得られる のは、学生にとって意義深いも のを感じる。実際の薬害被害者 による講演を聞いた学生は、そ の生々しい体験や歴史に触れて 一様に衝撃を受けるが、医療人 として必要な姿勢について真剣 に考える良いきっかけになって いる学生が多い。	学生の反応としては、実際に薬害の被害者 の方の話聞き、討論することにより薬害 に関する理解が深まったようである。特に 医療従事者を目指すものとして、学問の重 要性や責任というものを強く感じとり、薬 剤師になることへの自覚が促されたと考え ている。	
13	城西国際大学	薬害エイズ事件 の被害と現在・ 今後の課題	1年次	本人	薬害エイズ	実際に薬害被害者の生の声を拝 聴でき、1年生にとって薬の使用 がメリットだけでは無いことを 学習できました。	薬学生は医薬品使用のメリット、デメリッ トを学び、また、医療人ですら患者さんに 差別を行ってしまうこと、薬害の後遺症で 今でも苦しんでいる人がいること、現在で はチーム医療で患者さんを支えることが求 められていることなど様々なことを学ぶこ とが出来ました。	
14	千葉科学大学	コミュニケー ション	2年次	本人	薬害肝炎	実際に薬害被害者の話を聞くこ とで、薬害に対する認識をより 強く持つことができる。	薬害に対する認識をより強く持つことがで き、薬剤師になった時にそういった薬害被 害を回避するために何をすれば良いのかを 考えるようになった	
15	帝京平成大学	フレッシュセミ ナーI A（薬剤 師倫理）	1年次	本人	サリドマイド	他の授業よりも学生の印象に残 り、薬害を起こしてはならない という意識向上につながってい る。	健康被害が被害者とその家族の人生に与え る影響、薬のリスクについての理解が深 まっている。	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
16	東京理科大学	薬学入門 (6年制) 薬学入門 (4年制)	1年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の生の声を聞くことによって、薬害を知識としてではなく、薬害が人の命や人生、家族の絆に如何に重大な影響を及ぼすかを知り、薬剤師の使命の重大さを実感する。	毎年受講者全員に感想文を提出させているが、重大な障害を持った被害者を実際に目の前にするのが初めての学生がほとんどで、その姿と前向きな生き方についての講演内容に、衝撃的な感銘を受けた模様が記述されている。講演を聴いて、人の命を預かる薬剤師の使命の重大さを認識し、今後の勉学に取り組む糧にしたいと述べる学生がほとんどである。	
17	東邦大学	薬学入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害にあわれた方の意見・体験等を直接聴く機会を設けることで、倫理観と豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる医療人育成の一助となっている。	開講が6月の上旬と秋学期のため、学生の反応・感想については不明	学年を変えて複数の種類の薬害講演を聴く機会を設けることで、薬剤師としての持つべき倫理観を継続的に学ばせる機会となっている。
		ヒューマニズムIV	4年次	本人	サリドマイド			
18	日本大学	早期臨床体験	1年次	本人	サリドマイド	1年生を対象としており、今後、様々な薬に関する授業において、作用面とともに副作用面を強く考慮・意識することに役立っている。	実際の薬害患者に来て頂いているので、授業内容が強く印象に残るようである。また薬剤師になるための学習意欲、使命感及び責任感を高めている。	
19	北里大学	薬と仕事Ⅱ	2年次	本人	サリドマイド	①薬害ということに目を向けられるようになる。②薬は適切に使用し、対応しなければ害となり得ることを実際の被害を通して理解できる。③被害者ご本人が講演されることで、教員が講義するよりも説得力があり、薬害への認識が高まる。④いろいろな立場からの講義を聞く中で、被害者にも加害者にもなり得ることを実感できる。⑤薬害の起こった背景を理解し、これを繰り返さないように自分達ができることを考える機会となる。⑥医療に関わる上で必要な倫理観、命の重みを感じることができる。	①被害者の方は、いろいろなことをご存知であることに驚き、学習へのモチベーションが高まった。 ②被害者の方は、被害を受けたにもかかわらず前向きに活動されており、学生自身が生き方を改めて考える機会となっている。 ③大学に入るまで薬害についてほとんど知らなかった。中学、高校等、もっと早い段階から薬害の授業を取り入れるべき。	なし

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
20	慶應義塾大学	医療・薬剤師倫理	3年次	本人	サリドマイド 薬害エイズ スティーブン・ジョンソン症候群	これまで自分の中で想像していたこととは全く違う現実に直面し、薬害の被害の重大さに気づく。防げるはずのことをなぜできないのか、薬の研究開発に携わるものとして、あるいは患者に薬を渡す最後の医療者としての倫理観を考えることができる。さらに、薬学を学ぶ意味について改めて考え、主体的に学習するようになる。	学生は真剣に被害者の話を聴いており、被害者の生の声を真摯に受け止めている様子がワークシートへの記載やグループワークの様子からうかがえる。また、多くの学生が、授業アンケートの中でこのように患者から学ぶ授業の重要性について述べている。	学生は複数の種類の薬害について学ぶことで、個々の薬害の特徴をつかむとともに、薬害発生要因の本質を考えるようになる。
21	昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	・薬害被害者遺族の話聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている点。	今年度はまだ実施していないが、昨年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「薬害についての講義を聞き、薬害で苦しんでいる人々の思いや願いを知ることができました。医薬品は生命を救うこともあるけれど、奪うこともあるということを学び、使用に際しては細心の注意を払うことが重要だと感じました。また、使用開始前の患者・家族への説明においても副作用について十分に説明し、副作用が起こったとしても早急に対応できる体制を整えていく必要性を感じました。医師の志すものとして、患者さんやご家族に寄り添った治療をしていきたいと強く思いました。」	
		生と死	2年次	本人	サリドマイド	・将来、医療を担う薬学生として、医薬品を含む化学物質の有用性の影に潜む危険性を薬害被害者の体験談から学び、ヒトの生命に関わる職責の重大さを改めて認識するとともに、高い倫理観を醸成することにつながる点が期待される点。	医薬品の適正使用や薬害を起こさないために、学生としての学修の重要性や薬剤師としての心構えへの言及が多かった。また、障がい者に対する差別・偏見を持たないことの大切さや普段からのコミュニケーションにおいて気をつけるべきことを再認識した学生が多かった。	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
22	昭和薬科大学	医薬品情報学	4年次	家族	陣痛促進剤	<p>・薬害が発生した背景、構造は同じではなく、様々な要因が介在しているが、共通している点は生命倫理に対する軽視が伺われる点である。また、薬害は健康被害の面だけではなく、被害を受けた方に対する日常生活上の偏見も存在し、人権の尊重に対する教育の機会にもなる。</p> <p>・机上で勉強を行うことと、被害者の話を直接聞くことは、説得力が全く異なり、被害者や家族の立場にたって事実と向き合うことができる点。薬学出身者は将来薬に係る様々な仕事をする立場になるが、このような体験を通して、各々が薬害を繰り返さないという強い意志を有し、行動をすることに繋がる。</p>	<p>昨年度の講演には、B型肝炎被害者本人と、薬害担当の弁護士に来ていただいた。薬そのものでなく投与方法でも健康被害が広まった事を知らなかった、差別はいけないし差別されていると感じることの無い様にしなければいけない、などの感想が学生より寄せられ、被害者の方からの直接の講義の重要性が再確認されるものであった。</p>	<p>薬害が発生した背景や構造が異なっているので、薬害発生の多様な要因が身近なところにあることを学ぶことは学生にとって大変意義がある。</p>
		医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド スモン エイズ他			
23	東京薬科大学	人間と薬学 I	1年次	本人	サリドマイド	<p>実際に薬害にあわれた方の体験など直に聴くことにより薬害被害者やその家族の方の痛みを知ることができ、二度と同じ過ち(薬害)を起こさないための薬剤師の責任の再認識と社会制度づくりなどを考えるきっかけとしている。</p>	<p>実際の生の声を聴くことにより、薬の専門家ややがて指導者となる学生達に大きな印象、影響を与えている。薬の有効性と危険性の表裏一体であることを改めて実感し、薬を扱う薬剤師として責任感、知識、態度、倫理など再認識できたとの感想が多く聞かれた。</p>	
24	星薬科大学	薬学の心構え	1年次	本人	サリドマイド	<p>薬の専門家を目指す学生たちにとって、薬学被害者の実体験を聞くことにより薬剤師または医薬品開発者としての社会的責任を意識する良い機会である。</p>	<p>この授業を受けて、薬害についての深刻さを学び、しかもそれが度々起こっていることを知りがっかりした。薬害が起きる理由や被害拡大の理由に、事実の隠蔽があると思うので、隠匿をさせない必要を感じた。薬害事件について知る機会は今まで無く、悲惨実態にとっても驚いた。また、実際にサリドマイ薬害の被害者である講師の話を聞いて、もう二度とこのような事件は起こしてはならないと強く感じた等、レポート提出により反応や感想が得られた。</p>	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
25	武蔵野大学	病態学 1	2年次	本人	B型ウイルス性肝炎患者の現状	薬害被害者の話を直接聴くことにより、学生は薬剤師の役割や責任を実感し、薬害を起こしてはならないことを肝に銘じることが出来た。薬害被害者の声を聴く会では他学部の学生についても聴講可としている。	学生全員からの感想文では、被害者のみならず、家族の生活や人生への影響の大きさ、被害が薬によるものと認められるまでの苦労について知り、医療に携わる人間の責任の重さを痛感したなどの感想が多かった。何故薬害が起こるのか、その原因をしっかりと認識した上で、医療に携わりたいとする意見も多かった。	現在の様々な規制が何故定められているのか、その経緯や背景を複数の薬害被害者の声を通じて知る事が出来た事は重要である。これらの講演会を通じて学生の医薬品に対する意識が変わり、その責任を自覚する機会となっている。
		薬効安全性学	3年次	本人	サリドマイド薬害			
26	明治薬科大学	総合人文社会科学	6年次	本人	サリドマイド	アザラシ肢症を晒した講師のお姿から、サリドマイド薬害の酷さが目に焼き付けられるとともに、講師の言葉に深い説得力を感得することができた。	履修者全員にレポート(感想文)提出を課しているが、講師から生きる勇気をいただいたという趣旨の反応・感想などが特徴的である。学生感想文のうち、十数編を講師にフィードバックしている。	
27	帝京大学	医薬品安全性学	4年次	本人	SJS	学生の感想文を読むと、薬害や副作用被害については、授業で学んでいるものの、実際に被害にあわれた方の講演を聞くと、授業では具体的に伝わらなかった患者の苦しみ、仕事、家族など日常生活に与える影響について改めて医療者として薬害や副作用被害救済に努めなければならぬという気持ちが強くなるようである。特に、実務実習の直前という時期であることから、医療事故を決して起こしてはならないという決意を抱かせるために効果が強いと思われる。	まず、講演者に対する感想文を読むと、講演者へのいたわりと自分の経験を話してくれたことに関する感謝の気持ちが感じられる。グループセッションの結果、薬剤師の役割としてあがってくる意見は非常に多様であり、どれも実際の医療現場で必要なものが多い。特に、患者とのコミュニケーションや薬剤師以外の医療職の方々とのチームワークに関しては、その重要性に関して、改めて気づいたものも多いようである。	今年度患者の講演を行っているのは、SJSのみである。
28	横浜薬科大学	薬学概論	1年次	本人	サリドマイド	薬害についてほとんど知識のない学生も、講師の姿とサリドマイドをめぐる政府、会社、薬局、家族、友人等の態度等の話を聞くことにより、薬害の恐ろしさ、本人、家族の苦しみを知ることができ、薬害を学ぶものとしての責任について強く考える機会となる。		

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
29	湘南医療大学	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド SMON ソリブジン	これから薬学を学ぶ学生が、薬の功罪を知り、サリドマイド被害者から直接講義を受けることにより、今後の薬学の勉学姿勢に大きな影響を与えたと考える。	サリドマイド被害者にお会いするのが、初めてで薬がこのような奇形を引き起こすことへの驚きと二度とこのような薬害を起こしてはならないという思いを多くの学生が感じていた。	
30	岐阜医療科学大学							
31	新潟薬科大学							
32	北陸大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	日本ではこれまでに数多くの薬害事件が発生し、大きな社会問題となっている。薬学被害者から薬害の実態、被害状況や遺族への差別・偏見、国や製薬企業の対応について聴講できることは大変有意義である。	将来、薬剤師を志す者にとって、非常に有意義であり、社会的重要性も理解できたという毎年好評である。	
		臨床統計学	3年次	本人	サリドマイド			
33	愛知学院大学	薬学概論	1年次	本人	スモン	薬害被害者（ご家族）の方からの生の声を聞き、問題を提起してもらうことにより、単なる薬の副作用についてだけでなく薬害の問題点、将来の医療従事者としての心構えについて真剣に考えることができた。		薬害被害を受けた方から直接話を聞くことにより、薬の副作用が与える苦しみやその後の偏見についても知ることが出来、薬害の再発防止を強く意識付けすることができる。また、将来の薬剤師になるための動機付けにも効果があると思う。
		医薬品毒性学	4年次	本人	スモン			
34	金城学院大学	基礎薬学演習B	1年次	本人	C型肝炎ウイルス被害者	直接薬害被害者からの訴えに耳を傾けることで、薬害被害者の苦痛を理解し、回避することの重要性を認識させることが出来る。		
35	名城大学	薬剤師の使命 I	1年次	本人	C型肝炎	C型肝炎薬害被害者を招聘して薬害の原因や実態および薬害と社会との関係について理解を深める機会になる。	被害者に対する国・製薬企業の対応や被害者への差別や偏見の問題について知る機会になっている。薬害が身体だけでなく精神的にも様々な被害をおよぼすことをはじめで知ること、薬の専門家としての薬剤師の使命における薬害防止の大切さを理解するきっかけになっている。	この授業を通して、サリドマイド薬害、薬害スモン、薬害エイズ、ソリブジン薬害、薬害ヤコブの概要を紹介し薬剤師の使命の重要性について考えさせている。

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
36	鈴鹿医療科学大学	薬学への招待	1年次	本人	スモン	薬害や医療安全に関する講義や演習を通して、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性ならびに医薬品評価、副作用救済制度等に対する理解度が向上することを認識が深まることが期待できる。また、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の役割と使命について考えることができる。	講義後のアンケートの感想より、被害者の声を直接聞くことで、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性について学ぶことができた。また、薬害防止や医療安全に関する薬剤師の役割と使命についての考えを深め、意識づけの機会となった。	薬害被害の実態を直接聞き、薬害被害・差別偏見問題への理解を深める機会を設け、学年を跨ぎながら知識や認識を深めている。
		治験・調剤学	3年次	本人	スモン			
37	京都薬科大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	講義を傾聴することにより薬害を根絶するために医療人として薬剤師は「何をしなければならないのか」、「何を期待されているのか」を学ぶ。将来の医療人としての自覚を高めるとともに、「生命の尊厳」、「やさしさ、おもいやり」など豊かな人間性を涵養する。	薬害の被害者であるご本人の話聞くことによって、多くの学生から以下のような感想が寄せられ、将来、医療に携わるものとしての自覚と責任の重さを感じ取ってくれたようです。「患者を中心とした医療が提供できるように、薬剤師として、薬のスペシャリストとして、正しい行動をしていかなければならない。」「人の命を預かっていることを自覚し、責任を持って患者一人ひとりに寄り添う医療を心掛けたい。」「薬剤師は他人の生死に関わる立場にあることを自覚し、利益を求めず間違いや違和感に気づいたら声を上げていきたい。」「医療人としての責任感、その中でも薬剤師は薬の専門家として、より強い責任感を持つことが求められている。」「日々医療知識をアップデートし、患者の疑問や不安に真摯に対応・寄り添える薬剤師になりたい。」「患者の視点に立ち、正義の心をもって行動したい。」	実施していない。

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
38	同志社女子大学	早期体験学習 I	1年次	本人	血液製剤によるHIV感染	医薬品による有害作用の内容については繰り返し講義で触れているが、現実には被害者を目の当たりにすると、学生にとって、非常に強い当事者意識をもつこととなる。本学では、1年次の「早期体験学習」において、あまり専門知識を必要としない内容で、薬には負の面もありうるという事例として、4年次においては、実務実習を目前にした薬剤師の卵として、より専門的な面から、薬害被害者の方に実体験を語っていただいている。薬害の歴史について2コマで学修した後、薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の薬害を起こさない取り組みへの使命感が強まると考えられる。	例年、学生のレポートから、強い感銘を受けたことが伝わってくる。「早期体験学習」では、単純に「薬害というものがあるのだ」と初めて知ったという感想が多いが、4年次生では、実務実習の準備段階である事前学習の最中であり、より自分のこととして、また将来の薬剤師としての業務と直接結びつけた決意を表明する学生が多い。異なる薬害被害者の方からの発言で共通しているものの一つに、「薬害を防ぐのは薬剤師が最後の砦です」というものがあり、「薬害は行政や製薬会社の責任」とする安易な姿勢に流されず、これに向き合っ、当事者意識を強く持ったというレポートが数多く提出されることが印象深い。	薬害の種類によって、医学・薬学的専門知識が必要な場合と、問題の理解にはそれほど専門知識が必要ないものがあり、専門科目の進行度に合わせ、低学年・高学年にわけて行うことは、教育効果が高いと考えられる。また、一口に薬害と言っても、医学・薬学的問題以外に、社会学的問題などが関係して多種多様であり、それぞれについての理解を深めるには、講義ではカバーできない点も多く、できるだけ多くの例を紹介すべきだと考える。
		医療安全性学	4	本人	非加熱血液製剤によるHIV感染			
39	立命館大学	薬学応用演習	2年次	本人	サリドマイド、HIV、CJD、スモン、肝炎、筋短縮症	薬害被害者の方やご家族の苦痛について直接お話いただき、グループ学習に加わっていただくことで、学生の理解がより深まり、将来の医療人として二度と薬害が起こらないようにとの自覚が高まる。発表会にも薬害被害者の方が参加していただき、学生の発表に対してもコメントしていただいたので、有意義な会となっている。	学生から提出されたミニレポートより一部抜粋 ・多くのことを学べた ・更に理解が深まった ・事前の発表準備で担当の薬害について調べ、どのような被害があり、医療関係者が薬害を防ぐため何が出来るか考えていた。しかしお話を伺う中で、被害者や家族の方々は、実際に被害に遭っていない人には全てを押し量ることができない、苦痛や憤りを感じているとわかった。そして、薬害の根絶の重要性を痛感した。 他	薬害ごとにグループ分けし、各グループに薬害被害者の方や教員が入りグループ学習を行う。最後に発表会を行うことで共有しているため、効果的である。特に、薬害被害者の方々からのコメントは有意義である。

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
40	大阪大谷大学	医療倫理学演習	2年次	本人	スモン被害	<p>被害者及びその家族の声を直接お聴きすることは、将来医療従事者として医療の現場に出る薬学生たちにとってかけがえのない経験になると考える。また、医療の倫理的側面に目を向け、自分自身の倫理観や正義感、人間性を深めさせる上で非常に有効であり、薬学生として、単に知識や技術を修得すればよいのではないことを認識する機会となる。さらに、安全性を確保するための医薬品の開発及び供給に係るシステムやレギュレーション、救済の制度を含めた総合的な知識の修得、理解を促し、医療専門職としての薬剤師に求められることや、患者とそのご家族の真の救済のために果たすべき役割、社会的使命に対する自覚を促す契機となる。</p>	<p>例年通り、学生達の授業に取り組む姿勢は通常の授業より緊張感・真剣味が感じられ、質疑においても各講師の講演に対して深謝するところから始めるなど、課題や討論に真摯に向き合う態度が認められた。また今年度は、授業目的に則した薬害発生時に薬剤師に果たして欲しかった役割についての質問や、家族の経験に基づいた患者や家族の気持ちについての深い質問が出て、各講師との議論の遣り取りの深まりが見られ、例年以上の効果をもたらしたと考える。</p> <p>総合討論やレポートで学生から多く見られる意見や感想は、以下のようなものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の先生のお話を聞いて、事前の授業で学習した際には気づかなかったことや、深く理解できていなかったことを理解することができて、非常にためになった。 ・ ニキビを治したいとか、お腹の調子が悪いとか、誰にでも起こりうるささいな不調だったのに、薬を飲んだせいでスモンという重い神経障害を患うことになるとは、想像するだけで恐ろしかった。 ・ クスリはリスクを十分に理解し、対応を常に考えられる医療従事者になることで、副作用被害が薬害になる初期段階で対応し、被害を抑えられると考えた。 ・ 講師の先生は、医療関係者の方たちにはとにかく患者さんの話をよく聞いてほしいとおっしゃっていて、それは患者さんとしての貴重な意見だと思った。患者さんの話に耳をしっかりと傾けるといえるのは、やっぱり寄り添う気持ちがないとできないことだと思うし、自分も薬剤師になっただけで意識したい。そのために、コミュニケーションも今のうちから上手になりたいと思う。 <p>(次頁に続く)</p>	<p>前年度は、「筋拘縮症」(被害者)と「MRワクチン」(被害家族、PMDA運営評議会救済委員)の組み合わせで、新型コロナ禍中、講師(薬害被害者)の健康・安全・地理的な事由から、ZOOMによるリモート(Live)授業とのハイブリッド型で実施した。今年度は、「薬害SMON」(被害者)と「予防接種禍」(被害家族、元PMDA運営評議会救済委員)の組合せで、従来通り、総合討論を含め対面により実施した。</p> <p>本授業デザインの特徴は、薬害被害者とその家族という異なった視点からの話を拝聴し、総合的に討論できる点と、副作用被害者救済制度の普及・活用を含めた、多角的視点を与え討論できる点である。2回分の授業を同日・連続した授業として実施しているため、総合討論の際にも、学生からの質問に対しても複数の外部講師の意見を聴くことができ、学生に常に多角的視点を与えることができる点で効果的であると考えている。</p> <p>(次頁に続く)</p>

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
40	大阪大谷大学	医療倫理学演習	2年次	家族	MMRワクチン	(前頁と同様)	<p>・ 薬害の被害者やご家族にとって「真の救済」とは、医療従事者が親身になって被害者やご家族の話を書くことだと考える。私は、薬剤師を目指すものとして、患者さんにとって親身な薬剤師にならなければならないと、改めて気づかされた。</p> <p>・ 講演を聴く前は、薬害被害者の人々にとっての救済とは、社会全体が被害に遭われた人々を受け入れて支えていくことなのではないかと思っていたが、講演後ではその考えが少し変わった。どの人も、二度と薬害被害者を出してほしくない、同じようなことを繰り返してはいけないという思いがあるということが強く伝わってきた。そして、「販売を許可した国や製薬会社は薬害の被害者を救済すべきだ」という言葉を聞き、私が講演前に救済だと思っていたことは真の救済ではなく、当たり前なことなのだと思った。真の救済とは、薬害被害者の「二度と同じようなことは繰り返さないでほしい」という願いを叶えることなのではないか。</p> <p>・ 薬剤師においては医師にちゃんと意見できるように、昔はそうでなくとも、今はそれが求められている。薬剤師が勉強を続ける意味を考えて理解しなければならない。求められる役割を果たさなければならない。それを知ることが、私たち薬学生が薬剤師になるにあたり必要なことではないかと思う。</p> <p>・ 将来薬剤師を目指す薬学生として、医薬品副作用被害救済制度についてきちんと理解し、必要な患者さんに紹介できるようにならなければいけないと私は思いました。</p> <p>この他、とくに当時の製薬企業や行政、医師や学会の対応に対する憤りなど、学生たちの純粋な正義感を示す意見が多くみられた。</p>	<p>また、授業のテーマの課題である「薬害の防止や被害者及びその家族の（真の）救済において薬剤師はどのような責任や役割を果たしていくべきか。」という問いに対する解答及びヒントを求める機会を学生に与えることができる。一方、講師を務められる被害者及び家族からは、毎年、医療専門職となる学生たちが薬害の被害者の話に耳を傾け、薬害の背景について学び、真剣に議論・質疑する姿を目の当たりにする機会が得られたことに対して感謝する声をいただいている。このように、こうした教育活動への参画自体が、薬害被害者に対しても、他の啓蒙活動や被害者救済活動への参画とは違った格別の効果を有しており、重要な役割を果たしているものと思われる。</p>

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
41	大阪医科薬科大学	多職種連携論 3－医療倫理	3年次	家族	陣痛促進剤	周産期医療における薬害の実情を、陣痛促進剤の被害者家族の方から直接伝えてもらうことで、薬が両刃の剣として人間の生命と生活に大きな影響を及ぼすことを具体的に理解することができる。講師の切実な体験とそこから得た逞しい人生観、さらに薬と医療に対する真剣で前向きな意見を知ること、薬の持つ重みを確認することにも繋がる。学生一人ひとりが、薬剤師および薬のプロとしての自覚と責任を自ら培うために最適な教材となる。	薬害被害者の生身の姿と切実な声に触れることは、学生にとって衝撃的な体験であるようで、学生が被害者への心遣いを示すとともに、薬の重要性を発見して、薬のプロとなる自らの将来について構想していた。	当授業は3年次前期に実施するが、3年次後期の「医療と法」、4年次生の「制度経済」と「コミュニティ・ファーマシー」と連携することで、社会制度論的・地域医療的な観点を含む全人的視野で薬害と医療を捉え直すことができると期待される。5年次からの「病院実務実習」・「薬局実務実習」で患者1人ひとりと真摯に向き合うことの大切さを自覚するという点においても、当授業の波及効果は大きい。
42	近畿大学	早期体験学習 (薬害講演会)	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者本人から薬害による健康被害の実情や種々の苦しみ、また社会生活の現状について、直接、聞くことのできる機会は、将来、医療の担い手の一員として薬剤師を目指す学生が、社会において信頼される医療従事者となるべく実学教育を実施する上において、非常に有益である。	講師は「薬害の原因は何か」という問いに対し「人間である」と回答された。薬は原因物質にすぎず、その正しさ、安全性の確認をする人間にこそ責任があり、そこに原因があるということである。薬害が起こらないようにすることのできるのは、医療安全を管理する人間しかいない。今後、一切の薬害事件を引き起こさないために、私たちにできることは薬の知識と判断力をつけることであろう。フランシス・ケルシー女史のように「疑わしきことがあれば納得できるまで調べぬくこと」これが安全に薬を使用する上で最も重要であると考えている。(学生の感想より)	
43	摂南大学	薬剤師になるために	1年次	家族	陣痛促進剤被害	薬害被害者の生の声は、薬学教育コアカリキュラムの内、 A. 基本事項 (1) 薬剤師の使命 (2) 薬剤師に求められる倫理観 (3) 信頼関係の構築 B. 薬学と社会 (1) 人と社会に関わる薬剤師の習得に極めて強いインパクトを与え、学生のモチベーションが格段に向上した。	事前調査の時間を設け、調査課題をレポートとして提出させている。講義後のレポートから、薬害被害者の声を直接聴かせることにより、事前調査では十分に養えない「薬害被害者への偏見の問題」「命の大切さ」「薬の適正使用の重要性」「臨床に従事する心構え」等に対する学習意欲を効果的に涵養できたように感じられた。	

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
44	神戸学院大学	医療の中の薬学	2年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の方のご講演は、学生が、薬剤師のあり方や倫理規範等を考える上で大変貴重な機会になっていると思われま。また、学生が薬害被害者の方（または患者様）とふれあい、社会のニーズを肌で感じるにより、学生の学習モチベーションや、医療専門職としての自覚・責任感が向上していることが推察されます。	学生からは、概ね良好な反応が得られています。	さまざまな薬害について深く学ぶことは、医療職としての適正なかかわりを見出す上で、常にそれでよいのかという振返りの姿勢の元ともなっています。
45	神戸薬科大学	社会薬学Ⅱ	4年次	本人	Stevens - Johnson症候群	被害患者ならびにその家族の声を直接聞くことで、これまで事象として捉えていた薬害被害というものを学生自身が感じ取る機会となっている。それによって、学生がこれから目指す医療とは、医療人とは、を考察する良い動機づけとなっている。薬害の実態を聞くことによって、薬害防止のためには、薬を作る製薬会社、薬を承認する国、薬を処方し調剤する医師や薬剤師等の関係性や役割の違いを知ることができる。そのことによって薬剤師の果たすべき役割が明確になり、将来薬害が起こらない社会の実現に貢献できると考えられる。	新型コロナウイルス感染リスクのため、今年の講演会も昨年度同様オンラインでの実施となった。今までの生の迫力は少なくなるが、講演者の話に説得力があるので、対面とかわらない反応が期待できると思われる。なお、今年度の初期体験臨床実習の講演は対面となる予定であるので、学生の反応に期待したい。	該当なし
		初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド	被害者の話より、国民（消費者）としての関わりも理解でき、そのサポートを行うことができるようになる。（例えば、消費者が自分の薬に関心を持つ、国・製薬会社・医療機関の役割や行動に目を向け、それをチェックしたり制度を利用する等）		

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
46	兵庫医科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	スモン	学生が肌で感じる機会を提供することにより、教員から教わるのとは違った視点で問題を考えることができる。すなわち、薬害をより身近な問題として捉えることができ、薬害防止に関する意識の向上が期待できる。	学生は、非常に真剣な態度で講師の話に耳を傾けていた。講義後のレポート（感想文）では、副作用から薬害へ拡大を阻止することも薬剤師の職務であり、そのためには、患者や医療従事者との良好なコミュニケーションが大切であるとの意見・感想が多かった。	
47	姫路獨協大学	※新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった						
48	武庫川女子大学	初期演習II (薬害被害について) (薬学科)	1年次	未定	未定（来校いただける講師により変動する）	薬学部に通う学生が、過去の薬害についてその原因と社会的背景を学び、今後薬剤師として社会に貢献する時、薬害発生を未然に防止することは、薬剤師の社会に対する大きな責務の一つである。薬学を学ぶ初期の段階でこの点について学ぶ事は大変重要である。薬害被害の方から、実際の生のお声をお聞きする講演討論会を開催することは、将来、薬剤師となる学生にとって大変有意義であると考えられる。	2022年度実施の学生レポートより抜粋：何も知らずに被害にあった方のことを思うとすごく胸が苦しかった。診療明細書の義務化がこのような薬害を実際に受けた方達の活動の結果できたものであることを初めて知った。薬の知識だけでなく、過去にあった薬害と向き合うことの大切さを痛感した。薬害を起こすのは薬ではなく人が起こすものであるという言葉が心に残った。薬剤師がチーム医療の一員として疑問をもち決めつけず考えはっきり意見を発するべきだと思った。薬剤師が患者さんにとって安心できる存在になりたいと思った。	
49	就実大学	薬学対話演習	2年次	本人	陣痛促進剤	実際に薬害被害者の話を聞けるとともに、質疑応答によって当事者からの答えを直接得ることができる。	実際に話を聞いた、という経験が学びになったという声が多い。また、薬剤師を目指すに当たり、意識の持ち方のプラスになったという意見も多かった。	
50	広島国際大学	薬学へのいざない	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者が御自身の身体の不十分な状態を示されての講義となるため、学生は薬害問題をより深刻に受け止めることができる。	被害者の方からの直接のお話は、学生の感情にリアルに働きかけるようであり、薬害の恐ろしさを実感するとともに、薬害を起こした原因が人であるとの講義内容から、医療者となる者にとっての責任を大きく感じるとする感想が多い。	複数の問題を同時期に考える機会となるため、薬害は特殊な問題ではなく常に考慮しなければならない常在的な問題であることが自覚できる。
51	福山大学	生命倫理	3年次	本人	サリドマイド薬害	本学では3年生を対象とした講義であり、この学年から臨床現場も意識した授業を学び始めます。サリドマイド被害者の方から直接お話を聴くことにより、薬害に対して強く認識することができるのと同時に、「薬剤師として何をすべきか」を考え始める機会を得ることができていると考えております。	今年度はまだ実施していません。例年、サリドマイド被害者の方への敬意、薬剤師が薬害を知ることの大切さ、今後の自身が持つべき心構え、について言及した感想が多く見られます。医療や医薬品をデータの視点から評価するだけでなく、個人の思いや考え方を尊重することの必要性を認識した、という旨のコメントも複数得られています。	本学では、サリドマイド薬害被害者による講義の前後に、教員による他の薬害（スモン、ヤコブなど）に関する講義を行い、学生が薬害に関してより深く理解できるように授業計画を工夫しています。その結果、知識の蓄積とともに、自らがイメージしていたこととの相違も認識できた等の学習効果が得られています。

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
52	安田女子大学	薬害を知る (「まほろば教 養ゼミ」内)	3, 4, 5, 6年次 (5, 6年は特 別講演として 聴講)	本人	サリドマイド			
53	徳島文理大学							
54	徳島文理大学 (香川薬 学部)	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド薬害事 件	薬の効果について、あまり深く 意識せず過ごしている学生に、 薬はそれによって人の生命・健 康維持に大きく貢献している が、一方で使用を誤ると生命に 直接影響を及ぼすものであると いうことを深く印象付けること ができる。加えて、被害者自身 による講義は、薬剤師あるいは 薬の創製をめざす学生に、責任 ある職種であることの自覚喚起 をもたらすものである。	サリドマイド被害者を目の当たりにして、 本来人間の健康を守るはずの薬が、健康を 損ない、奇形を発生し、場合により死に至 ることを学生達は実感する。このサリドマ イドが多発性骨髄腫の治療薬として2008年 に日本で再び承認された事実を知り、驚き を隠せない様子である。しかし、サリドマ イドはハンセン氏病に伴う皮膚炎の治療薬 として既にアメリカで販売が承認されてお り、薬の持つ2面性と、これに係わる研究 者、製薬企業、薬剤師の倫理観の重要性を 改めて理解することができる。また、サリ ドマイドには光学異性体であるR体とS体 が存在し、R体に鎮静・催眠作用があること がわかったが、当時この分離法が成熟してい なかったため悲劇に繋がった。しかし、後 にR体も体内でS体に変化することやサリド マイド投与による動物種差が明らかになり、 この事件をきっかけに新薬の構造・物 性評価がより厳密に行われるようになった。 これにより、人類は貴重な教訓を得る ことになり、薬剤師として将来活躍する学 生にとっても薬害問題、創薬及び市販後調 査について真剣に考える機会を与える講義 となっている。	複数の薬害について被害者から 聞く授業を行っていない。

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
55	松山大学	薬剤師と医療	1年次	本人	サリドマイド	特別講師の実体験をもとに薬害について学べることは、医療機関等における体験学習などと同様に、直接的な関心・感動をもたらし、将来の医療人としての自覚を醸成する上で極めて有意義である。医療人としての自覚、薬の問題点に対する認識、副作用被害に対する国の制度に関する知識、薬剤師としての対応などについて低学年から学ぶことで薬学部で学ぶ意義を再認識し、勉学に対するモチベーションを高めることが出来る。	薬害を学ぶことの意義については、概ね肯定的な感想が得られている。たとえば、「実際の患者さんの話も聞きながら、薬害防止についても学べる貴重な体験をした。患者さんとのコミュニケーションや医師との連携を大切に、副作用が少しでも防げたら良い。薬剤師は患者様の体調や異変に気づき、適切な治療が受けられるように受診を勧めることが大切だ」との感想があった。さらに、「将来の薬剤師となる上で『決して薬害を起こしてはならない』という基本的な心構えが出来た」という感想もあった。さらに、2019年度より「医療倫理1」の授業が加わり、1年次2年次と続けて、異なる種類の薬害について学ぶことのメリットや、薬害被害者の講演に続けて、グループ・ディスカッションを行うことによりさらに理解が深まることへの肯定的な感想が寄せられている。	1年次と2年次と続けて、異なる種類の薬害について学ぶことにより薬害への理解が一層深まるとの感想は多くの学生から寄せられている。今後、医療人に必要な倫理観の効果的な養成に向けては、薬害に関連する授業科目（薬剤師と医療、医療倫理など）の進め方を統合的に企画して、薬学生に体系的かつ能動的に学習させることが有効であると感じられる。
56	第一薬科大学	医療概論	1年次	本人	サリドマイド C型肝炎	実体験を踏まえた講義を受けることにより、薬害に対する問題意識や薬剤師の使命・医療人との関わり等についてイメージしやすい。	実施前	実施後に検討する。
57	福岡大学	医薬品安全性学	3年次	本人	スモン	薬害被害者から薬害に関する生の声を聞くことによって、学生へ薬害について真剣に考える機会を与えることができる。そして、医薬品の適正使用における薬剤師の役割を理解し、医療、社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知ることができる。	薬害被害者の生の声を聞くことで、薬害について真剣に考えるようになった。そして、今後薬剤師として生きていく自身の責任の重さを痛感し、良質な医療人になることへの強い意識を見ることができた。	
58	長崎国際大学	薬学入門	1年次	本人	B型肝炎	まず弁護士の方に薬害に対する被害者団体の活動についてご説明いただき、次いで被害者ご自身に登壇していただき、ご自身の体験について語っていただいている。毎年、被害者団体・被害者の状況を生の声として学生に伝えていただいている。この講演は、薬剤師を目指す学生にとって有意義であり、学生も真剣に聞いている。薬害問題等、薬の負の部分の理解の一助になっている。	被害者本人の生の声、被害者や家族に関する意味の無い偏見を聞くことによって、薬害の真の意味の重大さと薬害を無くすためには、薬剤師として何をすべきかを考えさせる端緒となっている。	過去に、C型肝炎、スモン、HIV被害者やワクチン被害者の親等を招いて、講演をして頂いたが、内容によって反応は違う場合はあるが、薬学を学ぼうとする学生にとっては薬害の真の意味を理解するには一様に意義のある講演であると理解している。

NO	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
59	崇城大学	薬学概論	1年次	本人	C型肝炎	学生が薬害について関心を持ち、真剣に考えるようになった。	薬学概論8回の授業終了後に課されるレポートで、例年多くの学生が、上記授業内容に感銘を受けたという意見を書いている。	なし
60	九州保健福祉大学	薬学入門	1年次	本人	イレッサ薬害被害 HIV薬害被害 サリドマイド薬害被害	学生の薬害への関心・理解を深めることができる。また、将来薬剤師となったときに、薬の薬効について患者の意見を十分聞く大切さを理解させることができる。	(過去の授業で得られた反応・感想では)始めて薬害を理解できたことや薬剤師としての患者の症状を聞く大切さを理解したようである。また、薬剤師は科学者として症状を分析できる能力が必要であることを理解した学生もいる。	様々な薬害があり、多くの事例を知ることにより、薬の薬効に対する薬剤師としての判断が変わってくることに、常に副反応に注意を向けなければならないこと理解したようである。

令和5年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関する調査の集計結果(附属病院関係)

① 薬害被害者や医療被害者、全国薬害被害者団体連絡協議会の関係者を講師に招いた職員研修等の実施状況

(調査対象:42国立大学病院(医系本院))

令和元年度 14/42大学
 令和2年度 10/42大学
 令和3年度 12/42大学
 令和4年度 12/42大学
 令和5年度 7/42大学(令和5年7月時点での実施予定)

② カルテ開示請求の周知状況 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

カルテ開示請求ができる旨を周知している大学 81/81大学

③ カルテ開示請求の開示状況 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

請求者	令和2年度(令和2年4月～令和3年3月)				令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)				令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)			
	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数
	A=B+C+D	B	C	D	E=F+G+H	F	G	H	I=J+K+L	J	K	L
患者本人 (法定代理人を含む)	4,598	4,423	134	41	4,898	4,715	167	16	5,044	4,865	157	22
家族	651	629	18	4	616	596	17	3	667	651	15	1
遺族	845	804	38	3	866	820	44	2	890	848	40	2
代理人(弁護士等)	2,680	2,505	171	4	2,841	2,607	231	3	3,212	2,936	272	4
その他	932	930	2	0	962	961	1	0	1,007	960	47	0
合計	9,706	9,291	363	52	10,183	9,699	460	24	10,820	10,260	531	29

※未確定件数とは、開示に必要な手続きが完了していない件数である。

④ カルテの開示手数料及びコピー代 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

(1) カルテの開示手数料(税込)

	無料	1,000円～	2,000円～	3,000円～	4,000円～	5,000円～
国立大学病院	(42) 42					
公立大学病院	(8) 8					
私立大学病院	(2) 2	(1) 1	(2) 2	(12) 11	(1) 2	(13) 13

(上段:令和4年度)
下段:令和5年度

(2) 白黒コピー代(1枚あたり)(税込)

	無料(※)	10円～	20円～	30円～	40円～	50円～
国立大学病院		(1) 1	(34) 34	(5) 5	(1) 1	(1) 1
公立大学病院		(7) 6	(1) 2			
私立大学病院	(2) 2	(8) 8	(10) 10	(4) 4	(1) 1	(6) 6

(上段:令和4年度)
下段:令和5年度

※ カルテ開示手数料に含まれるため、コピー代のみの価格設定なし